

テ其貨物ヲ取戻サント定ムル者アリ然レモ是レ一時融通ヲ得ルノ方  
 法ニシテ或ハ大害ヲ致ス者ナレハヨク注意シテ此方法ヲ採用ス可シ  
 賣拂手形ノ尤モ多ク用ヒラル、所ハ家屋ノ置付ケ物、道具ノ賣買、鋪店  
 ノ財本ノ賣買又ハ商賈ノ中ニ於テ買客ノ愛顧ノ賣買按スルニ俗ニ代替  
テ類ナ 役原語ヲフ非スニテ英國ノ律例ニ於テ無形遺產ノ賣買等ナリ然レ  
 其尤モ要用ナルハ船ノ所有權ノ讓渡シヨ在リ蓋シ船ノ所有權ニ數  
 箇ノ株ニ分テテ之ヲ持ツモノナレハ一部分ノ所有權ヲ賣買スル時ニ  
 併セテ船ヲ渡スヲ能ハサレハナリ  
 負債者浮産類ノ家財ヲ賣却スルニ隱密賣拂手形ナル者ヲ以テ奸計ヲ  
 債主ニ施スヲアリ負債者ハ賣拂手形ヲ以テ家財賣拂ノ約束ヲ爲スト  
 雖モ固ト隱密ニナシタルヲ以テ其事世間ニ流布セズ自カラ家道優隆  
 ニシテ財貨ニ富ムノ外形ヲ粧フヲ得又斯ノ如キノ賣拂手形ヲ與ヘ

テシタル人即チ手形所持人ハ其賣拂人分散人ト成ル時其他ノ債主ヲ  
 拒ミテ己レ一人其財産ヲ掌握スルノ權ヲ得ルノ奸計ナリ右ノ如キノ  
 同謀ノ奸計ヲ除ンガ爲メニウヰトリヤ女王十七年八年ノ決議ニ定  
 メテ曰ク凡ソ賣拂手形ハ本書又ハ其副本及ヒ附加シタル別紙類其手  
 形ヲ裁スル時ノ立會人ノ署名ノ副本並ニ其手形ヲ裁シタル時日ヲ具  
 陳シタル誓書及ヒ之ヲ付與シタル人ノ住所業體ノ明細書ヲハ其手形  
 ヲ裁シタル日ヨリ二十一日内ニシテ申スベシト廳ノ案件略記並ニ裁判  
 掛リノ書記ニ差出シテ綴込マシメ凡テ浮産類ノ財貨ニ付キテノ訴訟  
 ニ於テ商人ヨリ交附シタル代理委任狀ヲ綴込ムト同一ノ式ヲ經サレ  
 ハ其賣拂手形ハ其効ナキモノト爲ス可シ  
 右ノ決議第二節ニ據ルニ凡ソ賣拂手形ノ十全ノモノニ非ラスシテ取  
 消シ約條其他ノ約條又ハ「寄託ノ明言」ヲ以テ限制セラル、者ハ賣拂手

デクレインヨシトウスト



形ト同一ノ洋紙又ハ羊皮紙ニ其趣ヲ記入ス可シト云ヘリ。〇廳ノ役人ハ一冊ノ帳簿ヲ作リテ各賣拂手形ノ明細書ヲ登錄シ人々一「シルリ」グ」ヲ納ムレハ之ヲ搜索スルヲ許ス。〇役人ハ賣拂手形一通ヲ綴込ム毎ニ「シルリ」グ」ノ禮金ヲ得ルノ權アリ但シ其賣拂手形ヲ辨解スルノ任責アリ。〇官用ノ副本又ハ抄録ハ判文ノ副本ト同一ノ代料ヲ納ムル者ニハ之ヲ渡ス可シ。已上第三節第四節ニ出ツ。

賣拂手形條例ハウキトリヤ女王二十九年三十年ノ決議第九十六篇ヲ以テ之ヲ改正シタリ。舊テ千八百六十六年ノ新條例即チ右ノ決ニ據ルニ「手形又ハ副本ノ綴込」ト云フハ賣拂手形注簿ト同一ノ義ト定メテル而シテ千八百五十四年ノ決議ニ照準シタル賣拂手形ノ注簿ハ其契約ノ保證ノ未タ取消シト成ラサル間ハ最初注簿ノ日ヨリ五箇年毎ニ一回之ヲ改メテ注簿ス可シ。若シ改メテ注簿セサルハ其間ニ効ナキ者インデレツアル

トナル但シ千八百六十七年第一月前ニ五箇年ニ滿チタル分ニ限リテ其再注簿ノ時ヲ精密ニ問ハス。只千八百六十七年第一月前ニ係ラハ則チ其手形ヲ實正ノモノト爲ス可シ。〇其決議ノ第五節ニ據ルニ改メテ注簿スルトハ「シ」キ「ン」ズ「ベ」ン「テ」廳中ニ在ル典書官ノ役所ニ誓書ヲ綴込ニテ其手形ノ日附ケ並ニ雙方ノ姓名住所業體ヲ具陳シ且ツ契約ノ保證未タ取消シトナラサルヲ申報スルヲ謂フナリ。然ル時ハ典書官其誓書ニ番號ヲ附ケ且ツ向キニ同條ノ番號ヲ附テ綴込ミタル賣拂手形ノ原紙又ハ副本ノ番號ヲモ再ヒ附シルナリ。〇誓書ハ五「シ」ル「リ」グ」ノ證印紙ヲ貼附ス可シ而シテ官用原紙ヲ司トル役人ノ副本ハウキトリヤ女王十七年八年ノ決議第三十六篇ニ照準シテ給與ス可キナリ。〇第七節ニ據ルニ典書官ハ一冊ノ帳簿ヲ備置キテ各賣拂手形並ニ誓書ヲ明細ニ書留ム可シ。〇人ニ係リテ右ノ書類ヲ搜索セント欲スル者アリ尋常



律法證印紙ヲ以テ「シルリング」ヲ納ムル時ハ相當ノ時ニ許シテ搜索セシム可シ○摺書ノ官用ノ副本ハ賣拂手形ノ本條例ニ定ムル所以官用副本ト同一ノ割合ヲ以テ之ヲ給與ス可シ

第八節 請人ノ事

請人トハ他人ノ誤失又ハ失錯ヲ自カラ引受ル人ヲ謂フナリ而シテ詐偽條例ニ據ルニ何人ニ限ラス他人ノ負債過失不善ノ所業ヲ引受ント別段ニ約束スルニ其趣ノ契約書又ハ手札ヲハ約束シタル當人又ハ法ニ合ヒタル代理人是レニ署名スルニ非レハ其責ニ任スルコトナシト云ヘリ○請合ノ義ヲ釋シニ普通ノ規則アリテ其契約書ニ明言スル外ハ請人ヲシテ其責ニ任セシム可カラズ  
ウカントリヤ女王十九年二十年ノ決議第九十七篇ニ據ルニ此法ニテ他人ノ過失負債不善ノ行爲ヲ引受ントノ別段ノ約束ハ書面上ニ於テ

思考スルニ書面ノ意ヲ推シテ考フルニ其請合ノ約束ノ趣意更ニ分明ナラス 按スルニ他人ノ請人トナルハ困難ヲ引受ルナリ然レハ何事カ趣意無カル可カラズ法律上ニ於テハ賠償物又代價ヲ取ルヲモ趣意ト曰ヒ又親族ノ情誼等ヲモ趣意ト曰フ全ク趣意ナクシテ請人トナルコトナシ山テ趣意ナキノ請合ハナカル可シトナリ 然レニ相手方ニ於テ之ヲ證據トシテモシ詞訟ヲ保守スルニ足ルモノトス

ウカントリヤ女王十九年二十年ノ決議即チ商律改正條例第六十篇第四節ニ據ルニ商賈ノ或ル組へ又ハ或ル組ノ爲メニノ約束即チ請合ハ組合ノ衆員中ニ退去新入等アラハ其時ヨリ取消ト成ルナリ但シ明言シタル約條ニ由リ又ハ含蓄セル意味ニ因リテ考フルニ雙方ノ意ハ組合ノ衆員中ニ出入アリニ其請合ハ取消トセサルニ在リト知ラル、時ハ此例ニ在ラス

第五節ニ據ルニ凡ソ他人ノ負債又ハ義務ヲ請合フタル人ニシテ能ク其任責ヲ盡シタル者ハ債主ノ手ニアル抵當ノ證文證物類ヲ一切引請



處置スルコトヲ得可シ

第九節 品物渡シ方差止ノ事

除<sup>カテ</sup>ニテ品物ヲ預ケタル時ニ其品物未ダ預リ主ノ許ニ達セサル前ニ倒  
 行シ或ハ負債難償ノ場合ニ至ルコトアリ果シテ其品物ヲ買主<sup>即チ預リ</sup>  
 ニ渡サル、時ハ預ケ主ノ損失ヲ致スナリ依テ法律上ニ於テ往々預ケ  
 主ニ免許シテ其渡シ方ヲ止メテ再ヒ之ヲ所有スルヲ得セシメ且ツ品  
 物其行先キニ到着ノ前又ハ到着シタル處ニ於テ之ヲ再ヒ自身又ハ代  
 理人ニ渡サシムルノ處置ヲ爲スヲ免許シタリ○此權ノ實行ヲ品物運  
 漕中差止メト曰フ而シテ之ニ就テ重ニ論ス可キ事ハ二件ニ在リ第一  
 品物運漕中トハ何等ノ情形ヲ指シテ謂フ乎第二何人此權ヲ行フヲ得  
 可キ乎

先ツ第一ノ件ヲ論センニ一般ノ規則ニ於テ凡ソ品物ハ現ニ買主<sup>按ス</sup>

買主預リ主皆ナ同一ニ渡シタルマテハ運漕中ト謂フナリ去レハ水陸  
 ノ人ヲ問フナルヘシニ渡シタルマテハ運漕中ト謂フナリ去レハ水陸  
 間ハ品物尙ホ運漕人ノ手ニ在ルノ間並ニ預リ主ニ送り方渡シ方ニ  
 關係スル場所ニ在ルノ間ハ常ニ賣主ノ差止ノ權ニ遇フヲ免カレサル  
 ナリ譬ヘハ預ケノ品物ヲ埠頭ノ主任者又ハ貨物包裝者ニ渡シ主任者  
 包裝者ハ買主ノ爲メニ之ヲ領取シ隨テ之ヲ買主ニ送ラントス然ルニ買  
 主ハ負債難償ノ場合ニ至ル時ハ其主任者包裝者ハ買主ノ命スル所タ  
 リ預ケ主其品物ノ主任者包裝者ノ手ニアルヲ差止ムルヲ得ルナリ  
 品物ノ代價ノ一部分ヲ拂フタリハ賣主ノ差止メノ權ヲ變壞セラル  
 コトナシ何トナレハ其一部分ノ拂濟ハ只留置ノ品物ニ對シ賣主ノ權ヲ  
 一部分減少スルノミナレハナリ但シ完全ノ契約ヲ以テ賣拂フタル品  
 物ノ一部分ヲ買主現ニ掌握スルニ及ビタル時ハ賣主ノ差止ノ權ハ此  
 ニ終ルナリ而シテ殘餘ノ物ノ未ダ渡サ、ルモノニ向ヒ差止ノ權ヲ行



事ヲ得ス○買主ガ其品物ノ行先キニ達セサル處ニ於テ是レ其持主  
 タルノ仕業ヲ爲シ其風味ヲ試ミ其レヲ見本ニ出シ或ハ藏敷ヲ出ス等  
 ノ事ヲ爲サハ賣主ハ差止ノ權ヲ行フイテ得ス又品物ヲ賣拂フタル後  
 タリト尙ホ賣主ノ土藏ニ在リ賣主ハ之ガ爲メニ藏敷ヲ請取ル時ハ其  
 事恰モ買主ニ品物ヲ渡シタルノ義ト同一ナルヲ以テ賣主ノ差止ノ權  
 ハ此ニ絶滅スルナリ

次ニ何人カ此差止ノ權ヲ行フヲ得可キ乎ノ問題ヲ論セシニ預ケ主ト  
 預リ主トノ間ニ賣主買主ノ關係アルノ場合ニ非レハ此差止ノ權ヲ行  
 フ可カラズ去レハ品物ニ向ヒ絶エテ所有ノ權ヲ有セス縱カニ留置ノ  
 權ヲ有スル者ハ差留ノ權ヲ行フヲ得ス運漕人ハ總會計ノ差引殘リヲ  
 受取ル可キ筈ナレハ己レノ手ニ在ル品物ノ中只運漕賃ニ充ルノ分ヲ  
 留置シテ得可シ○只品物ノ代價ノ保證人タル者ハ其保證スル所ノ品

物ノ分量ニ隨ヒ禮金ヲ請取ルノ權利アリト雖モ本ト賣主ニ非レハ品  
 物差止ノ權ヲ行フヲ得ス但シ外國ニ在ル通信者英國ニ在ル商人ヨリ  
 ノ注文ニ應シテ自己ノ引請トシテ除買シ代價ニ付キ禮金ヲ取ルモノ  
 アリ然ルニ預リ主即チ英國ニ在ル商人ナリノ破産スル時ハ其通信者ハ品物ヲ差止  
 ムルノ權ヲ行フ可キ賣主ト見做ス可シ何トナレハ原主ト其破産人ト  
 ノ間ニ相知ルコトナケレハナリ

賣主タル者品物差止ノ權ヲ行フトハ必シモ前ニ渡シタル所有物ニ體  
 接シテ之ヲ領取スルヲ要スト謂フニアラス口狀ヲ以テシ或ハ書狀ヲ  
 以テシテ其運漕中ノ品物ヲ掌握セント言張ルヲ謂フナリ而シテ其事  
 運漕シ了リタル前ニアラハ法律上ニ於テ現實ノ差止ト考フルナリ

第十節 婚姻約定ノ事

一男一女未タ婚姻セサル者相互ニ婚姻セント約ス然ルニ後來一方ニ



於テハ他人ト婚姻スル時ハ違約ト云ラテ以テ出訴セラル可シ  
 一方ハ幼者一方ハ成人ニテ婚姻セシキ約ス幼者ハ必シモ自カラ其  
 約ヲ踐ムヲ要セス然レモ成人ノ方ニテ違約スル時ハ幼者ヨリ出訴シ  
 テ冤屈ヲ伸フルテ得可シ  
 一男子一婦人ニ約シ若シ我レ他女ヲ娶ラハ汝ニ金貨若干ヲ與ヘント  
 云ハ、之ヲ婚姻ノ禁止ト云フナリ是故ニ斯ノ如キノ契約ハ其効ナキ  
 モントス之ヲ例スルニハルトレイヨリライスコ係リタル案件ハ即チ  
 此類ノ契約ノ差違レタル者ニテ原告男子ハ五十ギニイテ一貨幣ヲ賭錢ト  
 シテ六箇年ノ内ハ決メ婚姻セサルヲ約セシナリ然ルニ裁判所ニ於テ  
 ハ其約ヲ以テ却テ婦人ノ婚姻ヲ禁止スルニ當ルト見做シ其効ナキモ  
 ノト爲セリ蓋シ斯ノ如キノ婚姻ノ禁止ハ見識アルコト又ハ正理ニ合ラ  
 ンコト非レハナリ

詐偽條例ニ婚姻相約ハ必ス書物ナル可シトハ見エス但シ婚姻ニ付キ  
 金ヲ與ヘ或ハ物ヲ贈遺セントノ口狀ノ約ハ改テ書物ニ爲サレバ其  
 効ナキ者ト爲ス

第十一節 約定ニ拘ラサル事

品物賣買ノ契約ノ後ニ買主來リテ其代價ヲ拂ハス又催促スルモ相當  
 ノ時間中ニ品物ヲ持テ行カサレバ賣主ハ其契約ヲ翻悔セラレタリト  
 見做シテ品物ヲ再賣スルヲ得ルナリ  
 概スルニ賣主買主何レナリモ一方ニテ賣買ノ約條ヲ踐行スルヲ懈怠  
 スレバ他ノ一方モ破約シテ妨ケナシトス  
 品物賣買ノ契約ハ出訴期限條例ニ據リテ自カラ消滅スルコトアリ其條  
 例ハゼームス第二世二十一年ノ決議第十六篇ニシテ出訴ノ期限ヲ六  
 箇年ト定メ滿期ノ後ハ原告出訴スルコトヲ得ス但シ其條例ノ大概並ニ



ケルレム第四世三年四年ノ決議第二十七篇ノ大畧ハ既ニ前篇ニ於テ  
 掲載シタルハ今茲ニハ左ノ一事ヲ陳述セシメ抑裁判所ニ於テハ被  
 告ノ其條例ヲ口實トシテ破約セシトスルヲ惡ミテ而シテ別ニ一説ヲ  
 設ケテ曰ク該條例ハ敢テ出訴ノ權ヲ消滅セントスルニ非ラス只一時  
 伸冤ノ權ヲ停止スルノミニテ改メテ約定スレハ其停止ヲ解クノミト  
 然ルニシオルシ第四世九年ノ決議第十四篇ニ據ルニ其改新約定ナシ  
 テ能ク其効ヲ有セシメ夫ノ出訴期限條例ノ範圍外ニ致サントスルニ  
 ハ其約條ヲ將テ文書ニ爲シ其任責ノ者ヲシテ之ニ署名セシメ并シ可  
 カラス  
 滿年以下ノ者、嫁女、狂者、罪囚或ハ外國ニ寄寓スル者等凡テ妨碍ヲ被リ  
 居リ禁錮セラレテ居リ自由ニ事ヲ行フ能ハサル者ハ出訴期限條例ノ  
 範圍内ニアラス但シ既ニ其妨碍ヲ除カレ其禁錮ヲ解カレ時ハ復タ

其條例ヲ及ホサハルナリ凡ソ契約スル其趣意思惠ニ出ル歟又ハ賠償  
 ヲ取ルノ爲メニスル歟ニ非レハ正實ノモノト爲サス但シ其趣意思  
 テ法律ニ合フトモ其事ヲ仕遂クルハ公法公例ニ牴觸スルノ害アル者  
 ハ破約シテ可ナリ之ヲ例スルニ公債證書仲買豫防ノ條例ニ反シタル  
 契約或ハ證印税、内國產物税又ハ航海ノ諸律ニ反シタル契約ハ實行セ  
 シムル能ハス一般ノ風儀ヲ破ル可キ契約ハ假令ヒ賠償物ヲ授受シタ  
 ル現ニ渡シタルニアラヌ後來詞訟ヲ行フ能ハサルナリ是故ニ猥褻又  
 ハ不經ノ事件ノ印刷物ノ代價ハ訴訟シテ之ヲ償ハシムルヲ得ス又娼  
 妓ニ衣裳並ニ飲食寢牀等ヲ供給シテ其醜業ヲ行ハシメタル者ハ後來  
 出訴シテ代價ヲ償ハシムルヲ得サルナリ

第十二節 拂方ノ事

商賣ノ諸科中ニ於テ一般ノ習俗ニテ品物賣買アレハ除ク時間ハ何年



月下豫メ定メル者アリテ此常例ニ拘ハラズト別段ノ約條ホケレバ  
 其常例ノ除リ時間ヲ以テ契約中ノ一部分トナシ恰モ之ヲ明言シテ取  
 極メタルモノ、コトシ蓋シ法律上ニ於テハ別例ニ從フノ狀相見ニカ  
 ル已上ハ諸人皆ナ此一般ノ習慣ニ從フテ賣買スル者ト暗ニ定ムレバ  
 ナリ  
 斯ノ如キノ習慣ナク又拂方ノ時日ヲ契約中ニ掲載セサル時ハ品物ヲ  
 渡セハ直チニ拂方ヲ催促シテ可ナリ  
 賣主ハ限リタル時間中ニ某ノ品物ヲ渡サント約スル時ハ品物ヲ渡シ  
 盡スニ非レハ拂方ヲ催促スルヲ得ス  
 品物若干ヲ渡サント約シタル者約定ノ分量ヲ殘ラズ渡スヲ懈怠ス  
 レハ買主ハ渡シ買主ノ領收シタル分ノミノ代價ヲ取ルヲ得可シ買  
 主ハ前ニ一部分ヲ領收スルヲ拒ミタルコト非レハ後ニ拂方ヲ免カレ

ヲ得ス蓋シ買主一部分ヲ領收シテ之ヲ使用シタル時ハ假令ヒ領收ノ  
 時ニ異議ヲ述ヘタリモ拂方ノ責ヲ免カル、ヲ得サルヲ定法トスルナリ  
 利息ノ事ニ至テハ賣渡シタル品物ノ代價ヲ催促スル時ニ利息ヲ取ル  
 可カラズト定マレリ但シ爲換手形約條手形等又ハ利息ヲ拂フ可キノ  
 別段ノ約條ヲ以テスル時ハ賣主ハ何時ヨリト定メタル日限ヨリ以後  
 利息ヲ取ルヲ得ルナリ  
 是故ニ商賣柄ニ因リテ雙方ノ意帳簿上ノ負債ハ利息ヲ取ル可キト云  
 フニ在リト推定セラル、時ハ利息ヲ取ルヲ許ス可シ  
 シオルシ第四世九年ノ決議第十四篇ニ據ルニ拂方ヲ受取リタル者約  
 條手形爲替手形其他ノ書付ノ紙面ニ其拂方ヲ裏書シ又ハ手記シタル  
 ハ其拂方ノ十分ノ證據トナス依テ其事ノ案件ハ尙ホ出訴期限條例  
 ノ範圍内ニ致シテ之ヲ治ム可シ未ダ其條例ノ範圍外トシテ別法ヲ以



又受理スルヲ得サルナリトシテ  
 第十三節 條約書ニ印紙ヲ貼附スル事  
 凡ソ印紙ヲ要スル證文ハ正當ノ印紙ナクシテハ證據ト爲スヲ得ス又證  
 文ノ箇條ナク陳シタルハ證據トシテ取リ用フルコトナシ○是故ニ事ノ  
 證據トシテ證書ヲ呈出シタリト正當ノ印紙ナクシテハ證文ヲ受納セズ  
 依テ其事モ全ク無證據ニ屬ス但シ場合ニ由リテ證文ノ外ノ證據ヲ以  
 テ其事ヲ證明スルコトモ亦少ナカラス而シテ印紙條例ヨリ起リタル故  
 障ハ印紙ノ外ノ證據ヲ用ヒテ之ヲ除クコトヲ得ルナリ  
 然リト雖モ「エキヌチエケル」廳ノ一判文ニ據リテ考フルニ凡ソ證文ハ  
 正當ノ名目ノ印紙ナクシテ中ニ明記シタル賠償物代ニ應當シタル印紙  
 ナリ以テ貼附シタルニ於テハ假令ヒ其賠償物眞物ナラズト證明セラル  
 ルト雖モ其實正タルニ妨ケ無シト思ヘリ但シ又一方ニ向ヒテハ代價

又ハ賠償物全數全額ヲ舉ゲサル人ハ嚴罰ヲ被フルナリ  
 ウカントリヤ女王十七年八年ノ決議第三百二十五篇即チ尋常律法手續  
 キ條例ヲ按スルニ案件審問ノ時ニ於テ書付ニ印紙ヲ貼附スルノ規則  
 ナリ舉ゲタリ即チ第二十八節ニ據ルニ證據書類ヲ差出シタラン時ニハ  
 其應ノ證據書類ノ宣讀ヲ司トル役人ハ印紙ノ脱漏並ニ不充分ナル者  
 アラハ逐一裁判役ヲシテ之ニ注意セシムルヲ其職分トナス而シテ其  
 印紙ナキ歟又ハ印紙ノ不十分ナル書付ハ印紙税ノ全額又ハ不足ノ分  
 ナリ上納シ且ツ條例ノ要スル所ノ罰金並ニ「ボンド」ノ別額ヲ上納スル  
 ニ非レバ證據トシテ受納セストアリ  
 第十章 暗意約條ノ事 原語「アッサムプシット」  
 「アッサムプシット」ハ暗意約條ニシテ二人アリ他人ノ爲メニ一事ヲ爲シ  
 或ハ幾許カノ金高ヲ拂ハンコトヲ暗ニ保任シ而シテ公平ノ理ニ於テモ



亦律法ノ本義ニ於テモ其事ニ擔任セサル可カラサルヲ謂フナリ

第一 予カ或人ヲ使用シテ予ノ爲メニ商業ヲ行ハシメ又ハ予ノ爲メニ工業ヲ做サシメハ法律ノ本義ニ於テ予ハ則チ其功勞ニ相當スルノ代價ヲ拂ハンコト暗ニ保任シタルナリ去レハ予若シ其人ニ報酬物ヲ與フルヲ懈怠スレハ其人ハ官府ニ訴狀ヲ呈シ其冤屈ヲ伸フルノ處置ヲ爲シテ可ナリ即チ使用主ナル予カ既ニ相當ノ賃錢ヲ拂ハンコト約定シタリト發言スルモ可ナリ又其功勞ハ幾許ノ金高ニ當ルト發言スルモ可ナリ但シ其功勞ヲ評定スルハ陪審ノ判斷ニ附スルナリ

第二 一人アリ價ヒニ就キテ明白ニ熟議スルコトナシニ商人ノ品物ヲ請取ラハ茲ニ所謂ル暗意ノ保任ナル者アリテ品物ノ本價ヲ拂ハサル可カラス若シ拂ハサル時ハ其商人ヨリ其人ニ係リテ訴訟

ヲ行フヲ得ルナリ

第三 今一ノ暗意ノ條約ハ人アリ他人ニ屬スル所ノ金錢ヲ領收シテ自カラ他人ニ暗債ヲ與ヘサルノ時ニ在リ蓋シ法律上ニ於テハ其領收ノ金錢ハ依然獨リ原主ノ使用ニ供ス可キ者ト釋解シ而シテ之ヲ領收シタル人ハ原主ニ對シ其用途ヲ辨明ス可シト暗約シタリト定ムルナリ然ルニ之ヲ領收シタル者謂レナク之ヲ留置シ時ハ原主ハ其領收人ニ係リテ訴訟ヲ行ヒ償金ヲ取ルヲ得可キナリ此伸冤法ハ廣ク行ハレテ甚ダ裨益アリ凡ソ被告人タル者他人ノ金錢ヲ領收シテ公平ノ理ニ於テ返却セサル可カラサルノ案件ニハ殆ト皆チ此伸冤法ヲ用フルナリ誤リテ拂フタル金錢ヲ返却セシムルニモ此伸冤法ヲ用フ可ク又金錢ヲ拂フテ代物ヲ得ル能ハサル時ニ金錢ヲ返却セシメ又ハ騙害ヲ被ムリ勒索ニ遭ヒ又ハ



壓制ヲ蒙リ其外凡テ原告人ノ地位ノ下低ニシテ侵シ易キニ乘シテ奸計ヲ施シ之カ金錢ヲ領收シタルヲ返却セルムルニハ皆ナ此仲冤法ヲ適用ス可キナリ

第四 一人アリ他人ハ依頼ニ應シテ其レノ爲メ己レノ金錢ヲ出シテ費シタル時ハ律法上ニ於テ其他人ヨリ之ヲ返却ス可シト約定シタリト見做スナリ去レハ之ヲ返却セサル時ハ違約トシテ出訴シテ可ナリ此道理ニ據リテ借金ノ請人トナリタル者自カラ本人ノ借金ヲ拂フタル上ハ暗意條約ノ法ヲ執テ出訴シ本人ヨリ其金高ヲ償ハシムルヲ得ルナリ但シ其人ノ爲メニ金ヲ拂ハレタリト假定セラルト雖モ實ハ其人ノ願ニ承諾シタル所ニ違ヒテ拂フタル時ハ出訴シテ其金高ヲ償ハシムルヲ得ス又ハ官評ナキ劇場ノ如キ不法ノ擧ヲ爲サンカ爲メニ拂フタル時ハ其金高ヲ取戻

大コヲ得ス

第五 二人ノ商賈其外凡ソ二人ノ間ニ於テ會計ヲ具書シタル時ニ於テ別段ノ約條ナシト出金不足ノ方ハ他ノ一方ニ之ヲ拂フ可キナリ然レモ方今ハ尋常律法應ニ出訴シテ人ヲ強ヒテ完帳セシムルコトハ甚ダ稀ナリ今日是等ノ事件ヲ定ムルニ最モ有効ナル方法ハ左ノ如シ即チ原告ハ其差出シ得可キ證書類ノミヲ以テ憑據トシテ更ニ被告ヲシテ誓詞ノ上ニテ一切ノ事件ヲ暴露セシムルヲ得ル時ハ則チ公平律法應ニ訴狀ヲ呈スルヲ以テ最モ有効ナル方法トスルナリ但シ一タヒ會計ノ事件定マル時ハ其殘數ヲ償ハシムルコトハ夫ノ暗意條約ノ理ヲ以テ容易ニ返償セシムルヲ得可キナリ第六 凡ソ己レヲ使用スル人又ハ己レヲ信任スル人ニ對シ官職、使用、信任、職分ヲ擔當スル者ハ暗ニ正直、勉勵、熟練ノ三事ヲ以テ之ヲ



仕遂ノコチ約ス然ルニ其三事ノ一チ缺キテ其使用主等チ害  
 ナ被ムラシムル時ハ使用主等ハ其事ニ付キ別段ノ訴訟ヲ行ヒテ  
 其冤屈ヲ伸ヘ且ツ償金ヲ取ルヲ得可シ左ニ其二三例ヲ示サン  
 政官ニシテ其職掌ヲ解リ又代官又ハ監獄者ニシテ負債ノ罪囚ヲ許シ  
 テ遁逃セシメ又代理人ニシテ本人ノ案件ヲ引受ケ本人ヲ賣リテ仇ヲ  
 輔ケ又ハ其案件ヲ引受ケテ懈怠スレハ償金ヲ取ラレハナリ  
 客館主人ハ其館ニ在ル客ノ品物ヲ保護スルノ暗意ノ條約アリ運輸ヲ  
 以テ常業トスル者其運輸物ニ付キ責ニ任セサルヲ得ス馬ノ金沓師ハ  
 巧ミニ馬ニ沓テ著ケテ之ヲ傷害セサルノ暗約アリ仕立屋沓師其外ノ  
 職工ハ善ク其事ヲ仕遂ケテ職工タルノ名義ニ負カサル可キノ暗約ア  
 リ然ルニ誤失アルトキハ其暗約ニ違ヒタルヲ以テ償金ヲ取ラレ可シ  
 此外測量者ヲ使用シテ家屋ヲ測量シ評價セシメ其家屋ヲ抵當物ニト

リテ金ヲ貸サントスル者アリ然ルニ測量者無學ナルニ依リ又ハ不注  
 意ナルニヨリテ其抵當物ヲ評價シテ格外巨額ノモノトスル時ハ即チ  
 使用主ヲ欺騙スルナリ依テ官府ニ訴ヘラレ使用主ニ償金ヲ拂ハサル  
 可カラス  
 但シ是等ノ業ヲ成ス爲メニ使用セラレタル者其平常ノ業體ニ非レハ  
 法律上ニ於テ暗約アリト見做スコトナシ此ノ如キノ人ヲシテ償金ヲ出  
 サシメントスル時ハ曩ニ別段ノ約條ナカル可カラス  
 或人贗造ノ骨牌骰子又ハ贗造ノ度量權衡ヲ以テ予チ欺騙シ又ハ一物  
 ノ代リニ他物ヲ予ニ賣リテ予チ欺騙スル時ハ官府ニ出訴シテ償金ヲ  
 取ルヲ得可シ何トナレハ法律上ニ於テ凡ソ人間萬用ヲ達スル時ニ當  
 リ彼我トモニ公平正直ナル可シト定ムレハナリ  
 賣買ノ契約ニ於テ賣主ハ其品物ノ持主タルコト保任ス又食物ノ賣買



ニ於テ其品物ノ良好ナルヲ保任ス然ルニ賣主ハ即チ其持主ニアラヌ其食物良好ニアラスシテ腐敗物ナレハ買主ハ訴訟ヲ行ヒテ償金ヲ取ルヲ得ルナリ

第十一章 商船並ニ航海ノ條

第一 管商局所有權並ニ入港ノ事

第二 入津改書ノ事

第三 借船條約ノ事

第四 船積手形ノ事

第五 船運賃ノ事

第六 船費並ニ荷賃ノ事

第七 航海中損失ノ事

第八 蒸氣船乗組人ノ事

第九 破船並ニ救難賞金ノ事

第十 氷先キ賃錢ノ事

第一節 航海律ノ事

此法律ノ主意ヲ按スルニ蓋シ國ノ内外ノ貿易皆ナ大英ニ於テ製造シ大英臣民之カ業主トナリテ航海スル船舶ニ其利權ヲ專有セシメ以テ大英ノ海商ヲ獎勵スルノ意ニ出タリト見エタリ此法律ノ由テ來ル所尙矣ト雖モ太古ノ事ハ邈焉トシテ其實得テ考フ可カラズ近古此法律ノ主意ヲ實行シタルハ荷蘭人海上ノ利權ヲ專ラコスルヲ挫折センカ爲メニ夫ノ所謂ル長久議會ナル者ニ於テ制定セラレタル條例ヲ以テ其較著ナル者トス但シ其餘例ハ其後千六百六十年チヤリレヌ第二世十二年ノ決議第十八篇ヲ以テ更ニ確定セラレタリ其決議ノ大意ニ曰ク凡ソ亞西亞亞弗利加亞米利加ノ商品ハ大英製造ノ船舶ニ搭載シ英



ノ指揮官其航海ヲ司トリ其水夫四分ノ三ハ英人ヲ以テスルニ非レハ英國ニ輸入スルヲ得ス又曰ク歐羅巴ノ商品ノ内特ニ其名ヲ具録シタル分(本陸ノ甚々大ナル産物又重要ナル産物モ其中ニ在リ)並ニ土耳其魯西亞ノ諸産物モ其國又ハ其場所ニ屬スル船舶ニ搭載シ生産又ハ製造ノ國又ハ場所ヨリ直チニ輸入セラル、モノヲ除クノ外ハ外國船ニ搭載シテ英國ニ輸入スルヲ許サスト此ノ如クニ英ノ海商ニ貿易ノ特權ヲ付與シタルハ此航海律ノ主意ナリシカ此外ニ更ニ一趣意アリ即チ辨別稅ヲ課シテ歲入ヲ増加セントスルニ在リテ歐羅巴中ノ外國船ニ搭載シテ輸入シ來リタル某々ノ品物ハ本國ノ船舶ヲ以テ輸入シタルモノニ比スレハ更ニ重稅ヲ課セラレタリ蓋シ彼我ヲ分チタルニ由リテ辨別稅ノ名アリト云フ

斯ノ如キ私心ノ處置ハ他國ニ於テ之ニ模倣スルノ念ヲ起サシメ假令

ヒ其念ヲ新タニ起サシメサルモ勢ヒ之ヲ促カサルヲ得ス是レ理ノ當然ナリ而シテ北亞墨利加ノ如キモ獨立ノ大業ヲ成スヤ就テ本國ノ例ニ倣ヒテ亦航海律ヲ制定シタリ然レモ經驗ニ據テ考フルニ是等ノ航海律ハ假令ヒ國益トナルモ一方ノ益ニシテ一方ノ害ナリ況ヤ兩國ノ航海律ハ互ニ抵觸シテ互ニ相害シ遂ニ競争スル兩邦ハ其船荷ノ輕少ナルニ苦ミ砂石ヲ船底ニ積ミテ航海スルニ至ルチヤ未ダ幾クナラスシテ兩國ノ間ニ會議ヲ開キ條約ヲ結ヒ國會ノ決議ヲ以テ之ヲ保證シ初メテ少シク商船保護ノ嚴法ヲ弛メ兩國ノ船舶ノ英國米國ノ港ニ在ル者ハ皆ナ同一ノ取扱ヒヲ爲シ彼我ノ別ヲ廢シ夫ノ品物ニ課スル所ノ辨別稅モ兩國互ニ之ヲ廢シタリ

爾後二三年ヲ經テ我カ英國ノ專權ノ商律再ヒ改正セサル可カラサルノ場合ニ至リ國會ニ於テ五篇ノ決議ヲ頒行シタリ就中シオルシ第四



世三年ノ決議第四十一篇ヨリ第四十六篇ニ至ルノ諸篇ヲ以テ大ニ航海律ヲ輕減シタリ是時ニ至ル迄ハ外國船ヲ英國ノ港ニ投錨スレハ皆ナ夫ノ辨別稅ヲ課セラレシカ種々ノ原因アリテ之ニ從順シ敢テ復仇ノ舉テ圖ルモノナシ然ルニ是時ニ至リテ外國ノ事情ヲ察スルニ皆テ英國ノ課稅ヲ喜ハス私ニ不滿ノ念ヲ懷キ而シテ英船ノ外國ノ港ニ入ル者ニモ亦重稅ヲ課セントスルノ徵候アリテ從前ノ如キノ忍耐ハ復タ期ス可カサルノ狀アリ即チ千八百二十三年ニハプリニシヤ英國ニ報告シテ曰ク貴國ニ於テ專權ノ商律ヲ施行シテ獨リ貴國ノ船舶ノ爲メニ課スルノ間ハ弊國ニ於テモ入港ノ英船ニハ重稅ヲ課セシト同時ニ他國ノ事情ヲ察スルニ皆ナプリニシヤノ例ニ倣ハントスルノ形狀アリ是ニ於テ乎英國ノ商人ハ本國ニ於テ先ツ重稅ヲ廢セラレノコトヲ希望シテ憂慮スルコト少々ナラス是ヲ以テ國會ニ於テ相互條例ナル者

ヲ制定シタリ蓋シ内外ニテ相互ニ重稅ヲ廢スルノ條例ニシテオトルシ第四世四年ノ決議第七十六篇及ヒ同王五年ノ決議第一篇即チ是レナリ此二條例ニ據ルニ大英ノ船舶ニ辨別稅ヲ課セサル國ノ爲メニ謀リテ該國ノ船舶ヲ以テ品物ヲ輸出入スル皆テ大英ノ船舶ト同稅ヲ課スルコトハ英國女王ノ權ニ任スト云ヘリ而シテ此條例ニ從フテ日耳曼ノ諸大邦南亞墨利加ノ諸國並ニ佛蘭西澳地利荷蘭希臘ト條約ヲ結ビテ互ニ重稅ヲ廢セラレタリ

右律法立廢ノ由緣ヲ熟考スルニ航海律ノ原意ハ何シニ在リ也今日ニ至リテ之ヲ廢シタルハ他國ノ復仇ヲ避クルニ於テ尤モ適宜ノ處置ト謂フ可キナリ蓋シ我英國ハ貿易國ノ最大ナルモノニシテ最モ多ク船舶ヲ使用セサル可カラズ最モ多ク品物ヲ交換セサル可カラズ隨テ船舶ノ自由ニ航海シテ妨害ヲ受ケサルハ尤モ願フ所ナリ國會ハ此遠大



ナル目的ヲ以テ先ツ條例ヲ改定シテ向キニ大英ノ船舶ノ水夫ノ幾分ハ必ズ大英ノ水夫ヲ入レサル可カラサルト定メヨル制限ヲ廢シ又外國船ノ大英ノ海岸ニ沿テ貿易ヲ行フヲ許シテ以テ漸々航海律ヲ廢除スルコ至レリ

ウヰクトリヤ女王十六年七年ノ決議第三百三十一篇第三十一節ニ據ルニ大英ノ船舶ハ大英ノ臣民タル者船主トナリテ航海セサル可カラヌ又水夫ノ全數又ハ幾分ハ大英ノ人民ヲ以テ之ニ充テサル可カラヌ今其箇條丈ケハ廢除セラレタリ

ウヰクトリヤ女王十六年七年ノ決議第三百七篇ニ據ルニ品物又ハ搭客ハ大英國ノ船舶ヲ以テスルニ非レハ合衆王國ノ一部ヨリ他ノ一部ニテ海岸ニ沿テ運漕スルヲ得ス此外國船ヲ拘束スルノ條例今ウヰクトリヤ女王十七年ノ決議第五篇ヲ以テ廢セラレタリ但シ千八百五十三

年ノ海關稅條例ハ尙ホ存留セラレタリ又外國船ニ對シ復仇ノ制度ヲ設ケルノ權ハ女王之ヲ掌握セリ○外國船ノ海岸ニ沿テ貿易ヲ行フ者ハ大英ノ船舶ト同一ノ規則ヲ守ラサル可カラヌ旅客ヲ搭載スル外國船モ亦然リトス

第二節 管商局所有權並ニ入簿ノ事

ウヰクトリヤ女王十七年八年ノ決議第百〇四篇ニ據レハ管商局ハ商人ノ航海ニ關スル諸事務ヲ總監シ地方航海事務諸局之ヲ補佐ス此事務局ノ列員ハ諸船主ノ選舉スル所ナリトナリ又外國行ノ船舶ノ船將並ニ副船將ノ材能ヲ檢査シ其檢査格ニ合フ者ニハ堪任ノ證書ヲ與フ可シトナリ又地方事務局其職掌ヲ行フニ懈怠セハ管商事務局自ラ直チニ其任ニ當ルヲ得可ク或ハ命シテ新員ノ選舉ヲ行ハシム可シトナリ又船將若クハ副船將重罪ニ首伏スル時ハ管商局其堪任證書ヲ塗抹ス



ルヲ得可シ又船將若シハ副船將破産耻、醜醉又ハ暴虐ノ所業頗ル重大ニ涉リ又ハ數回ニ及ヒ審問ノ後ニ有罪ト決セラルハ時ハ二時ハ其證書ヲ停止シ或ハ永ク之ヲ塗抹スルヲ得可シトナリ又船將若クハ副船將ノ堪任證書ハ所持人ノ位地ニシテ適用スルモアリ又上等ノ位地ニモ通シテ適用スルモアリトナリ又地方航海事務局ハ通船役所ヲ建立シ其管理者ヲ命シ之ヲ通船主事ト命名シ事務ノ緩急ニ隨フテ其副役書記並ニ雇人ヲ置キ且ツ其役所ノ事務ヲ制定シ及ヒ其役所ヲ總括スルノ權勢ヲ有ス可シトナリ又副役ノ行フタル事ハ其効ニ至テハ主事ノ行フタル事ト同一ナル可シトナリ右決議ノ第二百二十二篇ニ出ツ

大英船舶所有權ノ事 凡ソ船舶ハ左ノ種類ノ持主ニ全屬スル者ニ非サルヨリハ決シ之ヲ大英ノ船舶ト視做サス第一、生レナカラ大英ノ臣民ニシテ未ダ外國ニ歸順ノ誓約ヲ爲サ、ル者第二、大英國ニ歸化

シタル者即チ國會ノ決議ニ由リ大英ノ臣民ト爲レル者第三、會社「ボデイ、コルポラ」ト又ハ「コラ」ニシテ合衆王國中又ハ海外ノ英領中ニシヨント曰フ第三篇ニ詳カナリ本局ヲ建立セル者

凡ソ航海ノ船舶ノ持主ハ左ノ物件失亡シ或ハ損傷ストモ自ラ現ニ失錯ナシ又ハ私ガニ知り及ヒシコナク全ク不意ニ發スル時ハ之ヲ賠償スルノ責ニ任セス即チ此ノ如キ船舶ニ裝載シタル貨物船舶ノ失火ニ由リテノ失亡損傷シ又ハ此ノ如キノ船舶ニ裝載シタル金銀、剛石、時辰、鏢、寶玉又ハ貴石盜賊若クハ監守自盜ニ由リテ奪取セラレ或ハ隱匿セラレタリモ船舶ノ持主ハ之ヲ賠償スルノ責ニ任セス但シ船舶ノ持主又ハ裝載者即チ荷物ノ持主豫メ其貨物ヲ裝載スル時ニ貨物ノ裝載證書ニ直チニ其貨物ノ性質及ヒ價值ヲ記入シ又ハ別ニ其船舶ノ船將又ハ持主ニ宛テタル書付ヲ以テ其貨物ノ性質及ヒ價值ヲ記入シタル時ハ此例



ニアラヌ(右第五百〇三節)船舶ノ持主ハ左ノ事件發ストモ自ラ  
 現ニ失錯ナク又私カニ知リ及フコナク至ク不意ニ出ル時ハ其損傷ヲ  
 償フノ責ニ任セス即チ其船舶ニ搭載シテ運漕セラル、者生命ヲ失ヒ  
 或ハ身體ニ損傷ヲ被フルノ件又ハ其船舶ニ裝載シタル物件商品其他  
 百般ノ物件失亡シ又ハ損傷ナルノ件又ハ其船舶駛行ノ宜シカラサル  
 ノ故チ以テ他ノ船舶又ハ小艇ニ惹シテ航行スル人其生命ヲ失ヒ或ハ  
 身體ニ損傷ヲ被フルノ件以上ノ事皆チ該船ノ持主其責ニ任セス  
 大英ノ船舶ハ必ス盡ク之ヲ入簿シテ而シテ其入簿證書ニハ船名並ニ  
 其船所在ノ港名其噸數製造種類其船將ノ名ヲ記入シ且ツ船ノ所有權  
 ノ届書ニ具狀スルマ、ニ船ノ由來ヲ詳細ニ記入シ又其入簿セラレタ  
 ル船主ノ名及ヒ肩書ヲ記入ス可シ但シ船ノ持主數人ナル時ハ其株ノ  
 多少ノ比例ヲモ附載ス可シ船ノ持主ノ姓名ヲ入簿シタル後ニ至リ變

更ノ條アラハ船將ハ入簿證書ヲ將テ入簿役ニ交付ス入簿役乃チ此證  
 書ニ其變更ノ事ヲ裏書スルナリ〇各人ニ「シリング」已下ノ禮金ヲ納  
 ムル時ハ入簿帳ニ就キテ檢閱スルヲ得ルナリ但シ入簿役出勤ノ時間  
 中適宜ノ時ニ於テス可シ  
 海關ノ役人ハ船將之ニ其船屬所ノ國名ヲ申陳スルコト非レハ出港免許  
 狀又ハ通行免許狀ヲ與フ可カラズ船將其申陳ヲナシタル上ハ役人ハ  
 出港免許狀ニ其國名ヲ記入ス可シ若シ其船免許狀ヲ受ケスシテ海上  
 ニ出テント企ル時ハ役人ハ之ヲ抑留シテ其國名ヲ申陳スル迄ハ免許  
 狀ヲ與ヘスシテ可ナリ若シ人アリ其船ノ所有權ヲ全有シ又ハ其一部  
 分ヲ有ストモ本ト法律ニ於テ大英ノ船ヲ有ス可キノ人ニアラズ然ル  
 ニ大英ノ旌旗ヲ用ヒ大英ノ名ヲ冒シ而シテ其船ヲシテ大英船タルノ  
 形容ヲ假取セシメントスル時ハ其船ハ直チニ英國君主ニ沒收セラレ



可シ但シ敵國ノ爲メニ捕拿セラル、チ防禦スル爲メニシ又ハ外國船方ニ戰權チ行フノ際其害チ避ケントスルカ如キ止チ得サルノ事情アラハ此例ニアラス借テ船ノ沒收チ施行スルノ案件ニ於テ大英ノ艦旗チ用ヒ大英ノ名チ冒シタル理由チ辨明スルノ事ハ艦旗チ用ヒ名チ冒シタル當人之チ擔當スルナリ(右第百〇二節ニ出ツ)

第三節 借船契約ノ事

借船手形トハ一商人ニ船舶ノ全部又ハ一部分チ貸與シテ一回ノ海旅又數回ノ海旅ノ間貨物チ運漕スルチ得セシムルノ契約チ謂フナリ此ノ如キノ商人チ載貨者又ハ借船人ト曰フ此契約ハ押印セルモノモアリ又書記スルノミニコンテ押印セサルモノモアリ又ハ本式ノ借船契約チ結ハスシテ單ニ記事紙チ作リ約定ノ箇條チ書記シテ契約書ニ代フルヲモ船主ト借船人トノ間ニハ往々之アルナリ此記事紙チ以テスト

モ其結約ノ効ニ至テハ本式ノ契約書チ成書シタルニ異ナルナシ船ノ持主又ハ船將ノ方ニ於テハ通例借船契約ニ於テ左ノ箇條チ約ス即チ該船ハ航海スルニ堪ル事貨物チ運漕スルニ堪ル事該船ハ貨物受取ノ期日迄ニハ準備整フ可キ事貨物チ受取タル上ハ機會ノアリ次第コ解纜シテ其貨物チハ當テ、送ル處ニ届ケ之チ被託人ニ渡ス可キ事是ナリ又載貨者即チ借船人借船スト雖モ自ラ之ニ記スルニアラス其貨物ノヲ搭載セシムルノミニナリ即チ持主タルノミニ義務ハ載貨銀チ拂ヒ且ツ約定ノ期限内ニ貨物チ落セシ貨物チ卸ス可キ事即チ是ナリ雙方トモ契約書ノ末文ニ於テ互ニ約定ノ條々ニ違ハハ罰金チ出ス可シト結盟スルナリ

借船契約書ハ其成約ノ日又ハ其爲取替ノ日ヨリ已後ニ効アルモノト爲ス其日附其約定書ニ記ニ拘ハラス但シ反對ノ事チ明言シテ約定シタル時ハ此例ニアラス



借船人ハ契約ノ箇條ニ由リ禁セラル、ニ非レハ該船ヲ再貸スルヲ得  
 可シ又他人ノ貨物ヲ搭載スルヲ得可シ又船主ハ別ニ任責ナシ但シ船  
 主使用スル所甲比丹若クハ船將ハ法律上ニ於テ全ク船主ノ代理人ナ  
 レハ是レニ過甚ナル簡慢ノ事アラハ船主其責ニ任セサルヲ得ス而シ  
 テ船主ノ運漕者タルノ任責ヲ負フハ船上ニ貨物ヲ受取ルノ時ニ始ル  
 ナリ

借船人ハ通例其貨物ヲ保險セシムルナリ

第四節 船積手形ノ事

船積手形トハ此手形ニ逐一登記シタル貨物ヲ將テ該船ニ搭載シタリ  
 ト船將ヨリノ承認ヲ見ハスモノニシテ即チ載貨主(即チ荷主)ノ命令又  
 ハ委託ニ照準シ其貨物ヲ運漕シ之ヲ先方ニ引渡スル契約證書ナリ但  
 シ船積手形ハ借船契約ニ異ナリ何トナレハ借船契約書ハ船積即チ運

漕ノ約條ヲ舉ルノヨリ然ルニ船積手形ハ商品ノ分量、形狀、記號並ニ載貨  
 主、被託人、船將ノ名及ヒ出帆ノ地並ニ到着ノ地名ヲ盡ク之ヲ舉クレ  
 ハナリ

貨物ヲ領收スル時ハ船將又ハ副船將ハ先ツ船上ニ貨物ヲ交付セラレ  
 タル趣キノ請取書ヲ作りテ與フ而シテ其後ニ船積手形二通乃至三通  
 ニ署名スルヲ常トス其一通ハ載貨主自ラ之ヲ留置キ其一通ハ在船ノ  
 代理人ニ交付ス其一通ハ無證印ノ紙上ニ謄寫スル者ニシテ船將ノ扣  
 本ト爲スノミ

船積手形ハ載貨主ノ裏書ヲ以テ讓渡スルヲ得可ク一旦船積手形ヲ裏  
 書シテ人ニ交付スル時ハ其貨物ノ所有權モ相當ノ代價ニ換ヘテ併セ  
 テ手形讓受主ニ之ヲ讓渡サレタリト知ル可シ代理人又代辨商タル者  
 船積手形ヲ讓渡シ又裏書ナスモ本人ヨリ委託ノ權限ヲ越ヘサル已上



ハ本人ノ意ニ拘ハラス完了シタル賣買トナシ本人之ヲ取消スヲ得セ  
 ルナリ代理人代辦商ノ權ハ之ニ止ラス例ヘハ茲ニ借金ノ抵當物トシ  
 テ船積手形ヲ典當シ又ハ他人ニ付託スル事アリ然ルニ其金主豫メ本  
 人ヨリノ報告ヲ得テ其代辦者ハ貨物商品ノ持主ニ非サルヲ通知セス  
 ハ本人乃チ返償ノ責ニ任スルナリ  
 船積手形ノ裏書ニ二種アリ即チ一チ一般ノ裏書ト曰ヒ一チ特別ノ裏  
 書ト曰フ前ナルハ送荷受主即チ貨物ヲ預リテ賣捌クモノヲ謂フノ名  
 チ舉ケス只當テ、送ル地(即チ賣捌キノ地)ニ於テ船積手形ノ持主ニ貨  
 物ヲ交付ス可シト船將ヘ宛テ一般ノ差圖ヲ書加フルヲ謂フナリ此一  
 般ノ裏書法ヲ用フルハ蓋シ職貨主ノ意ニ送荷受主(即チ賣捌人)ノ代金  
 償却ノ成否ヲ危フム所アリ豫メ注意シテ時宜ニ依リ送荷受主ヲ易フ  
 ルノ全權ヲ留メ置カンガ爲メナリ○特別ノ裏書ハ送荷受主ノ姓名ヲ

舉クルナリ  
 船積手形ハ裏書シテ賣渡ス可キ者ナルヲ以テ船將ハ何人ニ限ラス此  
 手形ヲ持スル者ニハ貨物ヲ交付スルヲ得可シ但シ手形ノ差出シ方非  
 常ニシテ疑ハシキ時ハ此例ニアラス  
 已上船積手形ニ付キ不規則ノ事勢カラス千八百五十五年ノ決議即チ  
 ウヰクトリヤ女王十八年九年ノ決議第百十一篇ヲ以テ其一二ヲ改正  
 シタリ即チ此決議ニ據レハ船積手形ニ其名ヲ掲ケラレタル送荷受主  
 或ハ手形讓受主ハ船積手形ヨリ起ル諸權利ヲ得可ク又貨物ニ關係ス  
 ル諸責任ニモ當ラサルヲ得ス而シテ此手形ニ掲載セル契約ハ其受主  
 讓受主自ラ做シタルニ非サレモ自ラ做シタルニ異ナルヲナントナリ  
 又其第三節ニ據ルニ相當ノ代價ニ換ヘテ送荷受主又ハ手形讓受主ノ  
 手ニ握ル船積手形ハ即チ貨物ヲ船積シタルノ確證ナレハ其諸貨物又



ハ其一部分未ダ船積セラレストモ此手形ニ署名シタル船將又其他ノ人ハ未ダ船積セズト云フテ免カレ、ヲ得サルナリ然レト雖モ其船積セサル其失錯船將等ニアラスシテ載貨主ニアル歟又ハ手形ノ持主ニアラハ船將ハ其事ヲ證明シテ己レノ責任ヲ輕減スルヲ得ルナリ

第五節 船運賃ノ事

船運賃ハ貨物ヲ海運スルカ爲メニ之ヲ拂ハント約定シタル金高ナリ而シテ一船又ハ一船ノ載貨物ノ總體又ハ一部分ノ爲メニ拂フ者アリ又一度ノ海旅ダケニ拂フ者アリ或ハ其一海旅ノ一部分ノ爲メニ拂フ者アリ又一箇月ニ幾多トスルアリ又何月何週ニ付キ幾多ト定ムル者アリ

船運賃ノ約條ハ通例借船契約又ハ船積手形ニ掲載スルナリ一隻ノ船又ハ其一部分ニ就キ船運賃ノ全額ヲ拂ハント約定スル時ハ載貨主其

船貨ヲ契約ノ如ク滿載セストモ其全額ヲ拂ハサル可カラズ若シ船運賃ノ契約ニ船量ノ一噸ニトニ幾多ノ金ヲ拂ハント定ムル時ハ船ノ噸數ニ從フテ拂フ可シ載貨ノ分量ニ準シテ拂フ可カラズ若シ契約ニ一噸一桶一包一櫃ニ付キ幾多ノ金ト定ムル時ハ裝載シタル貨物ノ噸數又ハ多寡ニ準シテ船運賃ヲ拂フ可シ貨物ノ分量ヲ論シテ拂ヒテ爲ス時ハ一噸一行李一箇ニ充タサル噸數ヲ算入セス但シ借船契約ノ中ニ特ニ約定スル時ハ此例ニアラス

船運賃ハ貨物ヲ當テ、送ル所ノ港ニ於テ送荷受主ニ交付シ海旅已ニ終ル迄ハ拂フ可キニ非ラス是故ニ該船捕拿セラレ又ハ亡失スル時ハ假令ヒ其人畜ハ死没ストモ船主ハ船運賃ヲ討ムルヲ得可シ但シ之ヲ運送スル爲メト定メタル時ハ途中ニ於テ死没シタル人畜ノ船運賃ヲ討ムルヲ得ス然レナカラ海旅中ニ於テ出生シタル小兒ニ付キ船運



賃ヲ求ムルヲ得ス  
 一箇月又ハ幾多ノ定時間ニ付キ船運賃幾許金ト定メタルニ其船失亡  
 シ又ハ捕拿セラレ、時ハ船主ハ其失亡又ハ捕拿前ノ月數丈ケノ船運  
 賃ヲ討ムルヲ得可シ  
 船運賃ノ拂方ハ獨リ送荷受主ニ討ム可キナリ但シ代理人又ハ經紀人  
 トシテ貨物ヲ領收ストモ敢テ船運賃拂方ノ任責ヲ生セス○通例船運  
 賃ハ貨物引渡シノ上ニテ拂フ可キノ約條ナレハ現ニ貨物ヲ引渡シ海  
 旅既ニ完了スルニ非ラスハ船主ハ貨物ヲ取押フルノ權利無シトス  
 船貨ノ一部分ヲ海中ニ抛擲シテ該船又餘貨ヲ救フコアリ又船主ハ止  
 ムヲ得サルノ事情アルニ由リ船貨ノ一部分ヲ賣却シテ飲食ノ用ニ供  
 シ又ハ船ノ修復料ニ充ツルコアリ斯ノ如キ場合ハ船運賃ヲ催督スル  
 ヲ得ス例ヘハ茲ニ一船アリ貨物ヲ包載シテ一港ヨリ他港ニ駛行シ其

レヨリ第三港ニ至リ遂ニ其會テ開行セシ港ニ歸帆セントス(是ヲ商業  
 海旅ト云フ然ルニ未ダ其會テ開行セシ本港ニ歸着セサルノ前ニ於テ  
 捕拿セラレ又ハ亡失スル時ハ船運賃ヲ拂フヲ要セス  
 船運賃ハ其船既ニ海旅ヲ成シ貨物ヲ交付ス可キノ港ニ於テ之ヲ交付  
 シ了ルニ非レハ拂フヲ要セス然レモ前金ヲ拂ヒ借船契約書ニモ其事  
 ヲ記入スル時ハ假令ヒ其船舶途中ニ於テ捕拿セラレ或ハ亡失ストモ  
 借船主即チ載貨主ハ後ニ之ヲ償還セシムルヲ得ス此原理アルヲ以テ  
 其船途中ニ於テ破爛シ或ハ其海旅ヲ遂シル能ハストモ向キニ前拂シ  
 タル船賃ハ之ヲ償還セシムルヲ得ス  
 凡ソ動物ハ人ナリトモ家畜ナリトモ萬一航海中ニ於テ死没セハ其運  
 送賃ノ拂方ニ付テ左ノ差別ヲ立テラレタリ即チ其契約ニ之ヲ上陸セ  
 シムル爲メニ船運賃ヲ拂フ可シト定メ合ニ於テ船舶遂ニ指シテ行ク



處ニ到着セハ船主ハ其抛擲又ハ賣却ノ貨物ノ分ノ船賃拂ヲ討ムルコトヲ得可シ

借船人即チ貨主カ其貨物ヲ捨棄スルノ議論ハ今日左ノ如クニ決定セリ即チ海旅中ニ船賃損害シテ之ヲ賣却スルモ其運送費ヲ償フニ足ラサル時ハ借船人即チ載貨主ハ場合ニ依リ船賃ヲ捨棄スルヲ得可シ乃チ運送費ヲ拂フノ責ヲ免カル可シ但シ其損害素ト船將ノ失錯ヨリ起ル時ハ商人ハ其貨物ヲ領收セサル已上ハ船將又船主ヲシテ損害ヲ償ハシムルヲ得可シ然レモ其損害海上ノ危難ニ由テ起リ又ハ天然ノ破壞ニ屬シ又ハ貨物ニ隱伏シタル壞敗力ニ出テハ商人自ラ其損害ヲ甘受シテ運送費用ヲ拂ハサル可カラズ

第六節 典船並ニ典貨ノ事

船主タル者開船ノ支度ヲ整フル爲メニ金ヲ借り船底ヲ將テ償却シ抵

當物ト爲ス之ヲ典船ト謂フ此典船ノ約條ハ左ノ如シ即チ船舶失亡スル時ハ貸主金員ノ全額ヲ失フ然レモ該船安全ニ歸着スル時ハ典船者ハ其元金ヲ返償シ且ツ利息ハ法定ノ制限ヲ越ユトモ一旦約定シタル上ハ之ヲ拂ハサル可カラズ船並ニ船上ノ諸器具安全ニ歸着スル時ハ借主ノ身一身ノカヲ置シテ返還ノ任方ヲ勿論其船並ニ船上ノ諸器具トモ借主ノ返償ニ充ツ可シ但シ始メヨリ借金ノ抵當物ハ船コアラズシテ乃チ貨物商品ニアリシナラハ借主ノ一身ヲ以テ其返償ノ責ニ任ス可シ何トナレハ其貨物商品ハ海旅中ニ賣却シ又ハ交易セサルヲ得サレハ歸國ノ後ハ一物ノ存在ス可キ謂レナケレハナリ借主前ノ典當ニハ船ナルヲ以テ之ヲ典船ト曰ヒ此典當ハ貨物ナルヲ以テ之ヲ典貨物ト曰フ

典船ト典貨物トノ差別ハ左ノ如シ即チ典船ハ船ヲ抵當物トシテ金ヲ



貸借スルナリ典貨物ハ貨物ヲ抵當物トシテ金ヲ貸借スルナリ前ノ方  
法ナレハ貨物ヲ失亡ストモ貸主ハ損耗ヲ蒙ルコトナシ後ノ方法ナレハ  
船ハ失亡ストモ貨物ヲ安全ナレハ貸主ハ元利トモ之ヲ借主ヨリ討  
ムルヲ得ルナリ

典船典貨物トモ其貸出シ金ノ員數ハ英國ノ法律ニ於テ其制限ナシト  
雖モ他ノ沿海ノ諸邦ニ於テハ多クハ律法ニ明文アリテ之ヲ限制ス英  
國ニ於テ此類ノ制限ト稱ス可キモノハ西印度行ノ船舶並ニ貨物ヲ抵  
當物トシテ金ヲ貸借スルニ抵當物ノ實價ニ越ユ可カラスノ一條アル  
ノミノ事ハ後文ニ詳カナリ

典船典貨物ノ契約ニハ通例何々ノ損害ハ貸主之ヲ引受ク可シト相記  
スルナリ但シ左ナシニ保險者ヨリ保險契約書ヲ以テ何々ノ損害ヲ償  
ハント結約スルモ其事ハ同一ナリ其損害トハ例ヘハ颶風失火捕拿ノ

等ノ諸災害ヲ謂フナリ但シ其抵當ノ船舶又ハ貨物ノ不長ナルヨリ起  
リタル災害又ハ借主ノ失錯ヨリシタル災害ハ格別ナリ

典貨物ノ利息ハ百ニ付キ四十五ニ及ヘルコトモ屢アリテ畢竟其海旅  
ノ危難ト利益トニ比例スルナリ○典貨物ノ貸主ハ其利息ヲ保險ニ附  
シテ海旅ノ安危ニ拘ハラズ必ス利息ヲ得可シ但シ其利息ハ典貨物上  
ノ割合タルコトヲ保險契約書ニ明記セサル可カラス典貨物上ノ割合トハ  
通常ノ割合ヨリ多キ  
可シナル但シ別段ノ習慣アリテ斯ノ如クセサル時ハ格別ナリ

第七節 航海中損失ノ事

航海上ノ契約並ニ保險ニ於テハ航海中損失ノ語三様ノ意味アリ

第一 保險セラレタル物件ノ一部分失亡シタルヲ謂フ例ヘハ船舶  
又ハ貨物ノ一部分失亡シ又ハ損傷スル時ハ保險者ハ其多少ニ隨  
フテ被保險者ニ賠償セサル可カラズ斯ノ如キ損失ヲ別段ノ損失



ト謂フ

第二 難破セントスル船舶ノ主張全船又全貨物ヲ救ハンガ爲メコ  
 貨物ヲ海中ニ擲棄スル時ハ其貨主ハ全ク所有物ヲ失亡スルナリ  
 然レモ本ト總體安全ノ爲メニスル所ナレハ之ヲ總體ノ損失ト做  
 シテ而シテ凡ソ其船舶運送費或ハ船貨ニ關係アル人ハ各其一部  
 分ヲ引請ケサルヲ得ス此レ等ノ人ノ引請ケタル損失ハ其後ニ至  
 リ保險者豫テ保險者ト契約アラハノ賠償スルモノナリ

第三 凡ソ貨ヲ船積スル商人ヨリ其船長へ手數料トシテ與フル些  
 少ノ謝金モ亦航海中ノ損失ト唱フルナリ

先ツ第一條ノ別段ノ損失ノ事ヲ説明センニ凡ソ航海中ノ損失ハ些細  
 タリモ保險會及ヒ保險人ノ賠償ス可キ譯ナレモ通例ハ保險契約書ニ  
 約條ヲ附加シ別段掲載シタル品物ニ由リテハ貨物ノ全價百ニ付キ三

「ボンド」五「ボンド」已上ノ損失ニ非レハ保險者ヨリ之ヲ賠償セスト定ム  
 ルヲナリ但シ此制限ハ彼ノ一般ノ損失ト稱スル者ニハ及ボサスシテ  
 此レハ其損失百ニ付キ三「ボンド」ニ充タサル者ト雖モ保險者猶ホ其責  
 ニ任セサルヲ得ス

一般ノ損失ハ保險者常ニ之ヲ賠償セサル可カラサルモノナリ而シテ  
 其割合ハ貨物ノ價值ヲ品評シテ一物コトニ銀若干ヲ科スルナリ船舶  
 ノ價值ハ貨物受渡シノ港ニ着達ノ節ノ相場ヲ以テ其實價ト定ムルナ  
 リ船運賃ハ彼ノ船費ト名ツケタル水夫ノ給料水先案内ノ費用等ノ些  
 少ノ金額ヲ扣除シテ殘リタルモノヲ以テ船運賃ノ純利トスルナリ但  
 シ右ノ水夫ノ給料已下ノ諸費用ハ三分ノ二ヲ以テ船賃ニ科シ三分ノ  
 一ヲ以テ船舶ニ科スルナリ

貨物ハ保存セラレタルモノモ失亡シタルモノモ皆ナ其到着ノ港ニ於



ケル相増ニ隨テ其價值ヲ定ムルナリ船中ノ損失ニ付キ各人其船荷物ノ價值ニ應シテ出銀スル其割合ハ恰モ損失ノ總額ノ船舶船運賃船貨ノ總高ニ於ケルカ如シト云フ

船ノ帆網或ハ帆樁破壊スレハ之ヲ一般ノ損失ニ立テ、償フナ常トス但シ新製新購ノ品物ノ價ヒノ中只三分ノ二ヲ償フノニ凡ソ損失ヲ價フ爲メノ科銀ハ該船既ニ貨物受渡シノ港ニ着達スル迄ハ之ヲ出タスコトナシ但シ事變俄ニ起ル時ハ船未ダ其港ニ着セサルノ前ニ於テ科銀ヲ出スコト無キニシモアラヌ

送狀ヲ添ヘテ貨物ヲ船積スル時ハ保險契約中ニ入ル一般ノ損失ハ送狀ニ記載セル物價ニ據テ計算ス可シ其損傷貨物ノ到着シタル市場ノ時價ニ據ル可カラヌ

本友ニ科銀トアリ又損失ヲ償フト云フ皆ナ船客自他互ニ損失ヲ償フニテ保險者ノ償フヲ開フニアラス但シ船客ノ出銀シタルヲ後日ニ償フハ保險者ノ任タリ船ホ保險ノ條下ヲ合看ス可シ

第八節 搭客蒸氣船ノ事

ウヰクトリヤ女王十七年八年ノ決議第百〇四篇ニ據ルニ搭客蒸氣船トハ合衆王國中ノ一地又ハ數地ニ又ハヨリ又ハノ間ニ搭客ヲ運送スル大英蒸氣船ヲ綜括シタル名稱ナリ但シ鏈ヲ以テ相繫キタル蒸氣ノ渡船ハ自ラ別種ニ屬セリ

同決議ニ凡ソ蒸氣船ハ每年少ナクモ二回ツ、測量ス可シトアリ又管商局ハ其至當ト思ヘル港又ハ場所ニ至當ノ人若干名ヲ命シテ船匠測量者名官トナシ又機關測量者名官トナシ右ノ決議ノ趣旨ヲ履行セシム可ク又合衆王國全地ノ爲メニ測量長官ヲ命シ又是等ノ測量者ハ黜退スルヲ得可ク且ツ其給料ヲ増減スルヲ得可シトアリ

測量者ハ其職掌ヲ行ハンカ爲メニ適宜ノ時ニ各蒸氣船ニ行キ船身ヲ檢視シ又諸器械並ニ附屬ノ端船又ハ船上須要物諸雜品等ヲ檢視ス可シ但シ無益ニ時間ヲ移シテ船ノ開行ヲ妨ク可カラストアリ且ツ



又船舶ニ事變アル歟又事由アラハ測量者ノ意見ヲ以テ其船舶ヲ修船所ニ入シテ其船身ヲ測量ス可シ而シテ何人ニ拘ハラズ右ノ測量者右ノ蒸氣ニ乗スルヲ妨ケ其外何事ニ限ラズ測量者ノ奉職上ニ妨害ヲ爲ス者ハ五「ポンド」ヨリ多カラサルノ罰銀ヲ收メラル可シトアリ又測量者タル者固トヨリ一官吏トシテ管商局ノ指揮ニ從ヒ相當ノ給料報酬ヲ取ルヲ得可シト雖モ自ラ測量シタル船舶ノ長又ハ持主ヨリ其測量ニ付キテ直接又ハ間接ニ禮金又報酬ヲ受取ル者ハ五十「ポンド」ヨリ多カラサルノ罰銀ヲ收メラル可シトアリ且ツ又測量ノ届書ハ測量者ヨリ船主ニ交付シ十四日內ニ船主ヨリ管商局ニ差出ス可シ若シ日限ヲ誤リテ遷延スレハ一日ニ付キ十「シリング」宛ノ罰銀ヲ收メラル可シ

(右第十節ニ出ツ)

ウチクトリヤ女王二十五年六年ノ決議第六十三篇ニ據ルニ凡ソ蒸氣

船ウチクトリヤ女王十七年八年ノ決議第百〇四篇ニ據リ管商局ヨリ證書ヲ受取リタル者ヲ以テ船將トス可キホトノ者ハ一人乃至二人ノ機關手ヲ置カサル可カラス此機關手モ亦必ス第一等若シハ第二等ノ證書ヲ有セサル可カラス又外國船ニシテ百馬力以上ト稱スル者必ス免許狀ヲ取リタル機關手二名ヲ以テ其第一等機關手第二等機關手ニ充ツ可シ但シ一人ハ第一等ノ免許狀ヲ有スル者一人ハ第二等ノ免許狀ヲ有スル者タル可シ凡ソ内國貿易用ノ搭客汽船ニシテ航海スル者ハ必ス第二等以上ノ免許狀ヲ有スル者ヲ用ヒテ其專任ノ機關手又ハ一等ノ機關手ト爲ス可シ〇凡ソ右ノ免許狀等無クシテ航海スル機關手及ヒ之ヲ使用スル雇主ハ一犯毎ニ五十「ポンド」ヲ超ヘサルノ罰銀ヲ科セラル可シ〇海上衝突ヲ豫防スルノ條例及ヒ汽船帆走船ノ點燈ノ規則並ニ迷雾ノ暗號及ヒ汽船帆走船ノ舵ノ把リ方及ヒ其出會ノ時



ノ規則等ハ此決議ノ表中ニ詳カナリ

第九節 破船並ニ救難賞金ノ事

ウヰクトリヤ女王十七年八年ノ決議第百〇四篇第四百五十八節ニ據ルニ船泊又小艇合衆王國中ノ海水又ハ潮汐水ノ濱岸ニ於テ擱淺シ或ハ危難ヲ蒙ル時ニ其船舶又ハ小艇ニ助力シテ其船舶小艇ニ屬スル人ノ生命ヲ救ヒ又ハ其船舶小艇ノ船貨裝置又ハ其一部分ヲ救ヒタル人アリ又船舶ノ難破セントスル時ニ方リ合衆王國中ニ在ル請取人官名ニ破ノ船ヲ保存スルニ其職務トス已外ノ人ニシテ之ヲ救ヒタラハ其船舶小艇船貨船具ノ持主ヨリ其救助ノ諸事又ハ一事ヲ爲シタル人又ハ其難破ヲ救ヒタル人ニ相當ノ救難賞金並ニ其救助ノ諸事ニ付キ又難破ヲ救フニ付キ其人當然ニ相掛ケタル費用ノ金額ヲ與フ可シ〇上文ニ言フ所ノ船舶又小艇ニ屬スル一人又諸人ノ生命ヲ保存シタルニ付キ與フ可キ救難

賞金ハ其船舶小艇ノ持主タル者他ノ救難賞金ヲ措キ先ツ第一ニ之ヲ與ヘサル可カラス〇一船舶一小艇擱淺スル時又ハ一船舶一小艇或ハ船貨ノ一部分又ハ船ノ裝置ノ一部分ヲ海岸ニ於テナリトモ水上ニ游泳シテナリトモ兇徒ノ嘯集スル者之ヲ掠奪シ損傷シ破却スル時ハ其犯事ノ發シタル場所ノ百人組又ハ其區ノ住民又ハ同シク最寄ノ住民ヨリ船主ニ十分ノ償金ヲ出ス可シ但シシオルシ第四世八年ノ決議第三十一篇ニ兇徒寺院其外ノ建築物ヲ破壊スル者ヲ處スルノ條例アリ船舶ノ破傷等モ此條例ニ照準シテ處分ス可キナリ

第十節 水先キ貸錢ノ事

水先案内者ハ船ノ舵ヲ把リ水路ヲ案内スルモノニシテ而シテ此名ヲ以テ呼ハル、所ノ貴重ナル一社會ハ則チ海岸ノ某々ノ限界中並ニ王國ノ河川市口ノ内外ヲ航行スルヲ免許セラル、ナリテ一ムス河及ヒ



メドエイ河ニ於ケル水先案内ノ事並ニオルフォルドチヌヨリイヌルヲ  
 スワイト迄ノ海岸ノ間ノ水先案内ハ「トリニフイ、ハウス」會社並ニサン  
 ク、ポルツノ「ロルド」ワルドン之ヲ管理ス王國中ニ在ル他ノ港口ノ水先  
 案内者ハ地方條例又ハ特恩城邑建置ノ證書又ハウヰンクトリヤ女王十  
 七年八年ノ決議第百〇四篇即チ海商條例ニ因リ之ヲ命シ之ヲ管理ス  
 而シテ凡ソ海旅中ニ條例ト習慣トニ據リ水先案内者ヲ使用スル港口  
 ニ着スレハ此案内者ヲ用ヒサル可カラズ但シ後章ニ記載スル如ク特  
 ニ免セラレタル者ハ此例ニアラス勿論水先案内ノ管轄内ニ於テ此案  
 内者ヲ嚴ニ使用セシムルハ海上航行ノ船舶ノミニシテ海岸ニ傍テ駛  
 行スル船舶ハ自ラ別アリ「船上ニ直個ノ水先案内者ヲ使用セル船ナレ  
 ハ船主ハ案内者ノ不煉熟又簡慢ヨリ生シタル損害ノ責ニ任セス然レ  
 此案内者ノ所爲ハ船主之ヲ管束スルヲ得ス又案内者現在ストモ船主

ノ不注意ヨリ起リタル事ハ船主其責ニ任セサルヲ得ス案内者ノ知ル  
 所ニアラス

水先案内ニ關シタル管轄應ハ既ニ免許證書ヲ得タル船將又ハ副船將  
 ニハ其船ノ水先案内爲ルヲ許スヲ得可シ按スルニ別ニ水先案内ヲ使用  
 フ而シテ船將副船將ノ既ニ試験ヲ經了シテ航海術ノ免許證書ヲ得タ  
 ル者ハ其及第シタル限界中ニ於テハ自ラ航海ニ專任シテ復タ水先案  
 内者ヲ用フルヲ要セス但シ此免許證書ハ毎年改メ受取ル可シ又免許  
 證書ヲ受取リタル者ハ無免許ノ水先案内者ヲ使用シテ己レノ補助ト  
 ナスヲ得ス「免許證書ヲ出ス所」トリニフイ、ハウス「會社其他凡テ此事  
 ニ關シ十分ノ威權ヲ有スルモノニ限ル可シ而シテ其證書ハ其會社ノ  
 管轄内ニ通行ス可シ若シ二三ノ管轄權アリテ並ヒ行ハル、時ハ各管  
 轄應ヨリ免許證書ヲ得サル可カラズ



第十一節 水夫衛生ノ事

前節ノ外ニ航海律ニ付キテノ改正條例ハ千八百六十七年ウクトリヤ女王三十年三十一年ノ決議第二百二十四篇即是ナリ此改正條例ハ廣シ醫藥醫科用ノ諸物品並ニ止疽藥ニ關スト雖モ就中左ノ規則ヲ擧ケタリ即チ管商局ハ諸種ノ船舶並ニ諸般ノ海旅ニ適當ス可キ藥材並ニ醫科用ノ諸物品ノ等級表船ノ大小ニ應シテ藥ヲ出版セシム可キ事及ヒ其服用方ノ書籍ヲ編製セシム可キ事ヲ布告シタリ合衆王國ト合衆王國外ノ一地ノ間ニ航行スル各船ノ持主ハ必ス其船舶ニ應シタル等級ノ醫科用ノ諸物品ヲ船上ニ備置キ且ツ其服用ノ方法ヲ明記シタル書籍一部ヲモ備ヘ置ク可シ凡ソ菩提樹汁及ヒ檸檬汁ハ石藏ヨリ得タルモノ歟又ハ他ノ藏ヨリ出シタルモノニシテ且ツ監視官手記ノ證書ニ據リテ其船上ニ用フルコ

適スルヲ判然タルニ非レハ之ヲ船上ニ備ヘ置キテ水夫並ニ搭客ノ飲料ニ供ス可カラス

水夫疾病ノ時ノ費用ハ船主又船將ノ怠懈ヨリ起リタラハ船主船將之ヲ償フ可シ但シ水夫ノ過失ヨリ起ラハ水夫ノ給料ヲ割テ之ニ充ツ可シ(第八節ニ出ツ)又坐臥ノ場所ニ至テハ各水夫ノ占領ス可キ廣サハ七十二立方「フット」ヨリ多カル可カラス又甲板上又ハ船ノ地板ユカニ於テ測量シ十二平方「フット」ヨリ少カラサル可シ又第十節ニハ水夫志願ノ者ノ體格ヲ檢視スルノ規則十六條ヲ揭載ス

第十二章 諸事保險ノ條

マルシヤル氏保險ノ義ヲ釋シテ曰ク約定ノ金額ヲ請取り萬一危難損耗ニ罹リ又凶事ノ發スルアラハ之ヲ賠償セシムヲ引受クルノ契約ヲ謂フナリト而シテ其危難損耗ヲ引受ル者ヲ保險者ト曰ヒ又一コ下名



人ト曰フ蓋シ保險證書ノ末尾ニ其名ヲ手署スル故ナリ而シテ保險セ  
 フル、者ヲ被保者ト云フ保險ノ代價トシテ保險者ニ與フル金額ヲ利  
 子ト曰ヒ其契約ヲ書シテ本式ニ仕立ツル證書ヲ保險證書ト曰フ  
 保險證書ハ二種アリ一ハ有價ト云フ即チ貨物ノ價值ヲ明記シ一ハ無  
 價ト云フ即チ其價值ヲ明記セス無價ノ保險證書ナレハ其價值ヲ證徴  
 セサル可カラス有價ノモノナレハ之ヲ證徴スルヲ要セス  
 凡ソ保險證書ハ多クハ仲買人ナル者雙方ノ間ニ周旋シテ其契約ヲ結  
 ビ相當ノ証印紙ヲ貼付ス而シテ固トヨリ單一契約ノ一種ニ屬スル者  
 ナレハ其契約ノ真意ノ在ル所ヲ釋解スルニモ務メテ契約スル人雙方  
 ノ心意ヲ遊フ可シ決シ其ノ文字ニ拘局ス可カラス而シテ些細ヨリモ  
 詐偽ニ涉ル事アラハ其契約書ヲ廢棄ス可シ雙方トモ共知リ及ヒタル  
 事情ヲ暴白ス可シ若シ事實ヲ隱匿シ又ハ其陳述スル所事實ニ相違セ

ハ其契約書ヲ廢紙ト爲ス可シ

保險ノ種類一ナラズ船舶貨物等ノ海上ノ危險ヲ保險スルモノアリ住  
 家建物等ノ火災ヲ保險スルモノアリ其餘目大約左ノ如シ

第一 海上保險

第二 賭博保險

第三 火難保險

第四 生命保險

第五 生命保險年賦金

第一節 海上保險ノ事

ソオルシ第一世六年ノ決議第十八篇ニ據ルニ「ロイヤルニキス」アン  
 ナ「號保險會社並ニ「ロンドン」號保險會社ハ海上保險ノ契約ヲ成スノ特  
 權ヲ有シテ而シテ他人此事ヲ爲スハ皆テ律法ニ背クモノト布告セラレ



然タル會社又ハ諸人ノ私ニ會社ヲ結フ者ト雖モ海上ノ船舶並ニ貨物ニ  
 付キ保險ノ契約ヲ成スヲ許シ併セテ典船ノ契約ヲ成スヲモ許シタリ  
 海上ノ保險ニ於テハ何日ニ出帆セント約シタル人其日ニ出帆セスハ  
 保險者ハ其責ヲ免カル、ナリ又何日ノ後ニ出帆セント約シタル人其  
 日ノ前ニ出帆セハ又保險證書ハ廢紙トナルナリ  
 又被保者護送船ヲ率ヒテ出帆セント約シ而シテ之ヲ率ヒスシテ出帆  
 セハ保險證書其効ヲ失フ可シ又被保者ハ船上ノ貨物ヲ局外貨ナリト  
 明言スト雖モ其實然ラサル時ハ保險ノ契約管ニ其背約ノ爲メニ其効  
 ナキ者トナルノミナラス又諸人通知ノ事實ヲ隱匿シタルノ咎アルヲ  
 以テ始メヨリ全ク約定セサルニ同シトナス  
 船ヲ替フルヲ俗ニ船底ヲ易フト曰フ此事ヲ爲ス時ハ被保者假令ヒ

船貨ヲ損耗シタリハ保險者ヲ相手取リテ之ヲ賠償セシムルヲ得ス又  
 被保者海旅ノ通常ノ正路ヲ取ラサレハ保險者亦任責ヲ免カル、ナリ  
 保險セラル、各船ハ其保險ノ契約ノ時必ス航海スルニ適セサル可カ  
 ラス但シ災難ノ外ヨリ發シ來ルハ格別ナリト一般ニ定斷セラレタリ  
 若シ船舶ニ隱伏シタル缺處アリテ雙方トモ全ク之ヲ知り及ハスハ其  
 發見シタル上ニテ其保險ノ契約ハ虛無ニ歸シ保險者ハ其任責ヲ免  
 カル、ナリ  
 國律ノ禁スル所歟又ハ敵國トノ貿易ヲ回復セントスル歟又ハ禁制商  
 品ノ輸出入ヲ保護セン爲メニ海旅ヲナシテ貨物ヲ保險セシムルハ皆  
 ナ其効ナキモノト爲ス依テ被保者ハ利子ヲ返償セシムルヲ得ス  
 不法ノ保險ニ付キ一タヒ拂フタル利子ハ之ヲ返償セシムルヲ得ス○  
 猶ホ此書ノ卷末ニ附加スル所ノ字書ニ於テ證印稅輸出入稅ノ條下ニ



合看シ若シ未ダ慷慨クテサレハウキントリヤ女王三十年三十一年ノ決議第二十三篇及ヒ三十一年二年ノ決議第八十六篇ヲ参考ス可シ○又證印税ノ事ハ同女王三十三年四年ノ決議第九十七篇ニ就テ見ル可シ

第二節 賭博保險ノ事

保險ノ契約ハ律法ヲ以テ之ヲ保護シ之ヲ獎勵ス蓋シ商業上ノ損益トモ之ヲ行險者數人ノ中ニ平均シテ而シテ假令ヒ前見セサルノ災害並ヒ至ルモ一人一方チシテ回復ス可カラサルノ域ニ沈淪セシメサランカ爲メナリ保險ノ旨意ハ斯ノ如クナリト雖モ百事弊ナキト能ハス曾テ空保險ト稱スル一種賭博様ノ事流行シタリ是レハ自ラ船上ニ貨物ヲ有セサル者大金ヲ保險セシメ又ハ同貨物ヲ二重三重ニ保險セシメテ以テ空商ニ涉ルノ事ヲ行フナリ此二ノ者貨物ヲ有セスシテ保險セシムルヲ謂フハ賭博ノ一種ニシテ貿易ノ爲メニハ實アリトモ決シテ利ナ

シ之ヲ賭博保險ト曰フ

此ノ如キ虛構又ハ賭博様ノ行爲ヲ禁止セシカ爲メニシテオルフ第二世十九年ノ決議第三十七篇ニ定メテ曰ク凡ソ空保險ト稱スル者並ニ其契約書ノ外ニ更ニ實物ナキノ保險及ヒ賭博ニ涉ル者又ハ賭錢ニ涉ル者若クハ保險者ノ爲メニ殘貨災害ノトキ救ハレハレノ利得ナキ者ハ虛無ニシテ其効ナキモノトスト又曰ク西印度ノ貿易ニ於テハ典船貨物ノ當主シテノカシテニ限リテ典人即チ借主ヲシテ其貸シ錢ヲ保險ニ附セシムルノ權アリ而シテ典人即チ借主ハ海上ノ災害ニテ損耗ヲ蒙リタル時船舶ナリ品物ナリ其己レノ有ニ屬スル分ヨリ多クテ保險者ヨリ返償セシムルヲ得スト

右ノ條例ハ外國船ニハ及ホサス依テ外國船ニハ往々空保險ト稱スル者アリト云フ思フニ之ヲ條例外ニ置ク者ハ其空實ヲ認定セント欲ス



ト雖モ外國ヨリ證人ヲ招クコトハ成リ難キ故ナリ  
 第三節 火災保險ノ事  
 火難保險ノ契約ニ由リテ保險者ハ被保者ノ住家又ハ他ノ建築物或ハ  
 資本貨物商品等某年月間ニ火災ニテ失亡シ又ハ損害セハ之ヲ賠償セ  
 ント引受ケ其レカ爲メニ被保者ヨリ一時又ハ年賦ニテ多少ノ掛ケ金  
 (又利息トモ謂フ)ヲ受取ルナリ  
 火災保險會社ハ或ハ國王ヨリノ免許狀ヲ證據トシテ建設スル者アリ  
 或ハ創立證書ヲ得リ之ヲ官廳ニ入簿スル者アリ又地面ノ證券ヲ抵當  
 物ニ出シ置テ火難保險ノ業ヲ始ムル者アリ凡テ其會社ヲ管轄スルノ  
 規則ハ總理人之ヲ制定シ置キテ各人貨物ノ保險ヲ請フ時ニ其一通ヲ  
 付與ス其人異議ヲ發セスハ則チ其規則ヲ承認シ保險賠償ニ付キテノ  
 約條ヲ守ルモノト見做スナリ

火難保險ノ契約書ハ他人ニ讓渡スコトヲ得ス又其契約書中ニ存スル實  
 利ハ保險者ノ承諾無クハ一人ヨリ他人ニ賣渡スコトヲ得ス但シ當人死  
 スルトモ其所有物ヲ相續スル者其次ノ拂ヒヲ爲ス前ニ先ツ保險局ニ  
 於テ其保險契約書ニ自己ノ姓名ヲ裏書セシムル歟又ハ直チニ自己ノ  
 名ヲ以テ掛金ヲ拂フ等ノ事ヲ濟サハ其保險契約並ニ其保險契約書中  
 ニ存スル實利モ其相續スル者ニ留リ存ス可シ  
 保險契約書中ニ保險者ハ保險契約ヲ爲スノ時ニ於テ掛金ヲ領收シタ  
 リト書ス而シテ印刷シタル申合規則ニハ被保者又ハ代理人ヨリ現ニ  
 掛金ヲ拂フ迄ハ保險ヲ始メスト約定スルナリ但シ「エキスタアン」號  
 社並ニ「フキ」ニ「シ」號社等ハ毎年ノ契約又ハ更ニ永キノ契約ナレハ  
 毎年保險ノ掛金ニ付キ十五日ノ猶豫ヲ許ス然レモ一年未滿ノ契約ナ  
 レハ保險契約書中ニ記スル期日ノ晚六時ニ於テ其契約滿期ト定メタリ



失火ノアリタル時ハ直チニ其趣ヲ保險局ニ報知シ且ツ豫メ定メタル規則ニ從ヒ可成丈ケ速カニスル歟又ハ期限ノ時間中ニ其損失ノ内課書ヲ差出ス可シ勿論誓詞ヲ添ヘ又ハ證詞ヲ附ケ且ツ會計簿並ニ扣書等ノ彼ヨリ求メラル、者又我レニ在リ合ハスル者ヲモ差出ス可シ且ツ又保險局ニヨリテハ此外ニ更ニ一通ノ證書ヲ要求スル者ヨリ此證書ハ牧師並ニ寺院看護役之ニ署名シ其他牧師管轄地ノ住民ニシテ其火難ニ關係ナキ身元正シキ者二三名之ニ同署シテ其罹災ノ人ノ性質並ニ事情トテ熟知スル趣ト其災ニ罹リタルニ相違ナキ趣トテ保證スル者ナリ

「ロルド」セイントレチナルドス曰ク火難保險證契約書ハ保險社ヲシテ法律上ニ於テ責ニ任ス可キヤウニ編製シタル者ハ太ク稀レナリ何トナレハ其保險ノ約條ニ付キテ所有物ヲ記載スルコトハ大抵保險會社ノ

方ニテ之ヲ草スルヲ以テ其記事甚ク精確ナラサレハナリ蓋シ會社ハ書式又ハ言語ノ用法ノ誤謬ヲ咎メ之ニ乘シテ利ヲ得ルカ如キノ卑劣ヲ行ハスシテ苟クモ被保者ヨリ要求スル所理ニ合ハ、速ニ償還スルヲ以テ其本意トスルモ又法律ニ據リテ其要求スル所ヲ拒ムハ敢テ好マサルニモ非ラズ又被保者ニ詐偽アリト信スル時ハ確手タル證據ヲ押ヘストモ其要求スル所ヲ拒絕スルコトモ亦敢テ好マサル所ニ非レハナリ

被保者ハ何如ナル金額ヲ保證セシムトモ其償還セシムルハ其現ニ蒙リタル損失ノ外ニ超過スルヲ得ス何トナレハ然ラサレハ詐偽又ハ通謀等ノ弊害ヲ醸成スル必然ナレハナリ

保險會社多クハ一部分ノ損失ヲ賠償スルヲ己レノ責任ト思ヘリ依テ會社ニテハ豫テ保險規則書ヲ印刷シテ左ノ件々ヲ約定ス即チ失火ノ



時ニ貨物ヲ運搬スルニ付キテ相當ノ費用ヲ賠償シ又其運搬中ニ貨物  
破壊シ亡失シ又ハ損害スル時ハ罹難ノ人ノ損失ヲ賠償セント約定ス  
ルナリ

第四節 生命保險ノ事

生命保險ハ契約ノ一種ニシテ其法其生命ヲ保險セラル、人ノ年齢強  
弱、職業等ノ諸景況ニ準シテ保險者一時ニ掛金ノ總額ヲ請取リ又ハ時  
々ニ掛金ヲ請取リテ其保險セラル、人ノ死去スル時ニ至リ其保險ノ  
裨益ヲ受ク可キ人(即チ死者ノ妻子眷族等)へ約定ノ金高ヲ拂ヒ又ハ之  
ニ比敵ス可キ年賦金ヲ拂ハントノ契約ナリ但シ此レニ全ク一生間ヲ  
保險スル者ト一生間ノ若干年ヲ保險スルトノ二種アリ前ナル保險ナ  
レハ何時ニ死ストモ保險者ヨリ其約定ノ金額ヲ拂フナリ後ナル保險  
ナレハ其若干年ノ間ニ死スルニ非レハ其約定ノ金額ヲ拂フ事ナキナリ

此生命保險ノ利便ハ妻子眷族ノ家長一人ノ生命ニ倚頼スル者ノ爲メ  
ニ身後ノ計ヲ爲スニアルアリ即チ己レノ一生限り又他人ノ一生限り  
ノ歳入ヲ占ル者ハ其出ル所ハ土地ナリ且職業ナリ且寺院ノ給料ナリ  
且政府ノ官職又ハ退休俸又ハ年金ナリ且固トヨリ永遠無疆ノモノニ  
アラズ依テ斯ノ如キノ人ハ現今ノ費用ヲ可成丈ケ省減シテ保險會社  
ニ年々ノ掛金ヲナシ置キ其寡婦其子女又ハ倚頼人ノ爲メニ身ニ相當  
ノ金高又ハ之ニ比敵ス可キ年金ヲ得セシムルナリ  
死後ニ返償ノ期會ナカル可キ人若シ金ヲ借ラントスル時ハ此生命保  
險ノ法ヲ用フ例ハ甲某氏ヨリ乙某氏ニ百ポンドヲ貸ス然ルニ乙某  
氏ハ己レノ一身ノ外抵當トナス可キ物ナシ依テ乙某氏ハ己レノ死後  
ニ甲某氏ヲシテ損失ナガラシメシメシメニ丙某氏ナル保險者ニ謀リ甲  
某氏ノ爲メニ己レノ生命ヲ保險セシム此仕法ヲ用フル時ハ乙某氏ハ



保險契約書中ニ明記スル時限中ニ死セハ甲某氏ハ丙某氏即チ保險者  
 ニ催促シテ其保險ノ金高ヲ取ルヲ得可シ  
 凡テ保險ノ方法ニ付テ概説シタル規則並ニ論説及ヒ殊ニ海上保險ニ  
 付テ明文ニ記シタルモ皆チ生命保險ニ通用ス可シ保險契約書ヲ講釋  
 スルノ方法モ亦前ト同一ナル可シ詐僞アラハ契約ヲ廢棄スルコトモ亦  
 前ト同一ナル可シ又健康年齢職業等ニ就テノ保證書ヲ調査スルコトモ  
 前ト同シ綿密ニ注意ス可シ  
 明白ニ人ノ健康ナルヲ保證スルノ場合ニ於テモ其人現ニ疾病サヘナ  
 クソハ正實ノ保證ト見做ス可シ何トナレハ健康ノ保證トハ素ト疾病  
 ノ種子ナキヲ謂フニ非レハナリ又假令ヒ被保者ハ一疾持病ニ苦ミ居  
 タリモ醫師ノ説ニ其死シタルハ其疾ニ因依スルニ非ラスト證スルハ  
 則チ生前健康保證モ猶ホ詐僞ニ非レハ保險者ニ其責ヲ免カレハ得

保險者ノ當ル所ノ危難ハ之ヲ保險契約書ヲ記入スルヲ常トナス而シ  
 テ凡ソ人生ノ遭遇ス可キ危難ハ皆チ其中ニ在リ但シ自殺並ニ死刑ハ  
 其限リニ在ラス一タヒ保險ノ契約ヲ始メタル時ハ其掛ケ金ヲ割戻  
 ストナシ例ヘハ生命ヲ保險セラレタル者其翌日ニ自殺シ又ハ死刑ニ  
 處セラルハ一アラハ保險者ハ其責ヲ免カル可シ保險者ニリノ掛金ハ  
 割戻スコトナシ  
 生命保險ニ於テ賭博様ノ所爲ヲ禁止センカ爲メニシオルヲ第三世十  
 四年ノ決議第四十八篇ニ定メテ曰ク凡ソ生命又ハ他ノ事故ニ付キ取  
 結ヒタル保險契約ハ被保者實物ヲ有スルニ非レハ其効ナキモノトス  
 ト又曰ク其實物ヲ有シ其實利ニ與カル者ノ姓名ハ必ス契約書ニ記入  
 ス可シ而シテ被保者果シテ人ノ生死又事故ニ由テ利害ヲ蒙ルノ場合



ニ於テモ被保者其保險セラレタル實物ノ分量即チ價值ヨリ多少ノ金額ヲ保險者ヨリ返償セシメ即チ請取ルヲ得スト

第五節 生涯年賦金ノ事

生涯年賦金トハ一生涯又ハ若干年ノ間毎年若干ノ金ヲ拂フヲ謂フナリ若シ地面ノ物成ノ中ヨリ之ヲ拂フ時ハ是チ地稅ト謂フ然ルニ地面ト一身トヲ以テ引受シルヲモ其例少ナカラス斯ノ如キノ場合ニ於テハ是チ年賦金ト謂フ而シテ世間ニ於テ此仕法ヲ用フル所以ハ生命保險ト同ク自ラ止ムヲ得サルノ事情ニ出ルナリ例ヘハ茲ニ金ヲ借ル者アリ返償ノ抵當物ノ確乎タルモノヲ與フルヲ得ス依テ其借金ノ多寡ト己レノ死生ノ慮慮ノ緩急ニ隨フテ貸主ノ一生涯ノ若干ノ年賦金ヲ拂ハント約定スルアリ

通例年賦金ノ受取主即金ノハ其給與者ノ生命ヲ保護セシム而シテ保

險會社其給與者ノ生命ヲ保險スルヤ否ヲ審ニセサレハ受取主出金ナルヲナシ而シテ通例受取主ハ年々ノ利子ニ年々ノ保險ノ掛金ヲ加ヘテ而シテ給與者チシテ百毎ニ十五「ポンド」ノ年賦金ヲ以テ其二ノ者チ拂ハシム然レハ受取主ハ給與者ノ囊中ヨリ己レノ危難損失ヲ賠償セシメ以テ百毎ニ十一「ポンド」ノ純益ヲ占ム可シ此種類ノ所爲ハ通例竊盜ニ近キ奸計ヲ雜フルヲ以テ年賦金ノ給與者ハ往々損失ヲ後悔スルヲアリ因テ此弊害ヲ匡濟スル爲メニ國會ニ於テ種々ノ條例ヲ制定シタリ

シオトルヲ第三世五十二年ノ決議第百四十一篇ハシオトルヲ第四世三年ノ決議及ヒ七年ノ決議第七十五篇ヲ以テ其意味ヲ講明シタルモノナルカ此條例ニ據レハ一生涯又ハ若干年ノ間給與スル年賦金又ハ地稅ハ其締約後三十日ニ「チャンセリ」廳ノ記録ニ登記シ其日附其立會人



ノ姓名及ヒ其利益ニ預ル人ノ姓名ヲハ其證書證文又書附ニ記入セザル可カラズ滿齡已下ノ人ノ爲シタル年賦ノ金ノ契約ハ其効ナキモノト爲ス又滿齡已下ノ者ハ其幼者ナルニ推託シテ年賦金又ハ地稅ノ催徴ヲ拒ムヲ得可シ然ルニ他人ヨリ其幼者ニ請求シテ其催徴ヲ拒マザラシメ又ハ拒マサル可シトノ約ヲ立テシ者ハ輕罪ト云フヲ以テ罰セラル可シ又狀師仲買等凡テ雙方ノ間ニ入りテ周旋スル者百毎ニ十シテルリソグ以上ノ禮金又禮物ヲ催促シ又ハ之ヲ受取ル者モ亦然リトス然レモ右ノ條例ハ元ト高利律ノ一部分タリシヲ以テ千六百五十四年他ノ高利ノ條例ト共ニ廢除セラレタリ

シオルフ第四世十年ノ決議第二十四篇ニ據ルニ國債消却局ノ委員ハ借債資本金ノ中ヨリ支給ス可キ生涯年賦金ヲ與フルヲ得ルナリ此生涯ト云フハ一生涯即チ一代ノモノアリ又ニ生涯即チ二代ノモノアリ

或ハ二人ノ生涯ヲ合併シ其繼續ノ間ヲ謂フモノアリ然レハ一生涯ト限ルニオラス只永世ニ非サルノミ又此委員ハ現世ニ始ル可キモノ將來ニ始ル可キモノ又ハ若干年ノ間ニ限ルモノ何ニテモ年賦金ヲ與フルヲ得ルナリ右ノ條例ニ照準シテ與フ可キ年賦金ノ多寡ハ豫テ大藏省ニ許認セラレタル實驗表ニ據テ人生ノ長短ヲ推測シテ之ヲ定ムルナリ此年賦金ヲ得ル仕法ハ或ハ百「ポンド」ヨリ少カラサルノ公債證書ト此年賦金ヲ交換シ或ハ若干ノ金額ヲ納メタルニ因リテ之ヲ得ルアリ又ハ年々五「ポンド」ヨリ少ナカラサルノ金額ヲ拂フニヨリテ之ヲ得ルナリ但シ此年賦金ハ委員ノ見込ニ之ヲ不可トスル時ハ決メ之ヲ與フルヲナシ

借錢銀行ニ預ク金ヲナシタル者年賦金ヲ購得スルノ仕法ハ前既ニ政府ヨリ下附スル年金ノ購求ヲ論セシ章中ニ詳カナリ



第十三章 證文讓渡シ證文負債返償並ニ請人ヲ立テタル證文  
「アットニー」ハ代理人又ノ證書約定證文口上約定失物探索ノ法  
律ノ條

證文トハ羊皮紙又ハ通常ノ洋紙ニ書シ雙方ニテ署名調印シテ授受マ  
タル書付ヲ謂フナリ而シテ何ノ書體ニテ書スルモ妨ケナク何國ノ語  
ヲ以テスルモ亦妨ケナシ而シテ従前一人ヨリ多クノ人之ヲ裁製スル  
時ハ其人員ノ多少ニ隨フテ數通ヲ作り而シテ每通其紙邊ヲ截斷シテ  
鋸齒様トナシ紙邊ノ凸凹相容ル、樣ニナシ是ヲ券ト名ツケタリキ今日  
ハ此名稱ハ存スト雖モ其事ハ廢絶シタリ一方ノミノ契約者ニテ裁製  
シタル證文ハ紙邊ヲ截斷シテ鋸齒様ト爲スノ事ナシ唯其紙邊ヲ直截  
スルノミ斯ノ如キノ證文ヲ「ゲイド、ポール」ト謂フ即チ單證文ノ義ナリ  
而シテ證文ノ紙邊ヲ凸凹ニスルコトハ今日ニ於テ其契約ノ確實ナルコ

損益ナシトス

凡ソ證文ナシテ實正タラシムルコトハ左ノ七事ヲ必要トス

第一 雙方ハ法律上ニ於テ契約ス可キ身分ノ者タル可シ又契約ノ  
事件明白ナラサル可カラス而シテ契約人ノ姓名並ニ其事件ヲ明  
白ニ掲載セサル可カラス

第二 契約ヲ做シ證文ヲ裁製スルハ代價ヲ取ルノ趣意歟又ハ人ヲ  
信愛スルノ趣意ニ出ルモノナル可シ決シ購買人ヲ欺キ又ハ正直  
且ツ合法ナル討債人ヲ欺キ又ハ正直且ツ合法ナル討債人ヲ欺カ  
ン爲メノ詐偽又ハ同謀欺騙ニ出ツ可カラス勿論斯ノ如キノ詐偽  
欺騙ノ契約ハ購買人又ハ合法ノ討債人ニ對シテハ其効ナキ者タ  
リト雖モ其契約ノ雙方ノ間ニ於テ其効ナキニ非ラス例ハ讓渡  
シ讓請ノ契約ナレハ其讓請人又ハ讓渡シ人ハ其契約ヲ互ニ其効



ナントスルヲ得ス

第三 契約証文ハ必ス書記シタルモノ歟又ハ印刷シタル者ナル可  
シ且ツ法律ニ其定メアル場合ニ於テハ必ス證券印紙ヲ貼付ス可  
シ否ラサレハ後日之ヲ證據トシテ出スヲ得ス但シ今日ニ於テハ  
無証印ノ証文ダリト其當人ヨリ其證券印紙税ト罰金トノ金額ヲ  
以テ該廳ノ役人ニ出ス上ハ證據トシテ出スヲ得ルナリ

第四 其書記ス可キ事件ハ必ス法律ニ從ヒ順序ヲ立テ且ツ理解シ  
易キヤウニ掲載ス可シ

第五 証文ハ要求セラル、時ハ其契約人ノ中何人ニモ讀聞ス可シ  
若シ詐リ讀ム時ハ其証文モ効ナキ者トナル而シテ契約人ノ中ニ  
之ヲ讀ムヲ能ハサル者アラハ必ス之ヲ讀聞ス可シ

第六 証文ハ必ス調印シ且ツ署名ス可シ但シ委任セラレタル權ニ

據テ結ヒタル條約ヲ除クノ外ハ調印シテ授受セハ署名ナクトモ  
可ナルニ似タリ

第七 証文ニ於テ尙ホ必要トナス一事ハ立會即チ證人ノ目前ニ於

テ証文ヲ完備スルヲナリ但シ是ハ大概証文ノ一要部タルヨリモ  
寧ロ後日ノ爲メニ證據ヲ保存スルニ必要トナスノミ

文法ノ誤謬ハ証文ノ實正タルニ妨ケナシ但シ緊要ノ部分ニ於テ字ヲ  
塗抹シ又ハ行間ニ細字ヲ書スルハ或ハ証文ヲシテ不實正ナラシム是  
故ニ右ノ如キノ場合ニ於テハ其趣キヲ紙背ニ書シ且ツ其事調印ノ前  
ニアリシトノ證言ヲ加フ可シ

調印シタル後ニ災害等ニ罹リテ印形ヲ西ノ習慣印ハ重ニ毀シ之ノ破  
壞スルヲアリ或ハ損壞スルヲアリハ証文ハ尙ホ實正タリ但シ他人ニ  
義務ヲ責ムル人自ラ故意ニ印形ヲ破壞スル時ハ即チ其証文ヲ廢紙ト



ナスト云フ然レハ他人ニ義務ヲ負フ者惡意ヲ以テ之ヲ破損スル時ハ其證文廢紙トナラサルナリ  
證文ニ日附ヲ記入スルト否トハ證文ノ實正ナルト否トニ於テ損益ナシ但シ日附ヲ填入セサル時ハ其授受ノ日ヲ初日トシテ起算ス可シ  
金銀財寶ノ如キ浮産ハ之ヲ讓渡スニ手ヨリ手ニ渡スヲ得可シ但シ地面家屋ノ如キ實産ハ之ヲ授與スルニハ證文ヲ以テシ或ハ家産相続ノ法ニ依リ或ハ遺言ニヨルナリ

仁惠ノ諸用ニ供スル爲メニ所有物ヲ讓與スルニ至テハウカントリヤ女王二十四年五年ノ決議第九篇ニ其規則ヲ擧ゲタリ其規則ニ曰ク自今已後仁惠ノ諸用ニ供スル爲メニ己レノ遺傳物又ハ其一部ヲ讓與スルノ證文又保證書ハ假令ヒ其紙邊ヲ鋸齒樣ニ截斷セサルモ其効アルモノトナス又其證文ニ讓與者一個ノ利益ノ爲メニ別段ノ約條ヲ含有ス

トモ又其効ヲ失ナハス又「ヨビ」ホルヤ」由緒書アル借地ナレハ其讓與スルニ證文ヲ以テセストモ又其効アルモノトナス而シテ年期ヲ定メテ讓與セシモノナラハ其満期後ハ其讓與者ノ子孫タル者其利益ヲ享有スルヲ得可シト又同決議同篇ノ第二篇ニ據ルニ衆人ヲ惠ム爲メニ讓與セラレタル所有物ノ用ヒ方ハ之ヲ別ノ證書ニ掲載シテ渡シタルノ場合ニ於テハシオルシ第二世九年ノ決議第三十六篇ニ記載スル如クニ其讓與ノ本書ヲ政府ノ記録ニ綴屬スルヲ要セス但シ其別證書ハ完備シタル時ヨリ曆法六箇月ノ間ニ「チャンセリ」廳ニ入録セサレハ効ナキモノトナル可シ又此決議ノ發行前ニ於テ證文ヲ受取リ相場ノ代價ニ易ヘテ人ノ所領ヲ享用スルノ件ニ至テハ其證文既ニ「チャンセリ」廳ノ記録ニ正當ニ綴屬セラル、歟又ハ此決議ノ發行ヨリ十二箇月ノ間ニ右ノ如ク綴屬セラル、時ハ効ナキモノト見做サル、ヲナシ



又第四節ニ據ルニ此條例ノ發行前ニ衆人ニ惠ム爲メノ約條ニテ所有物ヲ讓與セラレ今ニ之ヲ所有スル者別ニ証文ヲ作り其所有物ノ用ヒ方ハ仁惠ヲ施スアリトノ趣キヲ入簿セハ其入簿ヲ以テ十分ナリト爲ス然レモ未ダ其証文ヲ入簿セサル者ハ此條例ノ發行ヨリ十二箇月ノ間ニ其別証文即チ其所有物ノ用ヒ方ハ仁惠ヲ施スニ在リトノ証文ヲ入簿ス可シ然ラサレハ本証文モ乃チ効ナキモノトナルナリ但シヨオルシ第四世九年ノ決議第八十五篇ノ條例ニ據リテ正實精確ト認メラレタル証文ノ如キハ此度ノ條例ノ能ク輕重スル所ニ非ラス又既ニ通常律法又公平律法ニ於テハ訴訟ニ由テ無効ニ歸シタル証文モ亦此度ノ條例ノ及フ所ニ非ラス又既ニ着手セラレシ訴訟モ亦此條例ノ能ク管スル所ニ非ラス又三十年ヲ經タル証書モ亦此條例ノ及フ所ニ非ラス而シテ從前人ニ所有物ヲ讓與シタル者ハ曆法十二箇月ノ間ニ其届書ヲ書記局ニ捧ケシカ今度ノ

條例發行已後ハ其証文ノ入簿前ニ讓與人ヨリ届書ヲ捧クルヲ要スト定マレリ○此條例ハスコットランド及ヒアイルランドニハ之ヲ及ホサス又チソスホルトケンブリジノ大學校又エトソウインチエストルウニストミニストルノ學校ニ妨害ヲ與フルコトナシ  
千八百六十三年ノ決議即チウヰクトリヤ女王二十八年九年ノ決議第百〇六篇ニ據ルニ凡ソ証文又ハ證書ヲ以テ人ニ地面ヲ貸與シテ以テ仁惠ノ諸用ニ供セシムルノ事件ニ關シテ律法ヲ按スルニウヰクトリヤ女王二十四年五年ノ決議第九篇及ヒヨオルシ第二世九年ノ決議第三十六篇ノ律法上ニテハ凡ソ地面貸與年間ヲ起算スルハ其証文證書ノ日附ニリ一箇年内ナラハ何日ヨリダリモ其地面ヲ受領ス可シト定ムル時ハ則チ其仁惠ノ諸用ニ供スルモ其証文ヲ作ルノ時ヨリ直チニ着手ス可キ筈ト見做スナリ



ウヰットリヤ女王二十九年三十年ノ決議第五十七篇ニ據ルニ惠恤物ノ受託人又ハ總理人ハ「チャンセリ」廳ニ願出テ何時タリモ證文ヲ入簿セシムルヲ得ルナリ

第一節 讓渡證文ノ事

讓渡證文トハ物件ヲ以テ他人ニ交付スルノ書付ニシテ其文中ニ讓渡、交付或ハ授與等ノ如キ確手タル字句ヲ用ヒテ以テ眞産(地面、家屋ノ類又ハ浮財、金銀財寶ノ屬)ノ所有權、名義及ヒ其利得ヲ他人ニ付與スルノ證書是ナリ「未得ノ物件、入込」ニノ權、等ニ云フ又ハ破約ノ償金ヲ取ルノ權利又ハ未到手ノ物件未タ手ニ到ラサレモ物件ノ如キハ人ニ贈與ス可カラズ又人ニ讓渡ス可カラズ「滯滞シタル地代」ノ如キハ未到手ノ物件ノ如ク人ニ讓渡ス可カラズ「茲ニ亦其性質ヲ論スレハ讓渡ス可カラサルニ似タリト雖モ古來ノ風習ニ由リ又ハ國會ノ決議ニ依リテ讓渡ス可

キ物件又許多アリ約條手形爲換手形、保單保單是ハ郡長ヨリ他人ニ讓渡スヲ得ルナリ)及ヒ分散者ノ什物即チ是ナリ  
最モ多ク讓渡ス者ハ地面、家屋ノ貸借證文、年期アル貸借所有物、遺物、質物、家什及ヒ公債證書是ナリ但シ家什、家具及ヒ船舶ノ讓渡シハ通例賣買ト稱シテ讓渡シトハ云ハサルナリ「通常ノ文言ヲ以テ所有物ヲ讓渡ス時ハ讓受主ハ後來偶發ノ事件ニ由テ其權ヲ搖擧セラル、トナシトス但シ別段ニ約條アル時ハ此限ニアラス」他人ニ負債即チ貸金ノ未タ返済ヲセサルモノヲ謂フ讓渡ス「ハ口、狀ヲ以テ爲シテ可ナリ但シ讓受主及ヒ其讓渡シニ關涉スル諸人ノ承諾ヲ必要トス  
負債者ヨリ債主ノ爲メニ己レノ所有物ヲ讓渡スハ一物ヲ遺サ、ルヲ通例トス蓋シ負債者ハ其請求ノ金高ニ代ヘテ之ヲ受取レハナリ」但シ諸債主皆チ承諾セシ上ニテ此讓渡シヲ行フタルニ非レハ分散律例上



ニ於テ其讓渡シテ以テ姦計ト見做シ其債債者ヲシテ向後商業ヲ行フ  
 得サラシムルコアル可シ既ニ千八百六十九年ノ分散ニ付キテノ  
 決議ニ依リテ詐偽ノ讓渡シテ行フタル者ハ分散條例ヲ以テ罰セラレ  
 タリト云フ  
 合同セル諸商人ノ讓渡シハ諸ノ別箇ノ債者及ヒ合同セル諸債主ノ承  
 許ノ上ニテ之ヲ爲スナ必要トス否ラサレハ其讓渡シハ承許セサル債  
 主ニ對シテ其効ナシトス  
 債債ヲ償還スル爲メノ委託狀ハ此狀ヲ裁スルノ登時ニ存在セシ債債  
 ニノミ關係シテ其後ノ債債ニ關係セサル可シ  
 讓渡狀ハ債主ノ承許ヲ經クル時限中ニ署名調印セシニ非レハ律法上  
 ニ於テ其効ナシトス但シ其時限後ニテモ諸債主一同ニテ此讓渡狀ニ  
 署名調印セシナラハ尙ホ公平法上ニテハ實正ナル者ト爲スト「コト」

ノ稟報第百〇二葉ニ見ヘタリ  
 其所有物ヲ讓渡シタル人若シ其一部分タリモ之ヲ妄用スル時ハ則チ  
 其讓渡シヨリ生スル便益ヲ享クルノ妨害トナルナリ  
 イリサベヌ女王十三年ノ決議第五篇ニ據ルニ凡ソ所有物ヲ贈與シ或  
 ハ讓渡スニ若シ正當ノ請求ヲナス債主及ヒ其他ノ者ヲ妨害シ或ハ欺  
 騙スルノ恣アラハ其効ナシトス而シテ如此キノ欺詐ノ讓渡シテ爲ス  
 者其主首並ニ其從屬トモニ其地面一箇年ノ收入高及ヒ其家什ノ全價  
 ナ沒收シ且ツ六箇月ノ禁獄ヲ以テ罰セラル可シ但シ此決議ハ親族等  
 ノ好誼ヲ以テナセル讓渡等ニハ及ホサヌ又此詐偽又ハ同謀ノ詭計ニ  
 預ラサル人ニハ及ホサルナリ  
 右ノ條例ノ旨趣ヲ明了ナラシムル爲メニ左ノ如クニ決定セラレタリ  
 即チ債債者己レノ物件ヲ讓渡シタルノ後ニ於テ尙ホ之ヲ收手スルハ



詐偽ノ證據ト見做スコキナリ又縱令ヒ債主約定期限内ハ之ヲ取手ス  
ルノ權ヲ執リ又ハ讓渡シノ日ヨリ其利分ヲ請取ルノ約條アリトモ苟  
モ讓渡シテ爲シタル者ナシテ其讓渡シタル物件ヲ所持スルヲ得セシ  
ムル以上ハ猶ホ上文ノ如クナリトス

第二節 債主ノ寬免ノ事及ヒ請人ノ職分ノ事

債主ノ寬免トハ債主タル者其貸金ノ全額ノ皆濟ヲ要セス只其一部分  
ヲ請取リテ負債者ヲ寬免スルヲ謂フナリ但シ其法一ニハ一時ニ「ボ  
ンド」ニ付キ幾許ノ高ヲ請取ルナリ二ニハ年賦ニナシテ身元儲カナル  
請人ナシテ其証文ニ與印セシムルナリ(又ハ請人ヲ用ヒサルナリ)三ニ  
ハ抵當物讓渡シノ仕方ヲ以テスルナリ是レ皆ナ全額ヲ索メスシテ一  
部分ヲ請取リテ負債者ヲ寬免スルノ法ナリ「律法上ニ於テハ調印ナキ  
寬免約條書ハ債主之ヲ踐ムノ義務無キハ勿論ノ事ニシテ其樹定銀<sup>ツメシキ</sup>ナ

承納セシ後ト雖モ尙ホ然リ但シ假令ヒ調印ナシト雖モ品物讓受ケノ  
事アリ又ハ請人ノ擔當ノ與印アル時ハ此例ニアラス  
債主タル者寬免契約書ニ署名調印スル時ハ縱令ヒ其署名セシノ處ニ  
其貸金ノ高ヲ對書セスト雖モ尙ホ其契約書ニ照シテ其見存ノ貸金ヲ  
悉皆寬免スルノ義務アリトス  
又負債者ハ其寬免契約書ノ約條ナ一々ニ踐行セサル可カラス然ラサ  
レハ債者ハ示談ヲ承許スルノ義務ヲ免カル、ナリ「負債者其契約ノ便  
益ヲ享ケントナラハ決シ詐偽ノ事ヲ行フ可カラス乃チ其事情ナ有ノ  
儘ニ陳述セサル可カラス若シ詐偽ノ事ヲ陳述シテ債主ノ承許ヲ得タ  
ル時ハ則チ債主假令ヒ是レニ署名調印シタリモ之ヲ踐行スルノ義務  
ナシトス

抵當物ヲ添増センカ爲メニ一箇ノ債主ト負債者トノ間ニ取結ヘル私



密ノ契約ハ示談金丈ケノ抵當物ヲ添増スル爲メダリ且尙ホ其事タル  
 奸計ニ渉ルヲ以テ其効ナシトス「一債主ニハ全額ヲ償還セントテ之ト  
 私密ノ條約ヲ結ビ又ハ他ノ債主ヨリモ一債主ニハ多量ノ高ク償還セ  
 ントテ之ト私密ノ條約ヲ取結ヘルモ亦然リ但シ其負債ノ全額ヲ償還  
 セント一債主ト別段ニ條約ヲ取結ヘルハ其効ナキニアラス勿論如此  
 キノ條約ハ隱秘セムシテ他ノ債主ノ聞知シ且ツ承諾シタル上ニテ之  
 ヲ爲ス可シトウエヌノ稟報第十三卷第五百八十六葉ニ見エタリ  
 債主ハ必ス寬免契約ヲ遵守ス可シ假令ヒ現實ニ其證書ニ署名調印セ  
 ルト雖モ尙ホ然リトス何トナレハ債主既ニ寬免契約ニ循フテ己レヲ  
 行フ時ハ公平應モ亦此契約ニ依據シテ事ヲ處置ス可シ而シテ債主其  
 條約ヲ承諾シタルノ明白ナルハ恰モ其條約書ヲ式法ニ依リテ承諾シ  
 且ツ署名調印シタルカ如クナレハナリ

爲換手形或ハ約條手形ノ所持主若シ爲換手形ノ引受人又ハ約條手形  
 ノ差立人ヨリ示談金ヲ請取ルヲ承諾シタル時ハ其所持主ハ其後ノ  
 受授人ヲシテ悉皆其任責ヲ免カレシム可シ但シ其後ノ受授人ノ承諾  
 ノ上ニテ此示談金ヲ受取リタル時ハ此例ニアラス  
 監視人選任證文トハ時トシテ負債者ヨリ差出ス所ニシテ乃チ人ヲ選  
 任シテ己レノ處置ノ監視人ト爲スノ約條書ナリ但シ其監視ノ時限ハ  
 一定ナラス或ハ時限ヲ確定スル事アリ或ハ全額ヲ償済シタル迄ト定  
 ムルコアリ或ハ示談金ヲ拂フタル迄ト定ムルコアリ此證文ハ被託人  
 ニ十分ノ權柄ヲ授與シテ負債者ヲ控制シ其レヲシテ破約ノ所行ヲ爲  
 サラシム可シ但シ妄リニ所有物或ハ其一部分ヲ處置シテ分散律令  
 ノ嚴罰ヲ被ラシムル等ノ事ナキ様ニ注意ス可シ  
 猶ホ精細ノ事ヲ知ラント欲セハ千八百六十九年ノ分散律令ヲ參看ス



可

第三節 代理人ニ授クル委任狀ノ事

此狀子ハ負債者タル者債主ニ強迫セラレテ後來ノ事ヲ遠慮セス猥リ  
 ニ代理人ヲ命ジ之ヲ授クルヲ其例少ナガラス今此ニ其狀子ノ猥リニ  
 授ク可カラサル所以ヲ説カン代理人委任狀及ヒ(承認書)中ニハ債主ニ  
 判詞ヲ入簿シ且ツ判詞ノ執行ヲ促スノ權ヲ與フルヲ書スルナリ但  
 シ債主是事ヲ爲スハ即時ニ爲スヲアリ或ハ其委任狀ニ定メタル某時  
 間ニ於テスルヲアリ而シテ此委任狀ヲ出シタル者ハ其委任狀ノ旨趣  
 ナ施行スルノ時ニ及ヒテヨリ以後ハ何時ニ其所有物ヲ剝奪セラレテ  
 非常ノ低價ニ賣却セラル、モ測ル可カラス甚シキニ至テハ前途ノ目  
 的モ之カ爲メニ全ク毀潰セサルモ或ハ大ニ妨害セラル、ニ至ルナリ  
 且ツ負債者ハ其判詞ヲ執行スルノ前時ニハ自ラ落意セス他人ニ依頼

スルノ外詮方ナク實ニ惘然タル境遇ト謂フ可シ而シテ(代理人委任狀)  
 及ヒ(承認書)ハ其日附ヨリ二十一日以内ニ之ヲ官局ニ入簿セサル可カ  
 ラス一旦之ヲ入簿スル時ハ他人ノ信認ヲ失ヒ貸借賣買等ノコヲ爲ス  
 ナ得ス蓋シ如此キノ有害ノ狀子アリテ其身體ト所有物ヲ擧ケテ皆ナ  
 自主スルヲ得サルノ事世上一般ニ公布スレハナリ思フニ此等ノ狀子  
 ヤ訴訟手續ノ中間ニ於テ負債者ヲ拘留スルノ例ヲ廢シテヨリ以來ニ  
 債主屢之ヲ取用スルノ故ヲ以テウヰトリヤ女王一年二年ノ決議第百  
 一篇ヲ以テ負債者ヲ救フノ方法ヲ設ケラレダリ此決議ニ依レハ此等  
 ノ狀子ニ署名調印スル本人ノ爲メニ兼テ之ニ特命セラレタル代理  
 人ノ在ルアリテ其需メニ應シテ出席シ其狀子ノ署名調印ノ式ヲ行フ  
 前ニ是等ノ狀子ノ性質及ヒ利害ヲ以テ之ニ告グルヲアルニ非レハ法  
 律上ニ於テ此等ノ狀子ヲ其効ナキモノトス但シ其代理人ハ其署名調



印ヲ見届ケタル證人トシテ其狀子ニ己レノ名ヲ署セサル可カラス」  
 シオルヲ第四世三年ノ決議第三十九篇ニ據ルニ「キングス、ベンス」  
 於テハ證書係リノ書記官ハ一帳簿ヲ備置キ(代理人委任狀(承認書)或ハ  
 其寫書ヲ之ニ綴屬シ適宜ノ時ニハ人ノ求覽ニ供ス可シ但シ其搜索セ  
 ラル、人一人ニ付キ六「ベンス」ノ手数料ヲ求覽者ヨリ上納セシム可シ」  
 又ウカクトリヤ女王六年七年ノ決議第六十六篇ニ指令シタル事項ハ左  
 ノ如シ右ノ如キ帳簿ノ外ニ別ニ一帳簿ト索引トヲ製シ置キテ(代理人  
 委任狀及ヒ承認書ヲ出シタル人ノ姓名肩書等ヲ登錄ス可シ但シ其他  
 詳細ノ事件ハ此簿冊ニ登記スルヲ要セス(此等ノ事ハ舊來ノ條例ニ照  
 準シ他ノ帳簿ニ登記スルヲ從前ノ如クナレハナリ)右ノ索引ハ衆人ノ  
 閱覽ニ供スルヲ得可シ但シ其搜索セラル、人一人ニ付キ閱覽者ヨリ  
 一「ミルリソング」ノ手数料ヲ上納セシム可シ

第四節

約諾證文ノ事

約諾證文トハ二人以上ノ人互ニ某ノ事件ヲ爲サント相約シ又ハ某ノ  
 事件ヲ爲スママツト相約シ證書ヲ以テ取極メテ雙方之ニ署名調印シタ  
 ルモノヲ謂フナリ

例ヘハ人アリ某日ニハ必スロンドンニ在ラント約シ而シテ其期日ニ  
 ロンドンニ在ラスハ是レ即チ違約ニシテ對頭ノ爲メニ訴告セラル可  
 キナリ」又一例人アリ價ヒアル原由ノ爲メニ某地内ニ於テハ其商賣又  
 ハ職業ヲ行フマツト承許スル時ハ此約條ヲ遵守セサル可カラズ但シ  
 時限ノ有無ニ拘ハラス人ナシテ其商賣等ヲ全廢セシムルノ約條ハ律  
 法ニ適セサルヲ以テ其効ナシトス

約定證文ハ其爲サントスル事件必ス律法ニ適シタルモノナル可シ否  
 ラサレハ之ヲ遵守スルノ義務ナシ且ツ又其爲サントスル事素ト人力



ノ及フ所ニアラスハ亦其効ナシトス  
 人アリ他人ニ約スルニ將來ニ於テ金額ヲ拂フヲ以テス然ルニ其約定  
 ナ受ケヨル者ハ其約定ノ期日ニ到ラヌシテ死去スレハ其遺狀執行人  
 ハ訴訟ヲ行フテ其金額ヲ受取ルヲ得可シ且ツ又遺言人其約定ヲ循  
 守ス可キ時ハ其死後ニ至リ其遺狀執行人モ亦之ヲ循守セサル可カラ  
 ス(但シ其約定タル素ヨリ遺言人ノ死去ニ由リテ消盡シタル時ハ此例  
 ニアラス)但シ約定ハ其本人ノミ之ヲ能ク爲ス可ク遺狀執行人ノ能ク  
 ス可カラサル者モ亦往々之アリ  
 約定証文及ヒ約條書ニハ往々別ニ一章ヲ加ヘテ違約ノ時ノ罰金ヲ定  
 ムル者アリ然レモ通例ハ証文ノ外ニ別ニ保單ヲ副ヘテ十分ノ罰金ヲ  
 約定スルナリ但シ此罰金ハ現ニ蒙ル可キ損害ノ高ノ抵當物トノミ見  
 做スナリ

右ノ約定証文ノ尋常ノ用ハ安穩ニ土地ヲ受用スルヲ得セシムルニ在  
 リ賃租ノ拂方ヲ儘カナラシムルニ在リ又修復損害及ヒ災害等ニ關シ  
 テ其用甚々廣シトス右ノ約定証文ノ意味ヲ解釋スルニハ尤モ嚴密ニ  
 約定者ヲ責メテ而シテ被約定者ヲ回護スルヲ常トス

第五節 口上約諾ノ事

口上約諾トハ前ノ約諾証文ト同類ノ事ニシテ只口上ニテ爲スノ別ア  
 ルノミ去レハ十分ノ原由ニ基イテ之ヲ爲ス時ハ約定証文ト相異ナル  
 ナタケレモ只書寫スル事ト調印スル事トノ二式ヲ缺クノミ然レモ從  
 前ハ違約ノ補償法ニ至テハ大ニ約定証文ト相異ナリキ何トナレハ此  
 口上約定ノ違約ニ付テハ夫ノ違約訴訟ヲ行ハニ代ヘテ(暗意條約背違  
 ノ訴訟或ハ被告擔任孤負ノ訴訟)ヲ行ヒテ被告ヲ責ム而シテ被告其擔  
 當ニ負ク事ハ原告ニ對シテノ害事ト爲シ其損害ノ多少ハ陪審之ヲ評



定シタレハナリ但シ現今此舊式ハ多分廢止セラレタリ  
詐偽條例ニ定ムル所ハ左ノ如シ曰ク事柄ニ由リテハ口上ノ約定ノミ  
ニテハ後日ニ至リ之ヲ證トシテ訴訟ヲ行フヲ得可カラスセメテハ共  
約定ノ覺書ヲ作リテ其責任ヲ負フ者之ニ署名シ或ハ其正當ノ代理人  
タル者之ニ署名セサル可カラズ其口上ノ約定ノミニテ後日訴訟ヲ行  
フ可カラサル條目ハ左ノ如シ

第一 遺狀執行人或ハ遺物取扱人自己ノ産業ヨリ他人ヘノ償金ヲ  
拂ハント約定セシ件

第二 一箇ノ人カ他人ノ負債過失失行等ノ責ニ任セント擔承セシ  
件但シ是ハ從前擔承書アリヒ其文意ニ親誼ノ原因ノ顯然クテサ  
ルアラハ其効ナシトセリ然レモ此律ハウヰクトリヤ女王十九年二  
十年ノ決議第九十七篇ヲ以テ更正セラレタリ

第三 婚姻ノ(原由)ニ基イテ契約ヲ取結ヒシ件

第四 土地、家屋、遺傳物及ヒ其利得ノ契約即チ賣買ノ件

第五 其時ヨリ一箇年以内ニ仕途ク可カラサルノ約定ヲ取結ヒタ  
ル件

右ノ詐偽條例コハ專ラニ約條ヲ書寫スルノ緊要ナルヲ説クト雖モ敢  
テ書寫ダニセハ約條ヲ牢固ニナス他ノ最要ノ件ハ措テ問ハスト謂フ  
ニ非ラス例ヘハ(價ヒアル原由)ノ如キ最要ノ件ハ無論ニ缺ク可カラサ  
ルナリ

詐偽條例上ニ於テハ必ズ約諾書ヲ作り或ハ其覺書ヲ作ランコトヲ要ス  
是レ只其約諾ノ一事ノミヲ書スルヲ謂フニ非ラス其契約ノ言詞及ヒ  
契約ノ原由ヲ書スルヲ謂フナリ

詐偽條例ノ第三章ニ謂フ所ハ雙方婚姻スルコトノ約諾ニ非ラス只嫁資



ナ拂ヒ又ハ贈遺ヲ爲スノ契約又ハ婚姻ニ付キ他ノ諸事ヲ爲スノ契約  
ヲ謂フナリ

約條ノ成否ヲシテ未必ノ條件ノ一年間ニ生スル歟生セサル歟ノモノ  
ニ關係セシムル時ハ乃チ右ノ詐偽條例ノ限内ニ在ラサルナリ噲ヘハ  
某人死セハ幾許ノ金額ヲ拂ハント約シ某人婚姻セハ幾許ノ金額ヲ拂  
ハント約シ又ハ某船歸帆セハ幾許ノ金額ヲ拂ハント約シ又ハ遺囑ヲ  
以テ遺物ヲ與ヘント約スルカ如キハ口上ノ約條ニテモ可ナリトス蓋  
シ如此キノ約條ハ恐ラシハ其年内ニ仕途ク可キモノナレハナリ  
口上約諾ヲナシタル者アリ後日訴訟ニ及ヒタル時其約諾シタル者之  
ヲ承認シタル時或ハ其實物ヲ先方ニ渡シテ收手セシメ以テ約諾ノ一  
部分ヲ果シタル時又ハ之ニ類シタル時ハ其約諾タル固トヨリ口上ノ  
ミナリト雖モ公平廳ハ特別ニ其踐約ス可キノ命令ヲ下ス可キナリ何

トナレハ其事實ヲ承認シ又其實物ヲ渡シテ收手セシメタル等ノ諸  
行爲ノ顯然タル上ハ約諾者モ其契約ヲ無シト謂フヲ得ス又約諾セラ  
レタル者其踐約ヲ約諾者ニ強迫スルモ敢テ欺騙ノ罪モナク偽誓ノ罪  
モナキト又顯然アレハナリ然レモ約諾者其訴訟ノ時ニ原告ヘノ返答  
ニ其口上約定アリシヲ承認スト雖モ又條例ヲ押ヘテ故障ヲ申述スル  
時ハ公平廳モ特別ニ其踐約ヲ以テ約諾者ニ嚴命ス可カラスト「ウエス  
シエン」ノ稟報第六卷第三十七葉ニ見ヘタリ  
契約者ノ一方其契約書ニ署名スル時ハ之ヲ踐行セサルヲ得ス若シ又  
先ツ口上ニテ其約定ヲ爲シ置キ後日ニ其レヲ書寫セソトノ協議アリ  
シニ一方ノ詐偽ノ爲メニ其事阻滯セラレタル時ハ公平廳ハ之ヲ真正  
ノ約條ト見做シテ其踐約ノ命ヲ下スヲ得可シ  
幼者其幼年ノ間ニ契約シタル負債ヲ拂フ事又出訴期限條例ヲ以テ保



護セラル、負債ヲ拂フ事有ノ如キ人道ノ義務ヲ負フタル者アル時ハ  
 假令ヒ其負債タル固トヨリ法律ニ適セサルモノナリトモ其間ニ詐偽不  
 正ノ事ナクハ債主出訴シテ之ヲ返還セシムルヲ得可シ  
 シオルヲ第四世九年ノ決議第十四篇ニ據レハ幼者ノ約諾又ハ契約ヲ  
 成年ノ後ニ改メテ取極メタリトモ證書ヲ製シ其義務ヲ負フ可キ者署名  
 スルニ非レハ先方ノ者之ヲ押ヘテ訴訟ヲ行フヲ得ス又出訴期限條例  
 ナ以テ保護セラル、負債ヲ拂フノ約諾ノ如キモ亦證文ヲ製シ右同様  
 ニ署名セラル、ニ非レハ決シテ正實ノモノト爲サス  
 與書ト爲シタル約諾ニ就テハ契約ノ條ヲ合看ス可シ

第六節 遺失物發見ノ事

遺失物ノ裁判ハ紛紜トシテ一定ナラサリシカ終ニ(千八百六十一年ノ  
 「イーストル」裁判期ニ於テ)レグヨリウツズニ係リタル訴訟並ニレグヨ

リモールニ係リタル訴訟ニ付キ刑事控訴院ニ於テ其法律ヲ決定セラ  
 レタリ其箇條左ノ如シ

第一 人アリ現ニ遺失セラレタル歟又ハ現ニ遺失セラレタリト自  
 ラ想像スルモ敢テ道理ニ外ツレサルノ品物ヲ發見シ而シテ其物  
 權ヲ掌握スルノ意ニテ之ヲ收取シ其收取ノ時ニ己レノ心ニ其原  
 主ハ決シテ見當リ難シト實ニ信スル程ナレハ之ヲ盜賊ノ所行ト  
 ナサス

第二 其品物實ニ遺失セラレ或ハ遺失セラレタリト自ラ想像スル  
 モ敢テ道理ニ外レサルノ故ヲ以テ右同様ノ意ヲ以テ之ヲ收取ス  
 トモ己レノ心ニ其原主ハ随分見當ル可シト實ニ信シテ之ヲ收取  
 スル時ハ其拾ヒ主ヲ盜賊トナス可シ  
 嘗テ此後條ニ當ル可キ罪囚アリキ但シ其者ハ遺失シタル銀行手形ヲ



拾ヒ揚シカ其原主何人タルヲ知ルニ由ナカリキ其後ニ至リテ初メテ其原主ノ姓名ヲ聞知シタリ然ルニ之ヲ兩換シテ自用ニ供シタリ然ルニ此者ハ盜賊ノ罪ニ伏ス可キモノトハ決定セラレサリキ蓋シ之ヲ拾ヒ揚シ時ニハ未ダ其原主ヲ知ラサリシ故ナリ

凡ソ包物行李又ハ其外ノ財物等原主ノ忽畧又ハ懈怠ニ由リテ他人ノ收手ニ屬セシノ件々ハ右ノ如クニ遺失物發見條例ヲ注解シテ裁判ス可キナリ右ノ如キノ遺失物ハ某ノ原主ノ出ツ可キ歟又ハ見當ル可キノ容子ナキニ非レハ其發見人又ハ拾ヒ主之ヲ收取ス可カラサルナリ

第十四章 負債人並ニ債主ノ事

輓近負債條例ヲ改正シ負債償還ノ訴訟費殊ニ小額ノ負債ノ訴訟費ヲ減省スル爲メニ政府ニ於テ大ニ盡力シタリト雖モ猶ホ之カ訴訟ニ於テ憂慮ヲ費ヤシ光陰ヲ空過シ費用ヲ要スルノ頗ル洪大ナルヲ以テ苟

モ思慮アル者ハ容易ニハ其訴訟ヲ行ハサルニ至レリ抑上等裁判所又ハ更ニ權域ノ狹少ナル裁判所ニ於テ訴訟ヲ始ムル時ハ其訟費タル莫大ノ巨額ニ登ルノミナラス負債者往々分散條例ニ乘シテ其巨額ヲ以テ悉皆債主ヲシテ負擔セシムル是レ思慮アル者容易ニ訴訟ヲ行ハサル所以ノ一ナリ又裁判ノ規則トシテ訴訟ニ勝チタル者モ官吏ノ賦課スル訟費ヲ得ルノミニシテ其賦課訟費ト狀師ノ諸費用トノ間ノ差額ノ如キハ自ラ拂ハサルヲ得ス是レ思慮アル者容易ニ訴訟ヲ行ハサル所以ノ二ナリ又些少ノ貸金ノ爲メニ訴訟ヲ行ヒタル者訴訟ニ勝チ訟費ヲ得ルト雖モ其得ル所其費消セシ所ニ足ラサルト或ハ三四倍ノ多キニ至ルアリ

上文ニハ既ニ訴訟ヲ行フ者ノ爲メニ數言ノ勸諫ヲ陳述シタレハ下文ニハ負債人債主ノ關係ニ就キテ近來改正シタル律法ヲ擧ゲンウツト



リヤ女王一年二年ノ決議第百十篇ヲ以テ訴訟ノ手續中ニ債主ニ於テ  
 負債人ヲ拘留スルノ權ハ廢止セラレテ更メテ其筋ノ裁判所ヨリ判文  
 ナ得タル後ニアラスハ負債人ヲ拘留ス可カラスト制定セラレタリ但  
 シ其負債人カ本國ヨリ脱走ス可キノ恐レアル時ハ其金額二十「ポンド」  
 ニ登ルモノナラハ之ヲ保管ニ附ス可キ旨ノ特別ノ命令ヲ下サシムル  
 ナ得可シ「斯ノ如クニ債主ハ負債人ノ身體ヲ拘留スルノ權利ヲ失フ  
 リト雖モ其補償トシテ裁判濟ノ債主ニハ負債人ノ所有物ヲ處置スル  
 ノ更ニ有効ナル伸冤ノ方便ヲ付與セラレタリ其有効ナル伸冤ノ方便  
 トハ向後ハ諸地所家屋等ハ其自主ノ業ト否ラサルトナ論セス總テ其  
 判文ヲ登記スルノ時又ハ其後ニ於テ負債人又ハ其託ヲ受ケタル者ノ  
 現ニ收手シ又ハ處分ノ權ヲ有シテ己レノ用ニ供スルモノハ郡長ヨリ  
 債主ニ向ケテ裁判執行狀ヲ出シテ債主ノ隨意ニ之ヲ處置スルニ任ス

ナ謂フナリ」且ツ又郡長ハ「ラキリアインシアス」裁判所ノ命令ニ照準ス  
 貨幣又ハ各種ノ銀行手形切手爲換手形約條手形保證書特別ノ證文貨  
 幣ノ抵當物又ハ諸債主ニ渡ス可キ貨幣及ヒ銀行手形諸切手爲替手形  
 等ヲ差押ヘテ抵當物トシテ收手シ置クヲ得可キナリ  
 又千八百四十四年ニハ負債條例上ニ一大試驗ヲ行フタリ蓋シ千八百  
 三十八年ノ決議ヲ以テ既ニ訴訟手續中ニ於テ負債人ヲ拘留スルノ制  
 ナ廢シタレハ此度ハ訴訟ノ收尾ニ於テスル拘留ノ制ヲモ亦廢シテ總  
 テ其償還ス可キ負債ノ高訴訟費ヲ除キテ二十「ポンド」ニ超過セザルノ  
 場合ニ於テ裁判應ニ於テ判文ヲ下附セラレタル上ニテ負債人ヲ入牢  
 スル事一切之ヲ禁止セラレタリ」而シテ此決議發行ノ時ニ於テ裁判執  
 行ノ手續中ノ負債人ニテ其負債ノ高二十「ポンド」已下ノ者ハ裁判役ニ  
 請願シテ出牢スルヲ得可シト定マレリ隨テ些少ノ金額ノ爲メニ入牢



セシ負債人ハ皆十放免セラレテ獄舎一時ニ空屋トナレリ」然レモ其決議ノ第五十九節ニ據ルニ欺騙ヲ以テ負債契約ヲナシタル者或ハ詐偽ノ意思ヲ帯ヒテ契約シタル者及ヒ登時返辨ノ正當ナル見込ナシニ契約シタル者ハ債主ニ於テ之ヲ入牢セシムルノ權アリト定メラレタリ」

二十「ボンド」ヨリ超過セサルノ負債償還ノ訴訟中及ヒ裁判濟ノ負債ニ就キ債主ヨリ負債人ヲ入牢セシムルノ權ヲ廢シタルハ大ニ債主ヨリ一般ノ負債人ニ對スル強迫ノ權ヲ殺滅シタルカ特ニ小賣ノ商人ニ對シテハ尤モ甚シトセリ何トナレハ右小賣人ノ帳簿上ノ負債ハ多クハ二十「ボンド」未滿ナリシニ此度ノ新法ニ依リテ小額ノ負債ニ付テハ裁判濟アリモ負債人ノ身體ニ對シテ勒索ノ處置ヲ行ハスシテ之ニ代ヘテ身代限りノ方法ヲ設ケラレタリ然ルニ家ノ持主ニモアラズ又差押ラ可キノ財貨モナキ負債人ハ其手元ノ什物ヲ竊カニ他所ニ運搬シ又

ハ陸ニ處分シテ巧ニニ條例ヲ廻避シタリ」然レモ該條例ノ如キハ蓋シ浮萍ノ如キ負債人社會ノ負ヘル二十「ボンド」未滿ノ負債ナ一切ニ免消シタルニ等シト謂フ可キナリ」然レモ翌年國會ノ開館ニ於テツキントリヤ女王八年ノ決議第二百二十七篇ヲ制定シテ其弊害ヲ救ヌノ方法ヲ試ミタリ

此決議ヲ以テ定メタル所ハ左ノ如シ凡ソ訟費ヲ除クノ外二十「ボンド」ヨリ超過セサル貸金ニ就キ英國ニ於テ適當ノ權アル裁判所ヨリ判文又ハ命令ヲ出サシメタル債主ハ又右ノ負債主ヘノ呼出狀ヲ出サシムルヲ得可シ但シ右ノ呼出狀ハ或ハ分散役所ノ委員ヨリ出シ或ハ小額ノ負債償還ノ下等裁判所ニシテ大狀師又ハ特別ノ辨白者或ハ十年以上行業スル代言人ヲ以テ其裁判役トナセル處ヨリ出ス可シ勿論此裁判所ハ負債人ノ住居スル區ノ裁判權ヲ有スル者ナル可シ右ノ事ヲ以



テ裁判所ニ出願スルコトハ歎願書ヲ以テス可シ其債人出席スル時ハ  
 裁判所ニ於テ之ヲ吟味ス可シ且ツ又債主ニ於テ之ヲ適當ナリト思惟  
 スル時ハ負債ヲ契約シタル做法並ニ時日及ヒ契約ノ登時ニ於テ其見  
 込置シ返辨ノ方法或ハ目的及ヒ契約ヨリ後其所有物ノ處置等ニ付テ  
 負債主ヲ歴問セシムルヲ得可シ勿論裁判所ニ於テ之ヲ適當ナリトシ  
 又ハ負債人ヨリ之ヲ願フ時ハ其債主モ其請求ノ性質ニ就テ吟味スル  
 ナ得可シ而シテ裁判所ニ於テハ負債償還ノ命ヲ負債人ニ下ス可シ但  
 シ其返還ノ方法ハ年賦月賦ヲ以テシ又此他ノ方法ナル可シ若シ又負  
 債人役所ニ出席スルコトヲ怠リ缺席ニ付テ満足セシム可キ事由ヲ陳述  
 セス又ハ其所有物ヲ明細ニ具狀シ又ハ其所有物ニ付テノ諸取引ヲ明  
 細ニ具狀スルコトヲ辭拒シ或ハ其答辨スル處役所ノ諸員ヲ満足セシム  
 ルニ足ラズ或ハ當初負債ヲ契約セシ時ニ當リテ詐偽ノ罪アリト見エ

又ハ債主ヲ打拂スル爲メニ其所有物ヲ隱匿シ又ハ他所ニ運搬シタリ  
 ト見エ又ハ役所ニ於テ命シタル年賦月賦ヲ拂フ可キノ力ヲ有シナカ  
 ラ之ヲ爲スヲ怠ル時ハ裁判役所ニ於テハ右ノ負債人ヲハ四十日ヨリ  
 超過セサル時間負債人ノ通常獄舎ニ之ヲ禁獄スルノ權アリ分散役所  
 又ハ負債難償事務役所ヨリノ保護ノ命令又ハ所謂ル中間命令ナル者  
 及ヒ禁獄ノ命ノ出タル後ニ得テシタル證書ハ皆テ負債人ノ身體ヲ保  
 護スルニ益ナキナリ右ノ條例ニ依リタル禁獄ハ負債ヲ消滅スルノ効  
 ナシ但シ負債訟費或ハ其期ニ到リタル年賦金ヲ拂フタル上ハ負債人  
 ハ獄舎ヨリ釋放セラルハナリ但シ必ズ債主及ヒ裁判所ノ許可ヲ待ツ  
 ナリ「負債人或ハ債主ヨリ裁判所ニ出願スルニハ狀師又ハ代言人ヲ用  
 ントルヲ要セサルナリ」着用シタル衣服、寢牀及ヒ其職業ノ諸器械等五「ホ  
 ンド」ノ價值丈ケノ分ハ負債ニ充ツルヲ免カルハナリ其請求スル所十



「ボンド」ヨリ超過スル案件ハウエエストミニストルノ上等裁判所ニ移ス  
 ナ得可シ但シ是レハ恐據書ヲ以テ移シ或ハ裁判役ノ准許ノ上ニテ乃  
 ナ移スナリ其持場ノ治安裁判役ノ裏書ヲ得アル上ハ裁判所ノ權限外  
 ノ地アリト雖モ命令書ヲ執行シテ身代限リノ處分ヲ爲スヲ得ルナリ  
 該決議ニ準スルニ負債人ヲ呼出サンコト出願スルニハ其願書ニハ債  
 主自ラ署名スルヲ要ス債主ノ代理人或ハ代辨人ノ署名ノミニテハ未  
 タ十分トセサルナリ  
 ウェストリヤ女王三十二年三年ノ決議第六十二篇ヲ以テ從前負債人  
 爲メニ人ヲ禁獄スルノ制ヲ廢セリ但シ罰金ヲ拂フヲ怠ル事違約ノ罰  
 金ハ此限ニ在ラス或ハ治安裁判役ニ於テ即斷法ヲ以テ返償セシムルノ  
 負債又ハ信任ヲ受ケタル被託者等ノ件ハ格別ナリトス尤モ禁獄ノ時  
 限ハ此等ノ場合ニ於テモ一箇年ヨリ長久ナル可カラス又其第五節ニ

據ルニ小額ノ負債ノ爲メニ人ヲ禁獄スルノ權ヲ存セリ但シ其期限ハ  
 六週間ヲ限リトシ又ハ其拂フ可キ金額ヲ返濟シタル迄ヲ限リトナス  
 可シ又其第六節ニ據ルニ被告人アリ其英國ヨリ遁逃スルノ恐レアル  
 ナ他ヨリ証言シ裁判役モ其証言ヲ信據スルニ至リ且ツ其訴訟ノ原因  
 素トモリ五十「ボンド」以上ノモノナレハ則チ被告ヲ拘留スルノ權ヲ許  
 セリ該決議ノ第二部分ノ第十一節ニハ詐僞アル負債人ヲ罰スルニ二  
 箇年ヨリ超過セサル時間ノ禁獄ヲ以テシ且ツ之ヲ苦使シ或ハ苦使セ  
 サルノ制ヲ設ケラレタリ其決議ニ列舉セル詐僞トハ其種類總テ十六  
 種ニシテ概スルニ皆ナ己レノ所有物ヲ具陳スルニ實ヲ以テセス或ハ  
 他人ト同謀シ之ニ所有物ヲ讓渡ス等凡テ債主ヲ欺騙スルノ所行ヲ謂  
 フナリ其第二節ニ據ルニ分散者ト判定セラレタル者又ハ之ニ係リタ  
 ル訴告書ノ出テタル後ニ示談ニ由リテ其負債上ノ清數既ニ定マラタ



ル者或ハ其清數尙ホ未濟ノ者又ハ其訴告書差出ノ前又ハ其清數着手  
 前ノ者英國法去リ而シテ二十「ポンド」已上ノ所有物ノ債主中ニ分配ス  
 可キモノヲ自ラ提攜シ行ク時ハ陪審其欺詐ノ意ナキヲ保證スルニ非  
 レハ重罪ヲ以テ論セラレ而シテ二箇年ヨリ超過セサルノ禁獄ヲ以テ  
 罰セラル但シ之ニ苦使ヲ加ヘ或ハ加ヘス  
 詐偽ヲ以テ借金スルニ就テハ該決議ノ第十三節ニ左ノ條例アリ曰ク  
 何人ニ限ラス左ノ諸件ノ一ニ居ル者ハ輕罪ヲ以テ論セラレ既ニ伏罪  
 スル上ハ一箇年ヨリ超過セサルノ禁獄ヲ以テ罰セラレ且ツ之ニ苦使  
 ヲ加ヘ或ハ加ヘス  
 第一 凡ソ負債ノ契約ヲ爲スニ騙害又ハ其他ノ詐偽ヲ以テスル者」  
 第二 債主ヲ欺騙スルノ意ヲ以テ別人ニ己レノ所有物ヲ贈與シ或  
 ハ交付シ又ハ讓渡シ又ハ己レノ所有物ニ損害費用等ヲ被者及ヒ

己レノ所有物ヲ贈與セシメ交付セシメ讓渡シ及ヒ右ノ損害  
 費用等ヲ被ケシムル者  
 第三 負債返償ノ判文又ハ命令ヲ己レニ對シテ發出セラレタル日  
 附ノ後又ハ二箇年前ニ債主ヲ欺騙スルノ意ヲ以テ己レノ所有物  
 又ハ其一部分ヲ隱匿シ又ハ之ヲ他所ニ運搬セシ者  
 該決議ノ第二十四節ニ定ムル所ハ左ノ如シ曰ク負債及ヒ諸契約書等  
 ニ關スル訴訟ニ於テ代理人委任狀及ヒ承認書並ニ裁判ノ命令書ノ如  
 キハ其代理人ノ目前ニ於テ署名調印シ且ツ代理人其署名調印ノ證人  
 トシテ之ニ自ラ署名スルニ非レハ其効ナシトス  
 負債條例改正ニ就テ今一ノ決議ハ此ニ之ヲ記載シテ適當ナル可シ  
 即チウヰットリヤ女王三十二年三年ノ決議第四十六篇ニ據ルニ從前死  
 人ノ特殊契約負債ト單係契約負債トノ間ニ償還ノ先後ヲ差別セシハ



今全ク廢止セラレタリ  
千八百七十年一月一日ヨリ以後ハ凡テ特殊契約負債モ單係契約負債  
モ死人ノ負債ヲ償還スルニ付テハ先後ノ階級ヲ立テスシテ皆ナ同一  
ノモノト成レリ「ウウ」トリヤ女王三十三年四年ノ決議第七十六篇ニハ  
遁逃セル負債者ノ捕縛ニ就テ更ニ條例ヲ定メテレタリ

第一節 郡中裁判所ノ事

此郡中裁判所ノ古來ノ憲法ハ前ニ既ニ之ヲ論シ其序ニ於テ其訴訟手  
續ノ動モスレハ久シク遷延シ且ツ經費ノ莫大ナルヲモ論シタリキ「千  
八百四十六年ニ於テウウ」トリヤ女王九年十年ノ決議第九十六篇ヲ以  
テ郡中裁判所ノ手續ヲシテ峻速ナラシメ且ツ成功アラシメ大ニ負債  
及ヒ請求ノ償還ニ便シタリキ但シ此決議ハ其後ノ諸決議ヲ以テ之ヲ  
改正シタリ「千八百四十六年ノ決議公布以前ニ於テハ四」ニル」

以上ノ負債ヲ償還スルノ郡中下等裁判所ハ其數寔ニ僅々ナリシ然ル  
ニ二三ノ都府城邑ニ於テハ地方裁判所ノ設ケアリテ其訴訟手續ノ簡  
易ニシテ費用少ナキヨリシテ原告被告兩方ノ爲メニ裨益少ナカラス  
因テ政府ニ於テモ其主義ヲ擴充シ郡中ニモ其類ノ裁判所ヲ建設スル  
ニ盡力シタリキ「ウウ」トリヤ女王九年十年ノ決議第九十五篇ハ茲ニ  
其概略ヲ記シ且ツ「ウウ」トリヤ女王十九年二十年ノ決議第百〇八篇  
及ヒ其他諸新決議ヲ以テ發行シタル改正ノ件々ヲ附記セン  
「ウウ」トリヤ女王九年十年ノ決議第九十五篇ニ據リテ司法長官ハ郡  
中裁判所ノ裁判役ヲ選任ス可シトス但シ七箇年以上行業シタル大狀  
師其選ニ當ル可シ「其裁判役ハ其任ニ堪ヘサル故ヲ以テ司法長官ニ由  
リテ免黜セラル可シ又ハ其持場ヲ變換セサル可シ」其裁判役ハ治安保  
存ノ命ヲ受テ居ラハ舊ニ依リテ治安裁判役ノ勤務ヲ兼テ行フヲ得可



シ其裁判所ノ役人ハ本廳ニ於テハ代言人又ハ代理人ノ事業ヲ行フ事  
 得ストス其持場内ニ於テハ曆法一箇月ノ中ニ寡クモ一回ハ其裁判集  
 會ヲ立ツ可シ但シ集會日ノ報告ハ其廳ノ中顯著ナル處ニ揭示ス可シ  
 應ノ書記官ハ訴訟ヲ受ケ呼出狀ヲ出ス可シ但シ地名人名及ヒ肩書等  
 ニ誤謬アラハ其書附テ廢棄ス可ク乃チ地名人名等ハ確知シタル儘チ  
 記載スルヲ要スルナリ事ノ虛實及ヒ法ノ當否ヲ決スルノ權ハ特ニ裁  
 判役ニ屬ス負債ノ額五「ポンド」以上ナレハ被告又ハ原告ヨリ陪審聽訟  
 ナ請求スルヲ得ルナリ且ツ又其額五「ポンド」ヨリ超過セサル時ト雖モ  
 裁判所ノ意ヲ以テ陪審聽訟ヲ許可スルヲ得ルナリ裁判役ノ命アリ且  
 ツ雙方承許スル時ハ仲裁人ヲ以テ其爭論ヲ決スルヲ得ルナリ若シ原  
 告出頭セサル時ハ其訴訟ヲ中止ス但シ被告ハ不在ナリトモ依然其訴  
 訟ノ手續ヲ行フ恰モ其出頭シ居ルト同シキナリ被告ハ原告ニ報告ヲ

爲シタル上ニテ其廳ニ貨幣ヲ拂フヲ得可シトス訴訟ニ管スル諸人及  
 ヒ其婦及ヒ其他ノ者ヲ吟味スルヲ得可シトス凡ソ證人タル者其廳ノ  
 規則ニ從フテ諸費用ヲ與ヘント約許セラレタルニ猶ホ忘リテ出頭セ  
 サル時ハ十「ポンド」ヨリ超過セサルノ罰金ヲ科セラル可シ此廳ノ裁判  
 ハ終審ナレハ他ノ諸廳ニ控訴ス可カラズ但シ其負債ノ額五「ポンド」ヨ  
 リ超過スル時ハ之ヲ控訴スルヲ得可シト雖モ上等裁判所ノ裁判役一  
 名ノ允准ナシハ之ヲ爲ス能ハサルナリ什物ヲ以テ償債ニ充ツルノ裁  
 判執行狀ヲ發出スルヲ得可シトス若用ノ衣服及ヒ寢具並ニ其職業用  
 ノ諸器具等五「ポンド」ニ値ル丈ケハ取上ケテ償還ニ充ツルヲ得スト裁  
 判執行狀ノ旨意ヲ行フノ時間ニ地主ハ滞リタル地代ヲ請求スルヲ得  
 可シ但シ其借地法一週間ニ付キ借地料幾何ト定メタルモノナレハ其  
 請求スル所四週間ノ分ヨリ超過ス可カラズ若シ又一年以下何月等キ



付キ幾何ト定メタルモノナレハ二期ノ分ヨリ超過ス可カラズ且ツ何  
 如様ノ場合ニ於テモ一箇年ヨリ多クノ滞リ地代ヲ要求スルヲ得サル  
 ナリ負債ヲ償ヒ訟費ヲ拂フタル上ハ身代限リノ處分ヲ廢止ス又ハ負  
 債人ノ禁獄ヨリ放釋スルナリ「矮小ノ家屋ハ定時間ヲ越ユルハ猶ホ負債  
 入依然ト之ヲ所持スルヲ得ルナリ」一箇年ノ地代五十「ポンド」ヨリ超過セ  
 サルモノナレハ郡中裁判所ニ出訴シテ之ヲ償還セシムルヲ得ルナリ」  
 右決議ニ準シタル入牢ノ權ハウヰクトリヤ女王二十二年三年ノ決議  
 第五十七篇ヲ以テ大ニ限制セラレタリ」即チウヰクトリヤ女王九年十  
 年ノ決議第九十五篇第九十八節ニ準シ呼出狀ヲ受ケタル者出頭セサ  
 ル歟或ハ十分ノ事由ヲ陳述セサルトモ裁判役ハ之ヲ入牢セシムルノ  
 命令ヲ下ダス可カラズ但シ其呼出狀ヲ受ケタル者(被告ナレハ)其裁判  
 濟ニ成リタル負債又ハ責任ノ事ニ最初關係ナルニ騙害ヲ用ヒテ原告

ヨリ借出シ又ハ詐偽又ハ委信ノ辜負ヲ以テ原告ヨリ借出シ又ハ登時  
 返辨ノ目的ヲクシテ如此キノ負債又ハ責任ノ事ヲ契約シ又ハ債主ヲ  
 欺騙スルノ意ヲ以テ己レカ所有物ヲ人ニ贈與シ又ハ讓渡シ或ハ同一  
 ノ意ヲ以テ己レノ所有物ニ損害費用等ヲ被ケ又ハ之ヲ他所ニ運搬シ  
 又ハ之ヲ隱匿シ又ハ裁判ヲ申渡サレタル前後ニ當リテ其負債及ヒ訟  
 費ヲ一時ニ皆濟ニスルノ餘力アリ又ハ其裁判ヲ申渡シタル裁判所ノ  
 命令シタル年賦返辨ヲ以テ之ヲ返償スルノ餘力アリナカラ之ヲ返償  
 スルヲ辭シ或ハ怠ル時ハ此例ニ在ラストス  
 千八百五十年ノ決議(即チウヰクトリヤ女王十三年ノ決議第六十一篇  
 ヲ以テ郡中裁判所ノ權限ハ二十「ポンド」ヨリシテ述カニ登リテ五十「ポ  
 ンド」以下ノ負債償金請求ノ事ヲ受理スルコト成レリ  
 郡中裁判所ノ管内ノ要求ノ事ニ付テ上等裁判所ニ於テ訴訟ヲ行フコト



四〇三

ニ明シテハ左ノ制ヲ立テラレタリ契約ニ關スル訴訟ニ於テ三十「ポンド」ヨリ超過セサル金額又枉害ニ關スル訴訟ニ於テ五十「ポンド」ヨリ超過セサル金額ヲ上等裁判所ニ於テ取り得タル原告ハ訟費ヲ受取ルヲ得ス但シ此案件ヲ審訊シタル裁判役ハ原告カ訟費ヲ受取ル可キノ權アルコトヲ公認スルヲ得可シトス又裁判所一同又ハ詰所ニ在ル一箇ノ裁判役ハ原告ヲシテ訟費ヲ受取ラシム可キノ命令ヲ下スヲ得可シトス畢竟實地ニ於テ此制ノ効功ハ契約ノ訴訟ニ於テハ二十「ポンド」以上枉害ノ訴訟ニ於テハ五十「ポンド」以上ノ權ヲ授ケタルニ在リトス其第十七節ニ定メタル所ハ左ノ如シ雙方ノ者覺書ヲ作りテ署名シ又ハ其代理人署名シテ協議シタル時ハ郡中裁判所ニ於テハ五十「ポンド」ヨリ超過シタル訴訟ヲモ吟味スルヲ得可シ又地面ニ關シタル訴訟ハ

五〇三

自主ノ地所タリヒ「コビイフナルド」ノ地所タリヒ又借地等タリヒ之ヲ審判スルヲ得可シ其外十分一税通行税市場税其外ノ特權等ノ爭論ヲモ吟味スルヲ得可シ  
 ウィクトリヤ女王十九年二十年ノ決議第百〇八篇ヲ以テ郡中裁判所條例ヲ改正セラレタリ但シ訟費ノ等級表ヲ製スルニ關スル條例並ニ事務章程ヲ作ルニ關スル條例ハ仍ホ舊ニ依レリ其第九節ニ依ルニ代理裁判役ハ必ス十箇年行業シタル大狀師歟又ハ郡中裁判所ノ裁判役タルモノヲ取ル可シトス郡中裁判所ノ書記官ハ向後注簿官ト改稱ス可シ又注簿官ハ唯一廳ニ勤メテ他廳ニ兼勤ス可カラス其被告ハ該廳ノ管外ニ居住ストモ其事端管內ニ發シタル時ハ原告ノ請願ニ依リテハ注簿官其被告ニ向テテ呼出狀ヲ發出スルノ權アルコト凡テ裁判役ト同様ナル可シ廳ノ持場ノ境界ヲ距ルコト五百「ヤルド」以内ニ於テ呼出狀ヲ



達シ又命令書ヲ執行スルヲ得可シトス裁判役ハ其持場ニ附近シタル  
諸場所ニ於テハ自ラ訴訟ヲ行ヒ或ハ訴訟セラル、ヲ得可シトス若シ  
又廳ノ役人原告人トナリテ其廳ニ出訴スル時ハ被告ハ其案件ヲ以テ  
附近ノ持場ニ移スヲ得可シトス若シ訴訟ニ關スル雙方ノ者他ノ郡中  
裁判所ニ於テ吟味セラレテ當然ナル可シト思惟スル時ハ裁判役ニ於  
テ其場所ヲ變換スルノ權アリ」右其第七節ヨリ二十二節マテニ出ルナ  
リ

其第二十三節ニ依ルニ逕通ノ訴訟ハ郡中裁判所之ヲ吟味スルノ權ナ  
シ但シ其他ノ訴訟素ヨリ通常律法ノ上等裁判所ニ出訴ス可キノ件  
ナリ且雙方ノ者協議シテ覺書ヲ作り自ラ之ニ署名シ又ハ相當ノ代  
言人之ニ署名シテ此覺書中ニ名指シタル郡中裁判所ヲシテ其案件ヲ吟  
味セシメント同意スル時ハ其郡中裁判所ニ於テ此案件ヲ決スルノ權  
アリ

リトス

其第二十四節ニ據ルニ其要求スル所ノ負債或ハ催督ノ金高五十「ポ  
ンド」ヨリ超過セスシテ其差引勘定後ノ殘金ニ係リタル訴訟ナレハ郡中  
裁判所之ヲ吟味スルヲ得可シトス」所有ノ權ニ就テ爭論ノ起リタル時  
モ雙方ヨリ承諾書ヲ出シタル上ハ郡中裁判所ニ於テ其是非ヲ決斷ス  
ルヲ得可シ」上等裁判所ニ持出シタル訴訟ニテモ其裁判上ノ命令書ニ  
裏書シタル要求ノ金額五十「ポンド」ヨリ超過セサル者及ヒ右ノ如キノ  
要求ノ金額原來五十「ポンド」ヨリ超過セシト雖モ或ハ裁判所ニ向ケテ  
拂フタルニ由リ或ハ直チニ本人ニ拂フタルニ由リ或ハ差引勘定等  
爲シタルニ由テ五十「ポンド」ヨリ超過セサルノ額ニ減少シタル者此等  
ノ如キハ一應取調ノ上ニテ雙方ヨリ請願アル時ハ上等裁判所ノ裁判  
役ハ郡中裁判所ノ中ヲ名指シテ其案件ヲ吟味セシタルノ命令ヲ下ス



ヲ得可シ但シ是レニ付テノ諸取極メハ裁判役ノ便宜ト思惟スル儘ナ  
 ル可シ「負債又ハ清數シタル要求高キ償辨セシメントスルノ訴訟モ二  
 十」ボンド」ヨリ超過スルモノナレハ原告ハ被告ニ望ムニ答辨スルノ  
 意ヲ報告ス可キヲ以テシ若シ其答辨ナキ時ハ被告ヲ非トナシテ裁判  
 ナ畢フ可シ「若シ被告ヨリ答辨セントノ報告アラハ則チ其吟味ヲ始ム  
 可シ注簿官其報告ノ有無ヲ以テ原告ニ報道ス可シトス」右ハ第二十三  
 節ヨリ第二十九節迄ニ出ルナリ「郡中裁判所ニ於テ其手續柄ニ由リテ  
 ハ代理人ノ費用ハ代理人ト本人トノ間ニ付テハ注簿官之ヲ賦課スル  
 ナリ又一方ノ者ト他ノ一方ノ者トノ間ニ付テハ其手續柄ニ由リテハ  
 注簿官之ヲ賦課スルナリ」右ハ第二十四節ヨリ第三十五節マテニ出  
 ツ  
 訟費ヲ除キ二十「ボンド」ヨリ超過セサル金額ニ就キ郡中裁判所ニ於テ

裁判ヲ宣告セラレタル上ハ裁判役ハ其金額又ハ訟費ヲ拂ハシムルコ  
 何時ニ拂ハシメ又何様ノ月賦年賦ヲ以テス可シト命スルモ凡テ己レ  
 適宜ト思惟スルニ從フ可シ且ツ其金貨ハ先ツ裁判所ニ向ケ拂ハシム  
 可シ但シ他ノ場合ニ於テハ共裁判濟ニ成リタル金額ハ直チニ之ヲ拂  
 ハシメ又ハ裁判ノ日ヨリ十四日以内ニ悉皆之ヲ承許スル時ハ月賦年  
 賦ヲ以テ拂ハシム可シ如此キノ場合ニ於テハ裁判役ハ原告又代理人ノ  
 承許シタル期限ニ於テ歟又ハ其年賦月賦ヲ拂フ可キ旨ヲ被告ニ命令  
 シ但シ其金貨ハ一期限ニ皆濟スルト年賦月賦ヲ以テスルトヲ論セス  
 總テ先ツ裁判所ニ向ケテ拂ハシム可シ  
 其第五十節ニ據ルニ小家屋ノ貸主ハ其家屋ノ價值又ハ拂フ可キ家賃  
 五十「ボンド」ヨリ超過セサル者ナレハ郡中裁判所ニ出訴シ其家屋ヲ取  
 戻スヲ得可シ但シ其貸借ノ期限ノ滿チタル歟又ハ前以テ報告シタル



「ヨリテ期限ノ終盡シタル歟」非レハ能ハサルナリ」且ツ又其家賃五十「ポンド」ヨリ超過セストモ半歳ノ家賃滞リタル時ハ貸主之ヲ取戻スヲ得ルナリ

其第六十二節ニ據ルニ分散管財人カ郡中裁判所ニ於テ債主ノ爲メニ訴訟ヲ行フニ當リテ若シ原告(即チ其分散管財人也)モ亦倒行シ又ハ破産スルヒ(分散管財人)其訴訟ヲ繼續シテ行フヲ願望シ且ツ裁判役ノ命令スル所ノ適宜ノ時間中ニ訟費ノ抵當物ヲ出タス時ハ其訴訟乃チ中止セサルナリ但シ分散管財人右ノ願望ヲ表スル迄ハ其聽訟ヲ延引ス可キナリ而シテ分散管財人敢テ其訴訟ヲ繼續シテ行フヲ願望セス且ツ裁判役ノ命令ニ由リテ定メラレタル時間ニ其訟費ノ抵當物ヲ出ササル時ハ乃チ被告ハ原告(即チ分散管財人也)ノ倒行破産ニ乘シテ其訴訟ヲ拒止スルヲ得ルナリ

倒行裁判ノ歎願 千八百六十一年ニ於テハウヰヤ女王二十四年五年ノ決議第百三十四篇ヲ以テ郡中裁判所ノ權力ヲ大ニ増益シテ「即チ該決議ノ第三節ニ依テ郡中裁判所ハ始テ倒行ヲ裁判スルノ權力ヲ得タリ」凡ソ債主タル者自身モ亦倒行者ト爲リテ稟狀ヲ呈シテ其負債三十「ポンド」ヨリ超過セサルコト申告スル時ハ郡中裁判所之ヲ裁判スルヲ得可シ但シ此ノ如キノ場合ニ於テハ其債主ハ往六箇年ノ間又ハ六箇月中ノ過半住居シタル區ノ郡中裁判所ニ其稟狀ヲ呈ス可キナリ若シ禁獄セラレテ居ラハ其禁獄セラレテ居ル區ノ郡中裁判所ニ其稟狀ヲ呈ス可キナリ」其第八十八節ニ據ルニ「ロンドン府ノ倒行裁判所ハ倒行裁判歎願書及ヒ裁判濟負債人呼出ノ歎願書其外ノ訴訟手續キチ區ノ裁判所ヨリ郡中裁判所ニ移スヲ得可シ但シ是レハ大信局チ距ルコト二十英里ニ在ルロンドン區以外ノ郡中裁判所ヲ謂フナリ



千八百六十九年ニ於テハウヰクトリヤ女王三十二年三年ノ決議第七十一篇ヲ以テ總テ郡中裁判所ニハ倒行ノ普通裁判權ヲ付與セラレタリ但シロンドンハ此例ニ在ラス

千八百六十二年ノ決議第四節ヲ以テ郡中裁判役ハ奉職中ハ議員ニ選舉セラル、ヲ得ス或ハ下院ノ議員トシテ出座スルヲ得ストノ禁制ヲ再定シタリ

ウヰクトリヤ女王二十八年九年ノ決議第九十九篇同ク三十年三十一年ノ決議第四百四十二篇同ク三十一年二年ノ決議第四十篇ニ據ルニ五十「ポンド」ノ價マテノ公平律法案件ニ付テハ郡中裁判所夫ノ「チャンセリ」應ノ裁判權ヲ行フヲ得可シトス

ウヰクトリヤ女王三十年三十一年ノ決議第四百四十二篇ニ據ルニ被告又ハ衆被告ノ中ノ一人カ其訴訟ヲ始ムルノ時ニ現住シ或ハ其商業ヲ

經營スル所ノ區内ノ郡中裁判所ニハ哀訴狀ヲ呈スルヲ得可シトス且ツ又被告又衆被告中ノ一人カ其訴訟ヲ始ムル前ニ六箇月以内ノ何時歟ニ曾テ現住シ或ハ其商業ヲ行ヒシ區内ノ郡中裁判所ニモ裁判役又ハ注簿官ノ免許アラハ哀訴狀ヲ呈スルヲ得可シ且ツ又其訴訟ノ事端ノ全ク發シ或ハ一部分發シタル區内ノ郡中裁判所ニモ右ノ免許アラハ其哀訴狀ヲ呈スルヲ得可シ

其第二節ニ據ルニ貨物又ハ動産又ハ其一部分ヲ商業、職業其外執業上ノ用ニ供センカ爲メニ被告ニ賣渡シテ其代金又ハ價直ヲ取ラントテ郡中裁判所ニ出訴シタル原告ハ呼出狀ヲ發出セシムルニ其隨意タル可シ而シテ若シ被告ハ答辨ノ意ヲ報告シ來ラスンハ郡中裁判所ニ於テハ直チニ裁判シテ其判文ヲ帳簿ニ記入スルヲ得可シ

其第四節ニ據ルニ麥酒、波打酒、啤酒、平菓酒、梨酒等總テ之ヲ賣售シ又ハ



之ヲ供給スル肆店即チ酒屋ニ於テ直チニ消費スルモノニ就テ除錢ヲ討メントシ又ハ請取ル可キ筈ノ金額ヲ催督セントシ又ハ右ノ麥酒、波打酒、啤酒、平菓酒、梨酒等ヲ得ンカ爲メ與ヘタル金錢又之カ爲メニ貸與シ或ハ之ヲ供給シタル貨物又ハ抵當ニ付テハ郡中裁判所ニ出訴シ或ハ訴訟ヲ持續スルコト能ハサルナリ

ロンドン府及ヒロンドン府管内 千八百五十二年ノ決議ハ其趣意蓋シロンドン府及ヒ之ニ附屬セル免許地ニ於ケル負債償還ヲ便易ナラシムルニ在リテ從前郡中裁判所諸決議中ノ重立ナタル箇條ヲ皆ナ合有セリ「五十「ポンド」マテノ金額ニ就テハ其裁判所ニ於テ訴訟ヲ始ム可キナリ尤モ雙方ノ承許シタル上ハ五十「ポンド」以上ナリ且出訴シテ可ナリトス」郡中裁判所ノ裁判役ハ其主長トナルヲ得可ク其集會所ハギニールドホール其外總テロンドン統合體ノ指令スル所ニ於テス可シ」

書記官及ヒ捕官其外總テ其裁判所ニ關係スル役員ノ奉職條例モ建テラレタリ「役人ハ禮金ニ代ヘテ月給ヲ渡スコニ成レリ」該條例ノ趣意ヲ達スル爲メニ獄囚ヲ備フルヲ得可ク亦金錢ヲ借り入ルハコトヲ得可シトス」又總テノ訴訟ハ本式ヲ用ヒスシテ哀訴狀ヲ以テスルコトヲ得可シトス」又雙方ノ者之ヲ要スル時ハ五名ノ陪審ヲ徵集スルコトヲ得可シトス」又郡中裁判所決議ニ於ケルガ如ク擬律ノ當否又ハ證據ノ取捨ニ付テ疑事アラハ上等裁判所ニ控訴ス可シ」又衆被告裁判ニ満足セサル時ハ之ヲ呼出シ禁獄スルヲ得可シ但シ此禁獄ハ負債ヲ消スルノ効ナシトス」該決議ヲ以テロンドン府ニ付與シタル諸權力ノ中ノ一箇條ハ小家屋ノ借主定時限ヲ越ヘテ猶ホ依然ト住居スル時ハ別ニ放逐ノ訴訟ヲ行ハスシテ直チニ之ヲ貸主方ニ取戻スコトノ權ヲ許セリ」凡ソ禮金ハ該決議ノ附ケ紙ニ列記スル如クニ之ヲ賦課ス可シトス



ウクトリヤ女王十九年二十年ノ決議第百〇八篇第十八節ニ據ルコ  
ロンドン府管内ニ在ル諸裁判所ノ諸區域ハ一區域ト見做シ凡テ呼出  
狀ヲ發出送達スルハ原告ノ住居シ或ハ商業ヲ行フ所ノ區域ヨリスル  
ニ依ル可シ  
又ハ被告ノ住居シ或ハ商業ヲ行フ所ノ區域ヨリスルハ總テ其都合  
ニ依ル可シ

第二節 商人外ノ破産者及ヒ債主互ニ示談スル事

ウクトリヤ女王七年八年ノ決議第七十篇ヲ以テ左ノ事ヲ明言シタ  
リ曰ク負債人ト債主トノ間ニ分散管財人ヲ設クルノ示談ヲ爲シ其他  
平和ナル示談ヲ爲スニ關シテハ務メテ便宜ノ方法ヲ設ケサル可カラ  
ス且ツ其示談ヲ實行スルニ關シテモ亦最良ノ方法ヲ設ケサル可カラ  
スト乃チ左ノ條例ヲ設ケタリ凡ソ債主トノ契約ヲ踐ムコト能ハサル負  
債人ハ(但シ其負債人ハ倒行條例内ノ商人タラサル者ナル可シ)人員並

ニ金高ニ於テ其三分ノ一ニ居ルノ諸債主之ヲ承許シ其歎願書ニ署名  
シタル時ハ倒行裁判所ニ歎願書ヲ呈シ其負債ヲ詳細ニ記シ且ツ其負  
債契約ノ原由(即チ其債主ノ趣意ノ仁惠ニ出テタル歟又ハ收利ノ目的  
ニ出テタル歟)之ヲ契約ノ原由ト謂フ也)ヲ詳記シ且ツ其契約ノ年月日  
及ヒ其債主ノ姓名住所及ヒ其職業ヲ詳記シ且ツ其動産不動産ハ其收  
手スルト其後來復得ス可キト其後來所有ス可キモノトチ問ハス悉皆  
之ヲ列記シ其貸出金及ヒ諸權利トモ己レノ有タルモノハ悉皆之ヲ列  
記シ且ツ何等ノ所有物ニテモ人ニ附託シ置キタルモノハ悉皆之ヲ列  
記シ且ツ其債主トノ契約ヲ踐ムコト能ハサル趣ヲ申告シ且ツ其差支ノ  
真ノ原因ヲ申告シ且ツ其負債或ハ契約ヲ後日償還シ又ハ實踐スルコ  
ト付テ己レノ力ノ及フ丈ケノ見込ヲ付ケテ之ヲ申告シ及ヒ人員及ヒ金  
高ニ於テ其三分ノ一ニ居ルノ諸債主共見込ニ承許シタルコトヲ申告シ



且ツ其見込ヲ其儘數(或ハ其債主ノ過半其見込ヲ少シク更變シタルモ  
 ノチ)裁判所ノ照管ヲ以テ之ヲ執行セシメテ其歎願シ且ツ歎願スル負債  
 者ナル予ハ其執行ノ間裁判所ノ命令ヲ以テ拘留ヲ免カレシメテ希望  
 スト歎願ス可キナリ倒行裁判所ノ委員ハ其歎願書ヲ檢査シタル上ニ  
 テ其歎願スル負債者若クハ其歎願書ニ加印シタル債主若クハ負債人  
 ノ差出シタル証人ナハ私密ニ檢査シ然ル上ニテ其委員ハ其歎願書ニ  
 陳述シタル事實ヲ真正ノコトナリト思惟シ且ツ其負債ノ契約決シテ詐  
 偽背信等ヲ以テセス若クハ償還ノ目的ナクシテ爲セシニモアラズ(又  
 其負債契約タル嘗テ犯則ノ審理中ノ判文ニ依リテ爲セシニモアラズ)  
 ト思惟シ且ツ其歎願者十分ニ其事情ヲ暴露シテ其諸債者ト示談セシ  
 ト願望スルト思惟シ其負債者申立ル所ノ償債方法ハ十分適當ニシテ  
 裁判所ノ照管ヲ以テ執行ス可キ者ナリト思惟スル時ハ委員ハ債主ノ

總集會ヲ催ス可シ但シ其集會日ノ前七日ヨリ少ナカラス二十日ヨリ  
 多カラサル間ニ其債者ヘ向ケ報告書ヲ送達ス可シ(右ハ該決議ノ第二  
 節ニ出ルナリ)

其際ニ當リテハ負債人若シ新條例ニ依リテ監獄中タリニ其之ヲ拘留  
 シタル債主ニ報告セシメテ直チニ之ヲ放釋シテ可ナリトス債者倒行  
 裁判所ノ委員ハ適任ノ人ヲ選任シ其集會ノ上席タラシメ且ツ其集會  
 ニ於テノ事爲ヲ稟報セシム可シ若シ第一回ノ集會ニ於テ人員及ヒ金  
 額ニ於テ其過半ニ居ルノ諸債主或ハ其貸金二十「ポンド」ヲ超過スル債  
 主ノ十分ノ九カ負債ノ申立ヲ承諾スル時ハ第二回ノ集會ヲ期定ス可  
 シ但シ第一回ノ集會後七日ヨリ少ナカラス二十日ヨリ多カル可カラ  
 ス但シ第一回ノ集會ニ出席セザリシ各債主ヘハ其報告書ヲ送達ス可  
 キナリ而シテ其第二回ノ集會ニ於テ人員及ヒ金高ニ於テ其五分ノ三



ニ居ルノ諸債主若クハ其貸金各二十「ポンド」ニ超過シタル各債主ノ十分ノ九カ第一回ノ集會ニ取極メタルコトニ承許シテ之ヲ書記シタル上ハ向後其議決ノ事ヲ相守ラサルヲ得ス勿論人員及ヒ金高ニ於テ其三分ノ二ニ居ルノ諸債主出席シタルニ非レハ之ヲ執行スル能ハサルナリ然ル上ハ倒行裁判所委員ニ其議決ノ事ヲ以テ可ト思惟スレハ則チ十五日以内ニ之ヲ簿帳ニ登録セシメ其歎願人ニハ拘留免除ノ證書ヲ與フルヲ得可シ此證書ハ其歎願人ニ於テ詐偽ノ事所有物ノ隠匿若クハ遁逃ノ意アルニ非レハ其効ヲ失フコトナシ而シテ又該委員ハ負債者審訊中モ一時ノ拘留免除證書ヲ與フルヲ得ルナリ

集會ノ所決ヲ簿帳ニ登録スルヨリ以後ハ負債者ノ財産ハ選任シタル被託者ニ交付ス此被託者ハ負債者ノ財産ノ己レノ手ニ到リタル分ヲ調査シテ其明細書ヲ差出ス可シ但シ是レハ六箇月中ニ寡クモ一回差

出スヲ常トス尤モ委員ヨリノ請求アル歟又ハ其貸金ノ高全額ノ十分ノ一ニ居ルノ債主二人ヨリノ請求アル時ハ更ニ數次之ヲ差出ス可シ

債主委員ハ其明細書ヲ検査シ之ヲ認定シ其都合ニヨリテ集會ノ所決ニ照準シテ債主ヘノ拂方ヲ命ス可シ

若シ困難ノ起ル時ハ債主ノ總集會ヲ催シテ嚮キノ所決ノ一部分又ハ全體ヲ再定シ變更シ或ハ廢除スルヲ得可シ但シ之ヲ爲スニハ人員及ヒ金高ニ於テ其三分ノ一ニ居ルノ債主ノ出席ヲ要スルナリ其集會ノ所決ヲ實施シ其趣意ヲ貫徹シテ諸債主ヲ満足セシメタル時ハ更ニ收尾ノ集會ヲ催シ而シテ免除證書一通ヲ以テ委員ヨリ被託者ニ授ケ更ニ一通ヲ以テ負債者ニ授クルヲ常トス此免除證書ハ負債者ノ拘留ヲ免除シ之ヲ保護スルニ於テ夫ノ倒行ニ於ケルノ證書ト同効ナリトス

ウクトリヤ女王七年八年ノ決議第二十篇ノ條例中ニ疑事アリシテ



以テ之ヲ明了ニセシカ爲メニウヰントリヤ女王二十三年四年ノ決議  
 第十四十七篇ヲ以テ該決議ノ箇條ヲ繫獄中ノ負債者ニモ適用シ之ヲ  
 シテ歎願書ヲ差出スヲ得ルコト恰モ未繫獄ノ負債者ト同一ナラシメタ  
 リ諸テ委員ハ繫獄中ノ負債者ヨリ歎願書ヲ出シタル時ハ其負債者ヲ  
 放釋スルヲ得可シ勿論是レハ捕縛ヲ免カル可キ者ノ繫獄セラレ居ル  
 ノ場合ニ限ルナリ  
 管財示談及ヒ請人證書ニ關シテ負債者債主ノ間ニ存スル律法ハ千八  
 百六十九年ノ決議ノ中ニ在リ其委シキハ倒行及ヒ破産ノ條ニ就テ見  
 ル可シ

第三節 民事裁判ノ時逮捕ヲ受ケサル人ノ事

此王領ノ貴族ハ勿論アイルランドスコットランドノ貴族ノ如キモ亦其  
 同列ノ代議員タルト否トヲ問ハス皆ナ民事裁判ノ時ニ逮捕セラレ

ヲ免カル可シ其他國會ノ議員及ヒ諸統合體ノ社員モ亦然リ及ヒ大狀  
 師書記代理人訴訟人証人其他凡テ其關係ノ事務ノ爲メニ裁判所ニ參  
 スル者皆ニ逮捕ヲ免カル可シ僧徒タル者ハ聖禮ヲ行フ間並ニ其レノ  
 爲メニ往返スル間ハ逮捕ヲ免カル可シ  
 遺物處分者及ヒ遺狀受託人モ亦逮捕ヲ免カル可シ但シ自ラ償債セン  
 コトヲ約定シテ其約ヲ踐マサル時ハ此例ニアラス全權大使並ニ其臣僕  
 ハ逮捕ヲ免カル可シ海外ニ在ル外國人ハ逮捕ヲ免カル可シ將ニ辨解  
 セントスル保證人及ヒ保證人トシテ參術スル者及ヒ倒行人ニシテ其  
 財産ノ事ニ關シテ倒行事務係リノ前ニ呼出サルハ者ハ逮捕ヲ免カル  
 可シ破産人ノ如キモ再度ノ明約ニ背キタルニ非レハ放釋セラレ可シ  
 有夫ノ婦ハ逮捕ヲ免カル可シ但シ單身ノ女ト偽リテ負債シタル時ハ  
 逮捕セラレ可シ勿論原告ニ於テ其婦女ニ夫アルヲ知リテ貸與セシナ



ラハ其婦女ハ放釋セラル可シ債主ニシテ貸金ヲ證スル爲メニ倒行事務係リニ出頭シタル者及ヒ証人ニシテ破産裁判應或ハ軍事裁判所ニ出頭シタル者並ニ法師、教長、總領事及ヒ「クッキンズ、ベント」「名」ハ「マルンヤ」「名」ハ逮捕ヲ免カル可シ

第四節 脱走シタル負債人ヲ逮捕スル事

ウヰットリヤ女王十四年五年ニ於テ脱走負債人逮捕ノ爲メニ條例ヲ設立シタリ是レ「ロルド、ハロービニス、アクト」ト曰フ此條例ノ緒言ニ曰ク現今行ハル、所ノ法律太ク遲緩ニシテ負債者ハ諸海口ヨリ早ク遠方ニ向ケテ出帆スルニ由リテロンドン以外ニ在ルノ債主ハ負債者ノ詐偽欺瞞ニ由テ枉害ヲ蒙ルト少カラサレハ今後ハ英國ヲ去ラントスル負債者ヲ逮捕スル爲メニ嚴密ノ方法ヲ設ケサル可カラスト乃チ其條例第一節ニ曰ク「ミドルセキス郡ノ郡廳裁判役ヲ除ク外、倒行裁

判所ノ委員並ニ諸郡廳ノ裁判役ハ債主ヨリ出願シ且ツ誓書ヲ捧ケ證スルニ二十「ポンド」以上ノ貸金アリテ既ニ其返辨ノ期ニ至ルタルト其債主ノ速ニ緝捕スルニ非レハ英國ヲ去ルノ恐レアルトナテ以テスレハ則チ常式ノ緝捕免狀ヲ債主ニ交付シテ其日附ヨリ七日以内ニ其負債者ヲ逮捕セシムルヲ得可シトス」右ノ如キ緝捕免狀ハ負債者ノ方ニテ保釋ノ請人ヲ立ル歟預ケ金ヲ爲ス歟又ハ該緝捕免狀ニ記スル所ノ負債及ヒ訟費ヲ償清シタル歟又ハ其他ノ故ヲ以テ法律上ニテ放釋セラレタル迄ハ依然其効ヲ失フコトナシトス」右ノ如キ緝捕免狀ヲ出願ノ上ニテ領收シタル債主ハ必ス「カピアス」「余票」ト云ヘル票狀ヲ發出セシメ（若シ又一モ未決ノ案件ナキ時ハ先ツ上等裁判所ヨリ呼出狀ヲ發出セシメ）然ル後ニ被告ノ繫纏セラレ居ルニ拘ハラス尋常裁判ノ手續キチ始ムルナリ右ノ「カピアス」ハ緝捕免狀ノ日附ヨリ七日以内ニ其被



告ニ通達セサル可カラス  
 右ノ條例ハウクトリヤ女王三十三年四年ノ決議第八十三篇ヲ以テ  
 廢止セラレテ現今脫走負債者ノ緝捕事務ハ千八百六十九年ノ倒行條  
 例ト千八百七十年ノ脫走負債者條例ヲ以テ之ヲ調理スルコト成レリ  
 右脫走負債者條例ニ定ムル所ハ左ノ如シ曰ク千八百六十九年ノ條例  
 ニ掲載スル所ノ式ニ據リテ負債者ヘノ呼出狀ヲ債主ニ交付シタル後  
 ニテ他ヨリ其負債者ヲ相手取リテ倒行處分訴狀ヲ應ニ差出シタル前  
 ニ於テ該裁判所ヨリ考フレハ負債者ニ於テハ右ノ呼出狀ノ掛リタル  
 負債償却ヲ免カレンシ爲メ歟若クハ右倒行處分訴狀ノ通達ノ來ラシキ  
 逃避セン爲メ歟若クハ右訴狀一件ニ付キ出頭スルヲ免カレンシ爲メ  
 歟若クハ己レノ是レ迄ノ事情ヲ檢査セラレシテ避ケン爲メ歟若クハ  
 其他凡テ倒行裁判ノ手續ヲ免カレンシ爲メ若クハ運送ニセシカ爲メ

歟若クハ困難ニセンカ爲メニ故意ヲ以テ海外ニ逃走ス可シト信スル  
 ノ理アル時ハ捕官又ハ裁判所ノ其筋ノ役人ニ票狀ヲ送付シテ負債者  
 ナ拘留シ裁判所ノ命スル所ノ時間之ヲ拘置セシムルヲ得可シ但シ負  
 債者ニ於テ右條例ニ定ムル如クニ其呼出狀ヲ廢棄シタキコトヲ揭示ノ  
 式ニ據リテ裁判所ニ出願シ又ハ條例ニ定ムル時限中ニ於テ負債者償  
 却シ又ハ抵當ヲ出クシ又ハ示談金ヲ以テ結局シテ以テ倒行所行ノ惡  
 名ヲ免ガル、權ヲ變更限制スルカ如キハ固ヨリ該條例ノ本意ニ非レ  
 ハ之ヲ解釋スル者其本意ヲ誤ル可カラス  
 第二節ニ曰ク該條例ニ據レハ凡ソ拘留ハ拘留ノ前歟又ハ拘留ノ時ニ  
 於テ負債者ヘ呼出狀ヲ通達スルニ非レハ正實具成ノ拘留ト認ムルヲ  
 得ズト

第五節 外國ニ於テ負債ヲ返償セシムル事



世間一般ニ信スル説ニ負債返償ヲ避ケル爲メニ本國ヲ去リテ佛蘭西ニ移住スレハ佛蘭西裁判所ニ於テハ佛蘭西人民外ノ訴訟ヲ關知セサルニ由リテ其負債者ハ訴訟セラレバノ患ナシト云ヘリ此説ハ衆人ニ同ニ信スル所ト成リテ負債者ガ佛蘭西ニ寓居スト知ラル時ハ債主ハ之ヲ返償セシムルノ路ナシト信シテ督責ノ處置ヲ絶念スルニ至レリ因テ我輩此ニ左ノ事ヲ記シテ衆人ニ通知セサル可ガラス現今此件ニ付キ世上一般ニ信スル所ハ全ク誤謬ニ屬シテ現ニ英國ニ住居スル者ヨリ佛蘭西ニ寓居スル負債者ニ強迫シテ之ヲ返償セシメタル例モ尠ナカラス但シ佛蘭西法律上ノ規則ニ上裁判所ノ判文ニ討債者ノ權ヲ證スル明文アルニ非レハ甲ノ外國人ハ佛蘭西裁判所ニ於テ乙ノ外國人ヲ糾彈ス可カラズトアルハ尙ホ眞ニ然リ而シテ佛蘭西裁判所ニ於テハ一概ニ外國人ノ糾彈ヲ受理セズト謂フニアラス英國ニ於ケル

裁判所ニ於テ定套又ハ判文ヲ得タル時ハ佛蘭西裁判所ニ於テモ英國ニ於テ斯ク得タル判文又ハ定套ヲ施行スルトト定メテゾリト云フ英國ニ於テ裁判ノ未タ結ニ就カサル以前ニ負債者ノ逃走シタル時ハ討債ノ難キヲ知ル可シ然レモ一ダヒ負債者ニ呼出狀ヲ通達シテ英國ニ於テ判文ヲ下シタル時ハ佛蘭西裁判所ハ其判文ヲ實地ニ施行スルコト英國裁判所ニ異ナラス而シテ其負債者英國ニ住居セシノ初メニ於ケルカ如クナル可シ右ノ如クニ英國ニ於テ先ツ裁判ニ着手シ既ニ判文ヲ下シタル後ニ於テ其負債者比耳義ニ移住スル時ハ同國ノ法律ヲ以テ英國ノ裁判ヲ助シテ英國負債者ヲ處分ス可シト信ス

第十五章 押へ質ノ條

押へ質トハ甲ノ人カ乙ノ人ノ私有物上ニ功勞ヲ加ヘタルニ付キ其私



有物ヲ留置ク(ノ權)ヲ謂ヒ又私有主ヨリ請取ル可キ會計ノ不足ヲ補フ  
 爲メニ其私有物ヲ留置ク(ノ權)ヲ謂フナリ  
 英國ノ通常律法ヲ按スルニ旅店ノ主人竝ニ擔夫ノ如キ一二業體ノ者  
 ニハ其本業ノ限界中ノ諸事務ノ依頼ヲ許諾ス可キノ義務アルヲ以テ  
 又之ニ應シタル權利アルナリ即チ人ヨリ私有物ヲ委託セラレテ其事  
 ヲ辨スル間ニ用ヒタル功勞ト費金トノ補償トシテ其私有物ヲ留置ク  
 ナ得可シトアリ然レモ今日一般ノ說ニハ押へ質ノ權ハ特ニ依頼人ノ  
 需メニ應スルノ義務アル業體ノミヲ限ルニアラス凡テ社會ノ利便ヲ  
 達スル所ノ各業體ノ者皆ナ此押へ質ノ權ヲ有スト云ヘリ  
 代理人及ヒ小狀師ハ其訟費ノ抵償トシテ其委託主ノ書類ヲ押へ質ニ  
 スルノ權アリ銀行者ハ商人社會ニ行ハル、所ノ諸抵當物ヲ留置クノ  
 權アリ仲買人代辦人及ヒ替管事<sup>ダイ</sup>ノ如キハ其本人ノ私有物ヲ己レノ手

ニ在ルモノ及ヒ買主ノ手ニ在ルモノヲ押へ質ニスルノ權アリ又船主  
 ハ其海旅ノ間ノ賃錢及ヒ諸費用ノ補償トシテ其船貨ヲ押へ質ニスル  
 ノ權アリ又運搬者ハ其車賃ノ補償トシテ其荷物ヲ押へ質ニスルノ權  
 アリ旅店ノ主人ハ客ノ飲食料及ヒ座敷料トシテ其私有物ヲ押へ質ニ  
 シ且ツ又馬ヲ預リ秣艸ヲ給與シタルコ付キ其馬ヲ押へ質ニスルノ權  
 アリ又保險ノ世話人ハ委託人ノ爲メニ周旋奔走シタル保險契約ノ手  
 數料トシテ委託人ノ所有物ヲ押へ質ニスルヲ得可ク又磨穀者包裝者  
 及ヒ埠頭ノ管守人染工車工染布者ノ如キハ皆ナ其職業上ニテ委託セ  
 ラレタル貨物ヲ押へ質ニスルノ權アリ  
 然リト雖モ押へ質ノ權ハ原ト商業ノ利便ノ爲メニ許シタル者ナレハ  
 其涉ル所商業ノミニ限レリ是故ニ家畜ノ牧養又ハ狗犬ノ管守等ニ至  
 リテハ之ヲ押へ質ニスルノ權ヲ許サズ且ツ又工銀トシテ若干ヲ拂ハ



ノト別段ノ契約ヲ結ビタル場合ニ於テハ其功勞ヲ加ヘタル貨物ノ所  
 有主身自ラ其工銀ヲ償フノ責ニ當レバ則チ工人其貨物ヲ押ヘ質コト  
 ルヲ得サルナリ  
 押ヘ質ノ權ヲ得タル者一概ニ其貨物ヲ賣售スルヲ得スト雖モ其貨物  
 ヲ留置スルカ爲メニ費用ヲ要スル時ハ之ヲ賣却スルモ可ナリトス又  
 家畜ヲ押ヘ質ニシタル時ハ其原主ノ驅役シタル程ハ之ヲ驅役スル  
 モ可ナリトス又牝牛ナレハ乳ヲ搾取スルモ可ナリトス  
 左ノ如キ事情アル時ハ押ヘ質ノ權ヲ行フヲ得ス第一初メ其所有物ヲ  
 受取ルニ詐偽ヲ以テシ或ハ虛言ヲ以テシタル時押ヘ質ノ權ヲ行フヲ  
 得ス第二其所有物ヲ交付シテ事ヲ委託スルニ至ク所有主自己ノ體面  
 ヲ以テ信ヲ取リタル時又ハ全權アル臣僕又替管事ヨリ之ヲ交付シタ  
 ル時押ヘ質ノ權ヲ行フヲ得ス第三倒行者又ハ倒行ノ豫見スル人ヨリ

交付シタル所有物ニ對シテ押ヘ質ノ權ヲ行フヲ得ス且又品物ヲ留置  
 キテ押ヘ質ニシタル者其品物ニ換ヘテ別段ノ抵當物ヲ受取リタル時  
 又ハ自ラ好ミテ其品物ヲ悉皆又ハ一部分返還シタル時ハ其後ニ至リ  
 テ其品物ニ對シテ押ヘ質ノ權ヲ行フヲ得ス此事最モ人ノ當サニ知ル  
 可キ事ナルヲ以テ此ニ之ヲ附載スト云フ

第十六章 倒行並ニ破産ノ條

倒行者トハ商人ヲシテ十分ノ財産ノ無キニ由リ或ハ其所有物ヲ金貨  
 ニ交換シ難キニ由リテ律法ニ據リテ討債スル所ノ債主ノ催迫ニ應ス  
 ルヲ能ハス且ツ其切迫ノ景況ヲ徴スルノ所行ヲ犯シタル者ヲ謂フナ  
 リ而シテ倒行者ト破産者ト異ナル所以ハ重ニ其切迫ノ景況ヲ徴スル  
 ノ所行ヲ犯シタルト否トニ由ルナリ夫ノ破産者モ倒行者ト同一ニシ  
 テ債主ノ催迫ニ應スル能ハスト雖モ逃走セテ債主ヲ避ケ又ハ公然奸



計ヲ廻ラシテ其負債ノ狀ヲ世間ニ發露セサルヲ相違アルニヨ然ルニ  
千八百六十一年ノ倒行條例(此條例ハ千八百六十九年ノ條例ノ爲メニ  
廢止セラレタリ)ニ依レハ倒行者ト破産者ノ區別ハ廢セラレテ此兩種  
ノ負債者ハ審理ノ手續キニ至テハ皆ナ同一ノ裁判權ヲ以テ處斷スル  
事ト成レリ

通常ノ裁判ノ順序ニ於テハ債主タル者負債者ノ身體ヲ捕フル歟其家  
財ヲ差押フル歟其一ヲ爲ス一ヲ得可シト雖モ同時ニ兩ツナカテ爲ス  
コト得ス即チ其身體ヲ捕ヘテ其事ヲ結了スル時ハ其後ニ其家財ヲ差  
押フルコト得ス且ツ諸債主ハ其諸負債ヲ回償スル爲メニ各個ニ訴訟  
手續キヲ經過セサル可カラス然ルニ倒行條例ニ於テハ之ニ反シテ債  
主一人若クハ數人ノ情願ニ因リテハ債主一同ノ利便ノ爲メニ共同ノ  
費用ヲ以テ一緒ニ訴訟手續キヲ行フヲ許セリ而シテ負債者ハ律法ノ

作用ヲ以テ直ニニ其動産ヲ剝奪セラレ而シテ負債者ノ私選スル所ノ  
被託人又ハ律法ニ據リテ官命スル所ノ被託人ニ其動産不動産ヲ交付  
スルヲ常トス然リト雖モ負債主隱藏ナシ其事情ヲ打明カシテ其行爲  
全ク詐僞ナキ事顯然タル時ハ則チ十分ノ放釋ヲ蒙リテ其身體ヲ自由  
ニ併セテ後來獲ル所ノ財産ヲ自主スルヲ得可ク其行爲ノ良善ノ度  
ニ準シ且ツ財産賣却ノ上ニテ諸債主ニ與ヘタル分配高ノ多寡ニ應ジ  
テ其舊財産中ヨリ相當ノ恩給ヲ受取ルヲ得可キナリ

近年以來倒行條例ヲ論議スルコト頗ル周密ニシテ而シテ商律中ノ此錯  
雜ナル一科ヲ改良セントスルノ舉アリキ是レヨリ先キ千八百二十五  
年ニ於テ早ク既ニ倒行ニ關係スル條例ノ浩瀚ナル者ヲ改削シテ簡約  
ニシ且ツ新クニ良法ヲ設ケタル者モ亦尠ナカラス中ニ就テ其最モ緊要  
ノモノヲ擧クレハ左ノ如ク曰ク所謂ル未心負債ノ證據ヲ聽入ルハノ  
コンチンセントテット



法律曰ク剩餘ノ金額アル時ハ諸般ノ負債ニ利息ヲ附クルノ法律曰ク示談金ノ申出テ許スノ法律曰ク負債難償ノ商人ニハ其旨ヲ公告明言シ由テ以テ其財産ヲ將テ其諸債主中ニ公平ニ分配スルノ手段ヲ立ツルヲ得セシムルノ法律是ナリ

千八百三十一年ニ於テハ倒行ノ裁判手續キニ於ケル費用ヲ減シ遲延ノ弊ヲ除キ及ヒ憂慮ヲ少ナカラシメンガ爲メコウナルレム第四世一年二年ノ決議第五十六篇ヲ定メラレタリ

此決議ニ據リテ倒行裁判所ヲ新設シテ從前ノ倒行事務委員七十八ヲ廢シ之ニ代フルニ裁判役十名ヲ以テシ且ツ注簿官若干名及ヒ書記數名ヲ以テ其佐官トナシ其他緊要ノ改革モ亦擧ナカラス第一從前債主ヨリ倒行處分願書ヲ捧クルノ制ヲ廢シテ司法長官ヨリ倒行處分命令書ヲ發出スルノ新法ヲ設立シ第二倒行者ノ財産ヲ管守スル爲メニ官

命管財人ヲ置キ第三代言人及ヒ小狀師ノ倒行裁判所ニ於テ行業スルヲ許可シ誓書ヲ以テ負債ヲ證スルヲ許可シ第四巡察裁判役ヨリ薦舉シタル者ヲ以テ常在委員ニ補シテ各地方ニ於ケル倒行事務ヲ調理セシメ第五倒行者ノ財産ヲ調理スルニ就テハ彼ノ官命管財人ニ於テ其倒行者ヲ使用スルヲ許シ事ノ決シ難キモノアレハ管財人ノ處分ヲ以テ仲裁人ニ囑シテ判決セシメ管財人ノ此處分ハ裁判所ノ處分ト見做ス可キモノトス

右ノ改正條例ノ外ニモ仍ホ種々ノ改正條例ヲ設ケラレタリト雖モ倒行條例未タ完全ナラサルヲ以テ商人中ノ相互信任即チ金貨融通ヲ保持スルニ足ラス而シテ倒行者カ秘密讓渡シテ爲ヌニ由リ若シハ財産ヲ隱匿スルニ由リ若シハ奸謀ヲ廻ラヌニ由リテ倒行者ノ家財ノ大概ハ常ニ消失スルカ如クニシテ裁判ノ處分ヲ以テ之ヲ取上クルヲ得サル



ナリ因テ貿易世界ノ上等社會ハ國會ニ迫リテ此事ニ注意アラントテ  
 請求シケルハ國會ニ於テモ大ニ憂慮シテ久シク尙議アリタル上ニテ  
 千八百四十九年ニ條例ヲ設ケタリ是レテウヰクトリヤ女王十二年三  
 年ノ決議第百〇六篇トス此條例ヲ以テ新設シタル改正ノ事項ハ數件  
 ニシテ皆テ極メテ緊要ニ屬セリ今左ニ其大畧ヲ舉ケン

(第一)從前司法長官ヨリ倒行處分命令書ヲ發出スルノ制ヲ廢シテ債主  
 ヨリ倒行處分願書ヲ捧ケルノ新法ヲ設ケテ以テ倒行裁判ヲ簡易ニス  
 ル事(第二)從前「リソコリンソン」出座ノ副司法長獨リ審理シタル某件ヲ  
 今後ハ倒行委員ニ之ヲ初メヨリ審理スルノ權利ヲ付與シテ以テ時々  
 省キ費用ヲ減スル事(第三)官命ヲ以テ破産者ノ財産ヲ取上シル爲メニ  
 利便ナル條款ヲ設ケタル事(第四)商業上ノ諸般ノ過失ヲ類別シ從テ其  
 過失ノ輕キ者ニハ其旨ヲ證シタル證書ヲ與ヘ又ハ其情憐ム可キ者ニ

ハ違令ノ條無キ旨ノ證書ヲ與フル事以上數件皆テ改定ニ係レリ  
 正直ナル負債人ト詐僞アル負債人ノ間ニモ始メテ律法ヲ以テ廣濶ナ  
 ル限界ヲ畫シタルハ凡ソ商人ニシテ其破産ノ初メニ於テ其債主ニ其  
 事情ヲ打明カシ其力ノ及フ限リノ返辨ノ見込ヲ陳述シテ債主ノ許可  
 ヲ得タル者ハ其身體ヲ羈繋セラル、ヲ免カレ且ツ裁判所ノ預リ管ス  
 ルヲナシニ管財人ヲ以テ其事ヲ結了スル歟又ハ官命管財人ノ補助ヲ  
 受ケ裁判所ノ管轄ノ下ニ其事ヲ結了スト雖モ何レニシテモ倒行者ダ  
 ルノ汚辱ヲ蒙ルヲナシ然リト雖モ其案ヲ斷シ倒行者ノ行爲ヲ判スル  
 ニ理ニ於テ倒行處分ヲ行ハサル可カラサルニ於テハ裁判所ノ委員ニ  
 於テ倒行者ニ第一等證書ヲ付與シテ此證書中ニ記スルニ該商人ノ負  
 債ヲ償フ能ハサル所以ハ特リ災難ヨリ起リタル旨ヲ以テシ又ハ之ニ  
 第二等證書ヲ付與シ此證書中ニ記スルニ負債ヲ償ヒ難キ所以ハ一部



分災難ヨリ起リタル旨ヲ以テシ又ハ之ニ與ルルニ第三等證書ヲ以テシ  
 シ負債ヲ償ヒ難キ所以ハ全ク災難ヨリ起テサル旨ヲ其中ニ記入ス可  
 シ斯ノ如クニ負債者ノ行爲ノ善惡ヲ區別スルノ一條ハ社會ノ爲メ並  
 ニ商業風儀ノ爲メニ緊要ナルヲ條例中ノ他ノ條款ノ比ニ非サルナリ」  
 其後「ロルド」チヤンセル、ウエストベレトガ「アットメイセチラル」ノ職  
 ニ在リシ時ニ破産律並ニ破産裁判法ヲ簡易ニ類聚改正セント欲セシ  
 カドモ其初意ノ儘チ行フチ得ス千八百六十一年八月六日ニ英國倒行  
 律破産律ヲ改正スルノ條例ヲ發行アリテ僅ニ其大旨チ行フチ得タリ  
 此條例ヤ即チウヰンストリヤ女王二十四年五年ノ決議第百三十四篇  
 ニシテ原ト舊條例ヲ刪正改定シタル者ニアラス多クハ舊條例ヲ全ク  
 存シテ其刪除シタル者ハ唯前章ニ舉ケタル數條ニ過キサルナリ  
 右ノ條例ハ千八百六十一年十月一日ヨリ始メテ實際ニ施行セラレタ

リキ」而シテ千八百四十九年千八百五十四年ノ兩倒行條例ト此條例ト  
 チ併セテ一條例ト見做ル引用ノ時ニハ千八百六十一年ノ倒行條例ト  
 稱ス可キモノトス  
 千八百六十一年ノ決議即チ條例ハ從來ノ他ノ條例ト異ナリテ卓出シ  
 タル條款許多ナリト雖モ就中従前分離シタル倒行條例ト破産條例ノ  
 施行チ今後同一裁判ニ附シタルノ一條ヲ其最ナル者トス且ツ未決ノ  
 殘務ヲ取扱フ裁判役ノ職務ハ格別ナリト雖モ實ニ破産裁判所ヲ廢シ  
 且ツ其他緊要ノ改革ヲ爲シ又大要領ヲ定立シタルヲ左ノ如シ  
 第一ニハ破産條例ノ施行チ更ニ普及ニシ更ニ急速ニシ更ニ費用ノ省  
 略ヲ要シ第二ニハ右ノ改正ニ由リテ雙方ノ内談及ヒ示談並ニ債主ト  
 負債主トノ間ノ契約チ更ニ便宜ニシ第三ニハ負債ノ賠償トシテ負債  
 者ヲ繋縛スルノ制ヲ漸々ニ廢止スルヲ期シ第四ニハ前ニ記シタル如



三  
 二  
 シニ倒行破産ノ兩條例ヲ一體ナラシムルノ成功ヲ奏スルヲ要ス  
 右新法ノ裁判ニ由テ實地ニ於テ得タル成績ヲ舉レハ負債者ノ財産ノ  
 管理ヲ多クハ債主ニ歸シテ官命ノ管財人ニ偏ニ歸セシメサルノ成績  
 ナ其最ナルモノトシ商人ト非商人トノ間ノ區別ノ廢止セラレタルヲ  
 其次キトシ其他成年ノ者ハ男女ヲ問ハス貴族ト平民トヲ論セス外國  
 人内國人又ハ歸化者ノ別ナク外國全權大使ヲ除クノ外ハ皆ナ倒行條  
 例ヲ以テ處分セラル、ト成リ癡狂人ト雖モ其暫時平常ニ復シタル  
 間ニ倒行條例ニ牴觸スル所行アレハ則チ倒行條例ヲ以テ處分セラル  
 ルト成リ第三ニハ各郡ノ裁判廳ハロンドン府ノ管轄限内ニ於ケル  
 外ハ始メテ倒行事務ノ區裁判所ト同シク倒行者ヲ審理スルノ權ヲ得  
 タリ勿論此各郡裁判所ノ審理スル所ハ負債人既ニ倒行者ト爲リ其負  
 債ノ高三百ポンドニ超過セス且ツ其住所ロンドン本府區域以外ニ在

ル者ニ限ルナリ但シ此ロンドン本府區域トハ郵便本局ヨリ二十英里  
 内ノ各教會地ヲ包括シタル地ヲ謂フナリ又ロンドンノ倒行裁判所ハ  
 區裁判所ヨリノ倒行裁判案件ヲハロンドン本府所屬ノ郡廳外ノ各郡  
 裁判所ニ移シテ審理セシムルノ權ヲ得タリ第四ニハ從前倒行裁判濟  
 ノ上ニテ倒行者ニ交附スル證書ニ種類等級ヲ立テ、其貿易ノ過失ア  
 レハ之ヲ記入シ又其倒行裁判法ヲ尊奉シタル者ナレハ又其旨ヲ之ニ  
 記入セシカ今此制度ヲ廢シタリ然ルニ千八百六十一年ノ條例ハ其効  
 驗十分ナラサリシカハ千八百六十九年ニ至リテ之ヲ廢シ代フルニ改  
 定倒行條例ヲ以テセリ即チウヰクトリヤ女王三十二年三年ノ決議第七  
 十一篇ニシテ今日ニ於テハ專ラ此條例ヲ用ヒテ倒行ヲ裁判スルナリ」  
 第一節 破産ノ事  
 倒行ト破産トハ目今ノ裁判ノ順序ニ於テハ互ニ相同シト雖モ原來律



ノ文面ニ於テハ各其義ヲ異ニセシニ付キ此ニ其相異ナル所以ヲ記ス  
 ルモ無益ノ事ニ非サル可キナリ  
 破産者トハ平生ノ道ニ於テ負債ヲ拂フ能ハサル者ヲ謂ヒ倒行者トハ  
 商賣ノ道ニ於テ負債ヲ拂フ能ハサル者ヲ謂フナリ而シテ破産ト倒行  
 トノ區別ハ二重ナリ何トナレハ第一ニハ人品ノ區別アリテ倒行者ハ  
 商人ニ言フ詞ニシテ破産者ハ必シモ商人ニ限ラス第二ニハ財産ニ就  
 テモ區別アリテ倒行者ハ裁判濟ノ上ニテ證書ヲ受取りタル時ハ全ク  
 放釋セラレテ獨リ其身體ヲ自主スルヲ得ルノミナラス其後來所得ノ  
 財産ヲ自由ニスルヲ得テ實ニ商業ヲ再興シ且ツ新クニ負債ヲ契約ス  
 可キ迄ニ舊事ヲ一洗スルヲ得ルナリ然ルニ破産者ノ地位ハ全然之ト  
 異ナリテ以後其身體ヲ保護セラル、而已ニシテ其後來所得ノ財産ヲ  
 自由ニ使用スルヲ得ス且ツ裁判濟ニテ放釋セララル、時ニ方リテハ

必ス自テ調印シタル嚴正ノ証文ヲ以テ債主ニ交付シ後日負債ヲ償ハ  
 シテ約シ債主ハ何ノ時迄モ催迫ノ權ヲ失フヲ無カル可キナリ然レ  
 ハ破産者ハ己レニ奸曲ナキノ證據ヲ立ル時ハ律法ニ由リテ其身體ノ  
 拘留ヲ免カル、ト雖モ其負債ノ全額ヲ償フノ義務ハ終身之ヲ免カル  
 、ヲ得ス何トナレハ債主ハ負債者ニ於テ負債ヲ償フヲ得可キノ力ア  
 ルヲ見届クル時ハ時々裁判所ニ呼出スノ權ヲ有シ裁判所ニ於テハ負  
 債者ノ所得ノ財産中ヨリ償債シ得ルヤ否ヲ決定スレハナリ

第二節 倒行者タル可キ人ノ事

千八百六十一年ノ條例第六十九節ニ據レハ凡テ負債人ハ商人タルト  
 否トニ拘ラス皆テ倒行條例ニ照シテ處分ス可キモノトス然リト雖  
 モ商人ナラサル負債人ハ一二特別ノ所行アルニ非レハ倒行者トハ斷  
 言セラレサルナリ此區別ハ千八百六十九年ノ條例ニモ之ヲ存留シタ



凡ソ商人トハ賣買ヲ以テ生計ヲ立テ且ツ法律ニ於テ契約ヲ締結スルニ差支ナキ者ヲ謂フナリ即チ千八百六十九年ノ條例ニハ左ノ者ヲ以テ商人ト稱ス可シト明文アリ白礬製造者、藥鋪主人、建築人、カニニツヤチカスヒト礬布師、大工、運搬夫、中買人、煉化石製造人、入札拂キ業トスル者、銀行者、サラス漂布者、家畜又ハ羊ノ賣售者、馬車ノ持主、牝牛、管守者、染工、洗布師、旅店、酒店、咖啡店ノ主人、石灰ヲ燒者、借馬屋ノ主人、販賣ノ爲メニ菜蔬ヲ耕作スル者、磨穀者、包裝者、印刷者、株券仲買人、船舶ノ持主、貸庫ノ持主、波登場ノ持主、他人ノ金銀又ハ財産ヲ預カリテ代筆他人ノ爲メニ契約書ヲ作り又ハ他人ノ手數料ヲ受ケ取ルモノノ商法即チ職業ヲ行フ者、船舶、運送賃又ハ他ノ物件ノ海上危難ヲ保合スル者及ヒ大賣小賣ニ拘ハラス賣買、交換ヲ業トスル者、竝ニ周旋人ト成リテ手數料ヲ取ル者及ヒ送リ荷ヲ請取リテ賣捌キ爲ス者、自身ノ爲メ又ハ

他人ノ替管事又ハ代辨人ト成リテ賣買ヲ以テ生計ヲ立テ又ハ貨物ヲ買ヒ且ツ貸貸シ又ハ貨物ヲ製造シ又ハ交換シテ生計ヲ立ル者即チ商人ナリ但シ農民、牧養者、尋常ノ工人、賃錢ヲ以テ傭使セラル、者及ヒ商業仲間、會社、會館ノ支員ノ如キハ彼ノ條例ニ於テハ決シ倒行者ト斷セサル者ナレハ又商人トモ見做サ、ルナリ家具ノ附屬シタル房屋ヲ貸ス者ハ房屋ト共ニ貸ス爲メニ其家具ヲ買フト雖モ該條例ニ於テハ商人ト見做サ、ルナリ  
 代理人ハ代筆前出ノ業ヲ行ヒテ破産スル時ハ倒行者ト斷セラル、ト雖モ代理人タルノ常業ヲ行ヒテ破産スル時ハ倒行者ト斷セラル、トナシ石炭礦ノ持主ハ石炭ヲ賣ル者ナリト雖モ破産ノ時ニ倒行者ト斷セラレヌ石礦ノ持主ハ石ヲ賣ル者ナリト雖モ又倒行者ト斷セラレヌ又官府ノ役人ハ其職務上ノ費用ノ爲メニ破産スト雖モ倒行者ト斷セラ



レス又定マリノ制限内ニ於テ賣買スル者譬ハ小學教師ノ如キ書籍  
ヲ買ヒテ生徒ニ賣渡ス者モ亦決テ倒行者ト斷セラレス又陸軍兵隊ノ  
飲食ヲ備辦スル請負人モ亦然リトス

アン女王九年ノ決議第十二篇ニ據レハ倒行條例範圍中ノ商人ハ全權  
大使又ハ公使ニ奉仕スト雖モ條例ヲ免カル、ヲ得サルナリ凡ソ嫁婦  
ニシテロンドン府ニ於テ商業ヲ行フ者或ハ商人ト成リテ生業ヲ行フ  
者破産スレハ其良人罪民ナラハ其婦乃チ倒行者ト判決セラル可シ

第三節 國會議員亦倒行條例ヲ以テ處分セラル、事

國會ノ特權ヲ有スル人ト雖モ倒行條例ニ擬セラル、ヲ免カル、ト能  
ハス故ニ倒行條例ニ依リテ行爲スル債主ハ國會ノ議員ヲ相手取りテ  
出訴ノ手續キニ着手スルト恰モ他ノ倒行者ニ對スルト同一ナル可シ  
然レト雖モ國會議員ハ特權ヲ有スル時間ニハ之ヲ捕縛シ之ヲ禁獄ス

ルヲ得サルナリ

國會ノ議員ニシテ公平廳ノ命令又ハ定套ヲ尊奉セサル者ハ乃チ倒行  
條例ニ犯觸スルノ所行ト定案セラル可シ

ソオルシ第三世五十二年ノ決議第四百四十四篇ニ國會下院ノ議員ニシ  
テ倒行者ト爲リ定時限内ニ其負債ヲ償清セサル者ノ位坐ヲ剝奪スル  
ニ付キ一二緊要ナル條例ヲ設ケタリ此條例ニ依レハ倒行處分命令書  
ノ發出後曆法十二箇月ノ間共倒行シタル議員ハ下院ニ參會シテ發言  
スルト能ハサル者トス但シ右十二箇月ノ定時限内ニ其命令書取消サ  
ル、歟若クハ其倒行シタル議員ヨリ其命令書ニ記セル如キノ負債ヲ  
債主ニ償還スル歟若クハ其債主ニ於テ其命令書ニ記セル負債ノ全額  
ニ就キ最早催促スマシト言フ時ハ此例ニアラス

其第二節ニ依レハ曆法十二箇月ノ間ニ右倒行處分命令書ノ取消サレ



サル歟若シハ上ニ言ヘル如クニ其負債ヲ償清セサル時ハ倒行事務委員ヨリ下院ノ議長ニ其趣ヲ公證ス此ニ於テ其議員ノ選舉ノ廢棄トナリシ旨ヲ公告セラル可シ而シテ下院ノ議長ハ四十日前ヨリ「ガゼット」新聞ニ於テ廣告シタル上ニテ國君ノ大書記官ヘ向ケテ牌票ヲ送リテ新員選舉ノ布達ヲ發出セシメ其充選シタル者ヲ以テ其倒行シタル舊員ニ代フ可シ

右ノ條例ハ方今ハ既ニ廢止セラレタリ然レモ千八百六十九年ノ倒行條例第二百二十一ヨリ第二百二十四ニ至ルノ諸節ニ之ニ類シタル條例ヲ載セタリ

右ノ外ニ仍ホ倒行ニ由リテ權ヲ奪ハル、ノ例アリ之ヲ左ニ記サンゾ  
オルヲ第四世一年ノ決議第百篇第五節ニ據レハ凡ソ倒行者ト爲リ若クハ破産ニ乘シテ己ノ利ヲ若クハ債主ト示談シテ負債高一「ボンド」ニ

付キ二十「シルリング」ヲ償清セサリシ者ノ如キハ「ロンドン農兵ノ士官以上ニ選舉セラル、ノ權ヲ剝奪セラル可シ若シ此例ヲ犯シテ之ヲ勤ムル者ハ百「ボンド」ノ罰金ヲ科セラル可シ

第四節 合本會社ノ倒行ノ事

凡ソ合本會社ハ其責任有限ト無限トヲ論セス千八百六十九年ノ倒行條例ニ依リテ之ヲ倒行者ト判決スルヲ得スト雖モ別ニ會社條例ナル者アリテ其制ヲ設ケタリ此會社條例ニ依レハ合本會社タル者ハ其約定ヲ踐ムコト能ハサル時ニ之ヲ鎖店シ又其會社ヲ鎖店セシムルコト公平ナリト「チャンセリー」廳ニテ思惟スル時ハ之ヲ鎖店スルナリ但シ鎖店ハ會社ノ意ヨリ出ツル情願鎖店ト「チャンセリー」廳ヨリノ嚴命鎖店トノ區別アリ鎖店ノ事務ヲ取扱フ爲メニ選任セラレタル者ヲ精算役ト曰フ此役人ハ會社ノ支員中ノ見在スル者ト退社シタル者トヲ論セ



ス凡テ會社條例ニ據リテ助成金ヲ出ス可キ義務アル者ハ呼賦金ト云ヘル方法ヲ以テ金額ヲ募集シテ債主ノ催促ニ應ズルナリ右會社條例ノ第三十八節ニ社員ノ責任ヲ明言スルコト左ノ如シ曰ク會社條例ヲ遵奉シテ創立シタル會社ノ鎖店セラントスル時ハ右會社ノ退社シタル支員並ニ見在スル支員ハ會社債債資本ヲ助成スルノ義務アリ但シ總體ヨリ出銀スル高ハ會社ノ負債及ヒ責任ヲ償済スルニ足リ鎖店ノ諸雜用諸掛リ諸費用ヲ償フニ足リ且ツ出銀者即チ社員中相互ノ討債ノ權ヲ達セシムルニ必須スル所ノ金額ヲ得ルニ足ルヲ以テ其度トス但シ(第一)過去ノ社員ハ既ニ退社シテヨリ其鎖店ノ日迄ニ既ニ一箇年餘ノ久キヲ經タル者ハ復タ會社ノ債債資本ヲ助成スルヲ要セス(第二)過去ノ社員ハ退社後ニ契約シタル會社ノ責任即チ負債ニ付テ助成スルヲ要セス(第三)該條例ニ從ヒテ十分ノ助成金ヲ備フルコト現在ノ社

員ノ力ニ及ハスト裁判所ニ於テ見込ムニ非レハ過去ノ社員ハ會社ノ債債金ヲ助成スルヲ要セス(第四)株金定限アル會社ナレハ社員ヨリ助成ス可キ金額ハ其株金未納ノ分ヨリ超過ス可カラス(第五)擔任定限アル會社ナレハ結社條款ニ明記シタル擔任ノ金額ヨリ多クテ此社員ヨリ彼ノ社員ニ要求ス可カラス(第六)保險契約書又ハ他ノ契約書ニ但シ書ヲ附加シテ右保險又ハ他ノ契約ニ付キ各社員ノ責任ヲ限制シ或ハ獨リ會社ノ資本ノミヲ以テ其保險又ハ他ノ契約ノ用ニ充ツルト定制アラハ該條例敢テ其定制ヲ廢棄スルコトナシ(第七)社員ハ拂フ可キ金高暨ハハ分配金又ハ利潤ノ如キハ本社ヨリ社員ニ負債スル金額ト見做シ該社員ト社員外ノ債主トノ間ニ相爭フテ互ニ先キニ取ラントスル時ハ必ス先ツ該社員ニ與フ可シ但シ斯ノ如キ金額ハ社員中相互ノ討債ヲ精算スル爲メニ差引カル、事アル可シ



第五節 千八百六十九年ノ倒行條例

千八百六十九年ノ國會集會ニ於テ倒行條例ヲ集大成シ舊時ノ諸條例ハ同會ノ決議ヲ以テ之ヲ廢除シタルハ此ニ其新條例ノ諸款ヲ論セシ此千八百六十九年倒行條例ハ其文章非常ニ高雅且ツ精明ナレハ故テニ其言語ヲ換ヘテ其大旨ヲ陳述センヨリ寧ロ其原文ノ儘ニテ其諸款諸目ノ緊要ナル者ヲ舉グルニ如カサル可シ其諸節ハ下文ニ記スルカ如シ

第一 倒行判決歎願ノ事

第六一箇ノ債主若クハ二人以上ノ債主ハ其一箇ノ債主ノ貸金若クハ其二人以上ノ債主ノ貸金五「ポンド」ヨリ少ナカラサルノ金額ニ及フ時ハ裁判所ニ願書ヲ捧ケテ債債者ヲ倒行ト判決セラレンコトヲ祈求シ此判決ヲ願フノ事由トシテ債債者ニ於ケル倒行ニ陷ルノ所行又ハ怠慢

ノ一又ハ數箇ヲ援引ス可シ此所行又ハ怠慢ハ律ニ於テ所謂ル倒行所行ト名ツクル所ニシテ其目左ノ如シ(第一)債債者ハ英國又ハ別所ニ於テ其財産ヲ以テ管財人一名又ハ數名ニ委託シテ廣ク諸債主ヘノ債債ニ充テシメタル事(第二)債債主ハ英國又ハ別所ニ於テ狡猾ナル仕方ヲ以テ其財産又ハ其一部分ヲ他人ニ交付シ贈還シ授與シ或ハ賣渡シタル事(第三)債債者ハ債主ノ討債ヲ避ケン爲メ或ハ時期ヲ遲延センガ爲メニ英國ヲ去リ若クハ英國ノ外ニ在リテ英國ニ歸ラス又ハ其人商人ニシテ其住家ヲ離レ又ハ何様カノ方便ヲ以テ他所ニ留在シ或ハ室ヲ守リテ外出セス若クハ故テニ逃走シテ「サートローウエリー」法律ヲ廢止シタルニ由リテ法律外ニ置ノ處分ヲ蒙リタル事(第四)債債者ハ債債ヲ償フコト能ハサル趣キノ證文ヲ成例ニ倣ヒテ裁判所ニ捧ケタル事(第五)五千「ポンド」ヨリ少ナカラサルノ負債ヲ償ハシメンガ爲メニ裁判ノ手續ヲ以テ債債者ニ



向ケテ濟シ方ノ命令書ヲ差出サレ其負債者商人ナレハ其貨物ヲ取揚  
 ケ賣却シテ其濟シ方ヲ爲シタル事(第六)其倒行判決願書ヲ捧ケタル債  
 主ハ五十「ポンド」以上ノ返辨ノ期ニ至レル負債ヲ返辨ス可キ旨ノ呼出  
 狀ヲ定式ニ倣ヒテ負債シタル者ニ送付セシニ其負債人ハ商人ニシテ  
 其呼出狀ノ通達セシヨリ七日ノ間ニ怠リテ其負債ヲ償ハス又ハ其負  
 債ヲ償却ス可キ證據物ヲ與ヘス又ハ示談ヲモ爲サス若シハ其負債人商  
 人ニ非ラスシテ其呼出狀ノ通達セシヨリ三週間ニ復タ怠リテ右ノ如  
 キノ諸事ヲ爲サ、ル事はレナリ但シ債主ヨリ倒行判決願書ヲ捧ケル辭  
 柄ト成ル可キ負債者ノ所業カ右倒行判決願書出シ前六箇月以内ニ起  
 リシモノニ非レハ則チ其負債者ヲ倒行者ト判決ス可カラズ且又右判  
 決願書捧ケル債主ノ貸金ハ通常律法ニ於テモ公平律法ニ於テモ必ズ  
 返辨ス可カラサルノ精算シタル負債ニ非レハ其負債主ヲ倒行者ト判

決ス可カラズ之ヲ例スルニ其貸金若シ抵當物アル負債ナレハ其負債  
 者ヲ遽カニ倒行者ト判決スルヲ得ス但シ其願書ヲ捧ケル債主カ其負  
 債者ノ倒行者ト判決セラレン上ハ廣ク衆債主ノ爲メニ其抵當物ヲ拋  
 棄セン旨ヲ其願書中ニ明記スル歟若シハ其抵當物ノ價值ノ見込ヲ陳  
 述シタル時ハ其見込ノ價值ヲ差引キタル餘コ仍ホ存スル殘債ニ就テ  
 ハ倒行判決願書ヲ取上ケテ其債主ノ爲メニ其負債者ヲ倒行者ト判決  
 スルヲ得可シ但シ其債主ハ倒行判決願書差出セシ日附後制定時間ニ倒  
 行管財者ヨリ請求ヲ受ケテラハ己ノ貸金ノ抵當物ノ中ヨリ己ノ見  
 込ニシタル價值丈ケテ償ハシメテ其抵當物ヲ其管財人ニ交付シテ衆債  
 主ヘノ返償ノ一端ト爲ス可シ

第七、負債者呼出狀ハ裁判所ヨリ直チニ債主ニ交付スルコトアル可シ但  
 シ債主ニ於テハ其呼出狀ヲ送達セラレ、人ニ對シテ倒行判決願書裁



判所ニ捧クルニ足ル貸金アルニ相違ナキ旨ト適宜ノ方ヲ以テ之ニ償還ヲ催督シタルニ猶ホ本意ヲ遂ケサル旨トテ裁判所ニ申述シ裁判所ニ於テモ事實之ニ相違ナシト思惟スルニ至リテ此呼出狀ヲ債主ニ交付スルナリ」右呼出狀ハ成規ニ倣ヒ且ツ可成ハ女王陛下ノ上等裁判所ヨリ發出スル所ノ命令書ニ類似スルヲ要ス」此呼出狀ニハ負債者カ此狀ニ明記スル所ノ金額ヲ償フヲ怠ル歟若クハ債主ニ示談金ヲ與ヘテ之ヲ満足セシメサル時ハ債主ヨリ裁判所へ倒行判決願ヲ捧ケテ而シテ負債者ハ直チニ倒行者ト判決セラル、ニ至ラン旨ヲ明記ス可シ此呼出狀ニハ右同斷ノ旨ヲ裏書ニシ若クハ負債者ニ通達セラレタル命令書ノ性質ヲ負債者ニ明解セシムル様又ハ呼出狀ニ記入スル所ノ要求ヲ省セサル時ハ後來何等ノ處分ニ達フ可キ事ヲ之ニ明解セシムル様ニ裏書スルモ可ナリトス」但シ右呼出狀ヲ通達セラレタル負債者ハ

其呼出狀ヲ通達シタル債主ニ對シテハ負債之レナキ趣キヲ申立若クハ債主ヨリ己レヲ相手取リテ倒行裁判願ヲ裁判所ニ捧クル程ノ負債ナキ趣キヲ申立テ制定ノ方法ニ倣ヒ且ツ制定ノ時間中ニ右呼出狀ヲ廢棄シタキ旨ヲ裁判所へ出願スルヲ得可シ然ル時ハ裁判所ニ於テハ負債者ノ辨解スル所ヲ相違ナシト思惟スル時ハ其呼出狀ヲ廢棄スルヲ得可シ但シ其時或ハ負債者ヲシテ訟費ヲ償ハシメ或ハ償ハシメス若クハ債主ヨリ申立ル負債及ヒ其負債ヲ證スルノ訟費辨償ノ爲メ裁判所ヨリ要求スル所ノ抵當物ヲ負債者カ差出シタル時ハ呼出狀以後ノ手續キヲ暫時停止シテ而シテ其負債ニ關スル疑事ヲ審訊スルナリ但シロンドンノ倒行裁判所ヨリ其呼出狀ヲ發出シタル場合ニ於テハ該裁判所又ハ他ノ相當ノ權柄アル裁判所ニ於テ其疑事ノ審訊ヲ行フ可ク又各郡ノ廳ヨリ其呼出狀ヲ發出シタル場合ニ於テハ權限内ノ事件



皆ナ其郡廳ニ於テ之ヲ審訊シ其權限外ノ事件ナレハ他ノ相當ノ裁判所ニ於テ之ヲ審訊ス可シ

第八、一負債者ヲ倒行者ト判決セラレシトテ乞請スル願書該條例ニハ略シテ單ニ倒行願書ト曰フハ成規ニ倣ヒテ該負債者ニ通達ス可キナリ而シテ裁判所ニ於テハ其審問ノ時ニ其出願シタル債主ナシテ貸金ノ證據ヲ舉ケシメ且ツ止ムヲ得サル時ハ負債者ノ業體ヲ問ヒ其倒行所業ヲ問ヒ若シ倒行所業二箇以上其願書中ニ記列シアラハ其中ニ就テ其一二ヲ問ヒ而シテ其證據顯然ナリト思惟スル時ハ該負債者ヲ倒行者ト判決ス可シ「裁判所ニ於テハ其他ノ證據ヲ得ンカ爲メ又ハ他ノ當然ナル事由ノ爲メニ其願書ノ裁判ヲ時ヲ限リ又ハ時ヲ限ラズシテ之ヲ延引スルヲ得可ク且ツ裁判所ニ於テハ適宜ナリト思惟スル時ハ其願書ヲ擯斥シ且ツ其願入ヲシテ費用ヲ償ハシメ又ハ之ヲ償ハシメ

ナル事アリ

第九、倒行願書ノ出テタル上ニテ其負債者出席シテ其原告ニ負債アルヲ非トシ若クハ負債者ヨリ債主ニ對シテ負債ナキニ非ラスト雖モ負債者ヲ相手取リテ倒行願書ヲ裁判所ニ捧クルニ足ルノ負債アルヲ非トスレハ裁判所ヨリ負債者ニ要スルニ法ニ照シテ其負債ノ有無ヲ證シタル上ニテ原告ニ償フ可キ金額並ニ其負債有無ヲ證スルノ訟費トシテ先ツ抵當物ヲ差出ス可キ旨ヲ以テシ負債者其抵當物ヲ差出シタル上ハ其負債ニ關スル疑事ヲ審訊スルニ必要ナル時間ハ暫ク其判決ヲ延引ス可シ而シテ其疑事ノ審訊ノ方法ハ負債者呼出狀ノ條下ニ之アル疑ハシキ負債ヲ處スル方法ノ同一ナル可シ「一旦判決ヲ暫停ストモ之カ爲メニ時期ヲ延延シテ大ニ妨害ヲ生スル歟若クハ別ニ當然ナル事由アラハ他ノ債主ヨリ更ニ願書ヲ差出シ次第ニ直チニ其負



債者ヲ倒行者ト判決シ而シテ嚮キニ判決ヲ暫停シタル願書ハ債主ト當然ト思惟スル條約ヲ結ビテ之ヲ退却ス可シ

第十二、一負債者カ倒行者ト判決セラレタル時ハ倒行裁判ニ於テ認定ス可キ負債ノ金主タル者ハ該條例ニ公許スル所ノ方法ヲ以テスル外ハ其貸金ニ就テ倒行者ノ身體並ニ財産ニ係リテ負債償却ヲ討ム可カラス然リト雖モ倒行者ノ財産ヲ抵當物トシテ掌握スル所ノ債主カ本條發行以前ニ其抵當物ヲ賣却スル等ヲ得タル方法ニ倣ヒテ今後猶ホ其抵當物ヲ賣却スル等ノ權ヲ行フハ本條ノ敢テ禁スル所ノ限リニアラス

第十三、裁判所ニ於テハ債主ヨリ負債主ヲ相手取リテ倒行處分願書ヲ差出シタル上ハ債主ハ倒行裁判ニ於テ認定ス可キ負債ニ就テ更ニ訴訟手續キヲ行ヒ若クハ處決手續キ其他凡テ律法上ノ手續キヲ行フヲ

禁ス若クハ右ノ如キノ手續キノ倒行裁判ノ着手ノ時ニ既ニ就緒スルト倒行裁判中ニ起始スルトニ拘ハラス裁判所ト債主トノ間ニ打合せテ適宜ノ條約ヲ結ビタル上ナラハ猶ホ之ヲ行フヲ許ス可シ裁判所ニ於テハ又倒行裁判願書ヲ受領シタル後ニ於テ其出訴セラレタル負債者ノ財産事務又ハ其一部分ヲ請取り或ハ管理スル爲メニ其人ヲ選任シ其財産事務又ハ其一部分ヲ直チニ請取り或ハ管理セシムルヲ得可シ

第二 倒行主宰人ノ事

第十四、一負債者ヲ倒行者ト公判ニ成リテ所謂ル判決ノ命令ノ下リタル上ハ倒行者ノ財産ハ倒行裁判ニ於テ認定シタル貸金ノ多少ニ應シテ諸債主ノ間ニ分配ス可シ但シ裁判所ニ於テハ右ノ分配ヲ倣シ遂ケンカ爲メニ可成丈ケ速ニ諸債主ノ集會ヲ催ス可シ而シテ集會シタル諸



債主ハ左ノ諸件ヲ爲スヲ得可シ第一ニハ諸債主ハ衆議一決ノ上ニテ  
 債主ナリトモ他人ナリトモ適任ノ人ヲ選擇シテ以テ倒行者財産主宰人ノ  
 役ニ當ラシム可シ但シ其俸給ハ時々之ヲ決定ス可シ又ハ其選任ノ事  
 ナリテ觀察委員ニ委託ス可シ但シ觀察委員ノ事ハ下ニ見ユ第二ニハ  
 諸債主ハ倒行者財産ノ主宰人ヲ選任シタル時ハ其人ニ先クテ如何  
 ナル保證金ヲ差出ス可キ事ト並ニ何人ニ其保證金ヲ交付ス可キ歟ヲ  
 衆議一決ノ上ニテ之ヲ明言ス可シ第三ニハ諸債主ハ衆議一決ノ上ニ  
 テ適任ノ人ヲ選擇シテ觀察委員ト爲シ倒行者財産主宰人ノ處分ヲ觀  
 察セシム可シ但シ其人員ハ五名ニ超過ス可カラズ且ツ該條例ニ記載  
 スル所ノ諸債主ノ初會議ニ於テ出説スルニ堪ヘタル者及ヒ出説ノ權  
 アル債主ヨリ成規ニ由リテ威權ヲ委託セラレタル人ヲ以テ之ニ充ツ  
 可キナリ第四ニハ諸債主ハ衆議一決ノ上ニテ主宰人ノ倒行者ノ財産

ヲ處分スル方法ヲ指令シ主宰人ハ其指令ニ從フヲ以テ其職分トス但  
 シ至其ノ事由アルニ由リテ裁判所ヨリ別段ノ指令アル時ハ此例ニア  
 ラズ  
 第十五倒行者ヨリ其債主ニ財産ヲ分配スル時左ノ諸物件ハ其中ニア  
 ラサル可シ(第一)他人ノ爲メニ倒行者ノ預カリ居ル財産(第二)其職業上  
 ノ諸器械並ニ自身並ニ其妻子ノ要用ナル衣服並ニ寢具但シ其諸器械  
 衣服寢具ヲ合セテ其價二十「ポンド」ニ超過セサル可シ但シ左ノ諸物件  
 及ヒ權利等ハ不配物ノ内ニ加入ス可シ(第三)倒行者ノ初メニ於テ倒行者  
 ニ屬ス可ク或ハ授與セララル可キ財産及ヒ倒行者ノ最中ニ於テ倒行者ノ  
 獲可キ財産及ヒ倒行者ノ手ニ到ル可キ財産(第四)僧官ノ空缺ヲ補フ爲  
 メニ人ヲ薦擧スルノ權ヲ除クノ外凡テ己レノ財産ニ對シ又ハ己レノ  
 財産ニ關シテ分内ノ事ヲ行ヒ又ハ其事ヲ行フノ手續キヲ爲スノ權利



但シ是レハ倒行ノ初メ或ハ其最中ニ於テ倒行者自己ノ利益ノ爲メニ能ク行フヲ得ルノ權利ヲ指テ謂フナリ(第五)倒行ノ初メニ於テ眞ノ持主ノ免許承諾ヲ受ケテ商人タル倒行者ノ收手ヲ指揮シ或ハ處分シ居ル貨物動産ニシテ倒行者ハ名ノミ持主タル歟若クハ約買シテ假リ持主ト爲リ之ヲ處分スルニ過キサルモノ但シ職業又ハ商業ノ道ニ於テ負債シタルモノ、外他ノ要求ス可キ物ハ該條例ニ所謂ノ貨物動産ニ非サルナリ

第十六前ニ言ヘル如ク裁判所ヨリ召徴ス可キ諸債主ノ總集會ハ成規ニ倣ヒ且ツ成會員ノ事延會ノ事其他凡テ集會ノ管理及ヒ集會ノ事爲ニ關スル諸件ニ於テハ必ス揭示シタル規則ヲ遵奉セサル可カラズ第一ニ會議ハ注簿役之カ議長ト爲ル可シ若シ病患其止ムヲ得サル事故アリテ出席スル能ハサル時ハ會員選擇スル所ノ人ヲ以テ其議長ト爲

ス可シ第二ニ其倒行者ニ對シテ倒行律ニ照シテ認定ス可キ貸金アルコトヲ成規ニ倣ヒテ集會ノ席又ハ集會已前ニ證明シタル者ニ非レハ債主トシテ出説スルヲ得サルナリ第三ニ凡ソ債主ハ金高ノ精算セサル負債又ハ未必ノ負債ニ就テ又ハ價值ノ詳明ナラサル負債ニ就テ集會ノ席ニ於テ出説スルヲ得サルナリ第四ニ抵當物アル債主ニ出説ヲ許スハ蓋シ其抵當物ノ價值ヲ差引キタル上ニ猶ホ殘在スル貸金高アルニ由リテ殘高丈ケノ債主トシテ出説ヲ許スナリ但シ其貸金殘高ヲ算定スルハ其抵當物ヲ賣却シタル迄ハ先ツ假リニ成規ニ倣ヒテ概算スルノミナリ」然リト雖モ抵當物アル債主ハ諸債主集會ノ席又ハ其集會ノ已前ニ於テ其抵當物ヲ拋棄シテ倒行管財人ニ交付スルヲ得可シ然ル後ハ貸金ノ全額債主トシテ債主ノ列ニ加ハリテ出説スルヲ得可シ第五ニ該條例ニ稱スル抵當物アル債主トハ貸金ノ抵當物トシ倒行者ノ



財産ヲ質物ニ取リ或ハ書入質ニ取リ或ハ之ヲ押へ質ニシタル者ヲ謂フナリ第六ニ集會ニ於テノ出説ハ自身ヲ以テスルモ或ハ名代ヲ以テスルモ可ナリトス第七ニ尋常ノ議事ハ其集會ニ自身又ハ名代ヲ以テ出席シタル債主ノ過半ノ説ニ從フテ取捨ヲ爲ス可シ但シ債主ノ過半トハ其議決シタル人員ヲ數フルニアラス其貸金高正ニ過半ニ當ル債主等之レヲ議決スレハ則チ債主過半ノ議決ト謂フナリ第八ニ特別ノ議事ハ之カ爲メニ開キタル集會ニ自身又ハ名代ヲ以テ出席シタル債主等ノ人員ニ於テ過半ニ相當シ其貸金高ニ於テ四分ノ三ニ相當スル者ノ議ニ從フテ取捨ヲ爲ス可シ

第三 財産ノ處分ニ關スル總則ノ事

第十九例行者ハ其力ノ及フ丈ハ管財人ヲ輔ケテ其財産ヲ金貨ニ交換シテ其實上リ高ヲ以テ債主等ニ分配セサル可カラズ倒行者ハ債主等

ノ初集會ノ時ニ其事情ノ始末書ヲ差出シ而シテ裁判所ニテ定ムル所ノ日ニ於テ之カ審問ヲ受ケ又裁判所ニ於テ審問ヲ延引シタル時ハ改定ノ日ニ於テ又審問ヲ受ケサル可カラズ倒行者ハ其財産ノ目錄其債主並ニ負債者ノ姓名書並ニ之ニ借リ又之ニ貸ス所ノ金高ノ明細書ヲ差出サ、ル可カラズ且又管財人ヨリ要求セラレ又ハ裁判所ノ規則ヲ以テ指令セラレ或ハ他ノ倒行案件ニ付キ又ハ管財人又ハ債主ヨリ別段ノ請願ニ付キ別段ノ命令書ヲ以テ裁判所ヨリ指令セラレタル時ハ其都度債主ノ集會ニ出席シ其都度管財人ニ參候シ代理委任狀讓渡證文其外ノ契約書證書等ニ署名調印シ其外都テ其財産ニ關シ並ニ賣上リ高ヲ債主ニ分配スルコトニ關シタル諸事務ヲ行ハサル可カラズ倒行者ハ此條例ヲ以テ課スル所ノ職分ヲ行フコトヲ怠リ若シハ此條例ニ據リテ債主等ノ間ニ分配ス可キ財産ノ一部分ニシテ其時倒行者ノ手ニ



在リ又ハ倒行者ノ掌管ニ居ルモノヲ其倒行管財者ニ交付スルヲ故意ニ怠ル時ハ常刑ノ外ニ裁判所ヲ輕視スルノ罪ニ陥リ從テ其罰ヲ裝ル可キナリ

第二十倒行管財者ハ倒行者ノ財産ヲ處分シ且ツ諸債主ニ之ヲ分配スルニ付テハ總會議ニ於テ諸債主衆議一決ノ上ニテ與ヘタル命令ヲ守ラサル可カラズ又觀察委員ノ與フル所ノ命令ヲ守ラサル可カラズ而シテ總會議ニ於テ諸債主ヨリ命令出レハ觀察委員ノ與フル所ノ命令ハ取消ス一ト思フ可シ倒行管財人ハ少クモ三月毎ニ一回ノ集會ヲ催シテ其席ニ於テ會計ヲ檢查シ且又諸債主ヘノ分配物ノ有無ヲ決シ又分配方ヲ決ス可シ此倒行管財者ハ必須ト思量スル時ハ別段ノ集會ヲ催スヲ得可シ倒行管財人ハ該條例ニ從ヒ且ツ前ニ言ヘル如キノ指令ニ從ヒテ倒行者ノ財産ヲ打埋シテ之ヲ諸債主ニ分配スル一ニ關シ

テハ己レノ意見ヲ以テ便宜ノ處分ヲ爲スヲ得可シ倒行管財者ハ時々債主ノ集會ヲ催シテ其情願ヲ問フ一ヲ得可シ又成規ニ從ヒテ裁判所ニ出願シ倒行ニ付テ起ル所ノ諸件ニ付テ裁判所ノ指揮ヲ乞フ一ヲ得可シ倒行者或ハ債主又ハ負債者其外何人ニテモ倒行管財者ノ處置ニテ枉害ヲ蒙リタル者ハ裁判所ニ出願スルヲ得可シ而シテ裁判所ハ管財人ノ處置是ナラハ則チ之ヲ確定シ其處置非ナラハ則チ之ヲ破毀シ或ハ之ヲ變更シ其至當ト思惟スル命令ヲ下スヲ得可シ裁判所ハ時々債主ノ情欲ヲ詳知センカ爲メニ債主總會ヲ開キ且ツ適宜ト思惟スル時ハ注簿役ヲシテ之カ議長タラシムル一ヲ得可シ

第二十一債主ノ初回ノ總集會ニ關スル條例ハ次回ノ總集會ニモ之ヲ適用スル一ヲ得可シ但シ債主ノ次回ノ總集會ハ倒行管財者之カ會員ヲ徵集スルモ又ハ觀察委員之カ會員ヲ徵集スルモ可ナル一且ツ債



金アルコノ證據ヲ立テタル債主及ヒ右ノ如キ諸債主ノ初回ノ會議ニ於テ又ハ其後ニ於テ其貸金ノ高ヲ認定セラレタル債主ハ始終會議ニ參シテ出説スルコトヲ得可シ

倒行者ノ財産ノ一部分ハ公債證船舶分有ノ株券又ハ其他ノ株券ナル歟又ハ某會社某局又ハ某人ノ帳簿ニ記入シアリテ帳簿上ニ於テ授受買賣ス可キ財産ナレハ之ヲ賣却スルノ全權ハ倒行管財者ニ歸シテ恰モ其倒行者カ倒行者ト爲テサルノ昔日ニ於テ此賣却ノ權ヲ行フト同一ナル可シ」若シ倒行者ノ財産ノ一部分ハ「コピーホルド」即チ習慣ニテ所有シ來レル産業ナル歟其他凡テ賣買ヲ以テ授與ス可キモノナレハ其管財者ヲ強ヒテ其産業ヲ承繼セシムルヲ得可カラス但シ管財者ハ其産業ヲ處置スルヲ得ルコト恰モ其財産ヲ以テ其見込ノ用ニ供スル爲メニ管テ他人ニ委託シ置キタル如クスルヲ得可シ而シテ其管財人ヨ

リ其財産ヲ委託セラレタル者ハ則チ之ヲ受領ス但シ之ヲ用フルノ權ハ管財者ニ在ルナリ」倒行者ノ財産ノ一部分ハ未ダ手ニ在ラスシテ訴訟ヲ行ヒテ回復シテ得可キモノナレハ其物件ヲ回復スル爲メニスル訴訟其他ノ手續キハ凡テ該條例ニ定ムル如ク其役名ヲ以テ管財者自ラ之ヲ行フ可シ」管財者ハ可成丈ケ速ニ倒行者ノ証文帳簿書附其外凡テ手渡シス可キ他ノ財産ヲ手ニ入ル可シ」管財者ハ裁判所ノ指令ニ指示セル方法ニ倣ヒテ適當ノ帳簿ヲ置テ其中ニハ會議ノ事爲ノ錄事或ハ始末書及ヒ裁判所ノ指令ニ差示セル事件ヲ時々ニ自ラ記入シ或人ヲ借ヒテ記入セシム可シ而シテ其倒行者ノ債主ハ自身ニ又ハ其代理人ヲ以テ其帳簿ヲ一覽スルコトヲ得ス但シ此際裁判所ノ取締ノ規則ヲ守ラサル可カラス

第四 倒行者ノ財産ノ賣渡シノ事



第二十二、該條例ニ依リテ倒行者ノ財産ヲ管財人カ受領シタル一部分  
 ハ地面ナリト雖モ此地面ニ付キテ苦難ナル條約アリ或ハ會社ノ株券  
 ナリト雖モ市場ニ於テ賣買スルノ價ナク或ハ契約證文ナリト雖モ利  
 益ナク其外何等ノ財産ナリモ其持主ハ之カ爲メニ若干ノ金額ヲ拂ヒ  
 或ハ苦難ノ事ヲ爲スノ義務アルノミニシテ更ニ利益アルコトナク從テ  
 賣買ノ價ナク或ハ容易ニ賣買スルコトヲ得サルモノナレハ管財者ハ假  
 令ヒ一旦ハ之ヲ沽ランコト務メ或ハ其財産ヲ己レカ手ニ收メ或ハ之  
 ニ關シテ所有主タル處分ヲ爲スニ至リシ程ナリト雖モ自筆ノ書付ヲ  
 以テ其財産ヲ拋棄スルヲ得可シ而シテ其拋棄ノ式ヲ行ヒタル後ハ其  
 拋棄セラレタル物件ハ若シ契約證文ナレハ倒行判決ノ日附ヨリ以後  
 廢棄シタルコト見做シ若シ借地證文ナレハ右倒行判決ノ同日ニ其地  
 ヲ讓與シタルコト見做シ若シ會社ノ株券ナレハ右倒行判決ノ同日廢

棄セラレタルコト見做シ若シ他種ノ財産ナレハ倒行者ガ之ヲ享有シ  
 タル期後ニ之ヲ享有ス可キ權アル人ニ歸ス可シ但シ此ノ如キノ人ナ  
 キ時ト雖モ故ノ如ク其財産ヲ以テ倒行者ノ有ニ歸セシムルコトナレ  
 ノ如キ拋棄セラレタル財産ニ關係アル人ハ裁判所ニ出願スルヲ得可  
 シ而シテ裁判所ニ於テハ右ノ出願ノ上ニテ其拋棄セラレタル財産ヲ  
 其出願人ニ交付シ或ハ之ヲ收手スルニ關シテ適宜ト思量セル指揮ヲ  
 爲スヲ得可シ上ニ舉ル所ノ法律ノ作用ニ由テ害ヲ蒙リタル者ハ其  
 害ノ存スル限り倒行者ノ債主ト見做シ從テ其害ヲ以テ倒行條例上ノ  
 貸金ト見做シ其補償ヲ討ムルヲ得可シ  
 第二十四、倒行管財者ハ該條例ニ從ヒテ財産ヲ拋棄スルヲ得サル事ア  
 リ例ヘハ其財産ニ關係アル人ヨリ管財者ヘ向ケテ歎願書ヲ出シテ其  
 財産ヲ拋棄スルヤ否ヤノ決答ヲ請ハンニ管財者ハ其歎願書受領後ニ



十八日ヨリ少ナカラサル時間又ハ裁判所ヨリ許容スル時間内ニ抛棄  
スルヲ得サルナリ

第二十五、倒行管財者ハ倒行律ノ諸條款ヲ遵奉シテ左ノ諸事ヲ行フ  
ヲ得可シ「第一、制定ノ方法ニ從ヒテ負債ノ證據ヲ受取リテ其確否ヲ決  
シ且ツ其證據ノ確否ヲ驗スル爲メニ人々ニ盟誓ヲ囑ヒツルスル事」第二、倒行  
者ノ事務ヲ完結スル爲メニ勢ヒ然カセサルヲ得サル時ハ代リテ其事  
務ヲ行フ事「第三、倒行者ノ財産ニ關スル訴訟其外律法上ノ事爲ノ原告  
ト爲リ或ハ被告ト爲ル事」第四、倒行者偶一人ノ副業者ト爲リテ所謂ル限  
副業ナル者ヲ承繼スル時ハ管財者其財産ヲ處分スルノ恰モ倒行者自  
身ニ之ヲ處分スルカ如クスルヲ得可シ又ウケルレム第四世三年ノ開館  
ノ決議第七十篇即チ副業ノ一禮タル「ファイナス」及ヒ「レカゾレイ」ノ制  
ヲ廢シ「アツシユアレノス」ノ簡法ヲ代用スルノ舊條例ノ第五十六節ニ

「第七十三節ニ至ルハ倒行條例範圍内ノ倒行裁判ニモ通用スルノ恰  
モ其條款再立セラレテ其裁判ニ適用ス可キノ明文アルカ如クスルヲ  
得可キ事」第五、倒行條例ニ依リテ免許セラレタル諸權威ヲ行ヒ且ツ其  
條例ヲ實行スル爲メニ利便ナル歟若クハ必用ナル代理委任狀、證文其  
他ノ書付ニ署名調印スル事「第六、倒行者ノ財産商業上江湖買客ノ愛顧  
及ヒ倒行者ニ拂フ可キ或ハ拂フ可キ期ニ迫リタル帳簿上ノ負債モ亦  
其中ニ在リテ公然タル入札拂又ハ私契約ヲ以テ賣拂フノ但シ其總體  
ヲ一人一會社ニ賣拂フトモ之ヲ小分シテ數人ニ賣拂フトモ管財者ノ  
隨意タル可キ事」第七、倒行管財者ハ己レニ領收シタル金高アレハ其人  
ニ領收ノ證ヲ交付ス可シ然ル時ハ其金高ヲ納メタル人ハ後來其金高  
ノ遺拂方ニ責任無カル可キ事「第八、其倒行者ニ負債スル人ノ倒行殘物  
即チ沒收物ノ配當金有無ヲ證シ之ヲ調理シ之ヲ請求シ又ハ手形ヲ振